

南薩縦貫道（川辺道路）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ

みや の うえ  
宮ノ上遺跡

旧石器時代編

(南九州市川辺町)

2010年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター















## 序 文

この報告書は、主要地方道鹿児島川辺線地域高規格道路南薩縦貫道（川辺道路）整備事業に伴って、平成16年度と17年度に実施した宮ノ上遺跡の発掘調査のうち、旧石器時代の調査成果を報告するものです。

宮ノ上遺跡は、南九州市川辺町に所在し、鳴野原台地上に残る段丘に形成された遺跡です。総数3万5千点以上の旧石器時代の石器が出土し、活発な石器製作が行われたことがわかりました。整理作業では、これらの石器が互いに接合し、石器製作の様子を具体的に知ることができる良好な資料を多数得ることができました。

この接合資料は総数770個体を超え、質・量ともに西日本有数の規模を誇るものであります。

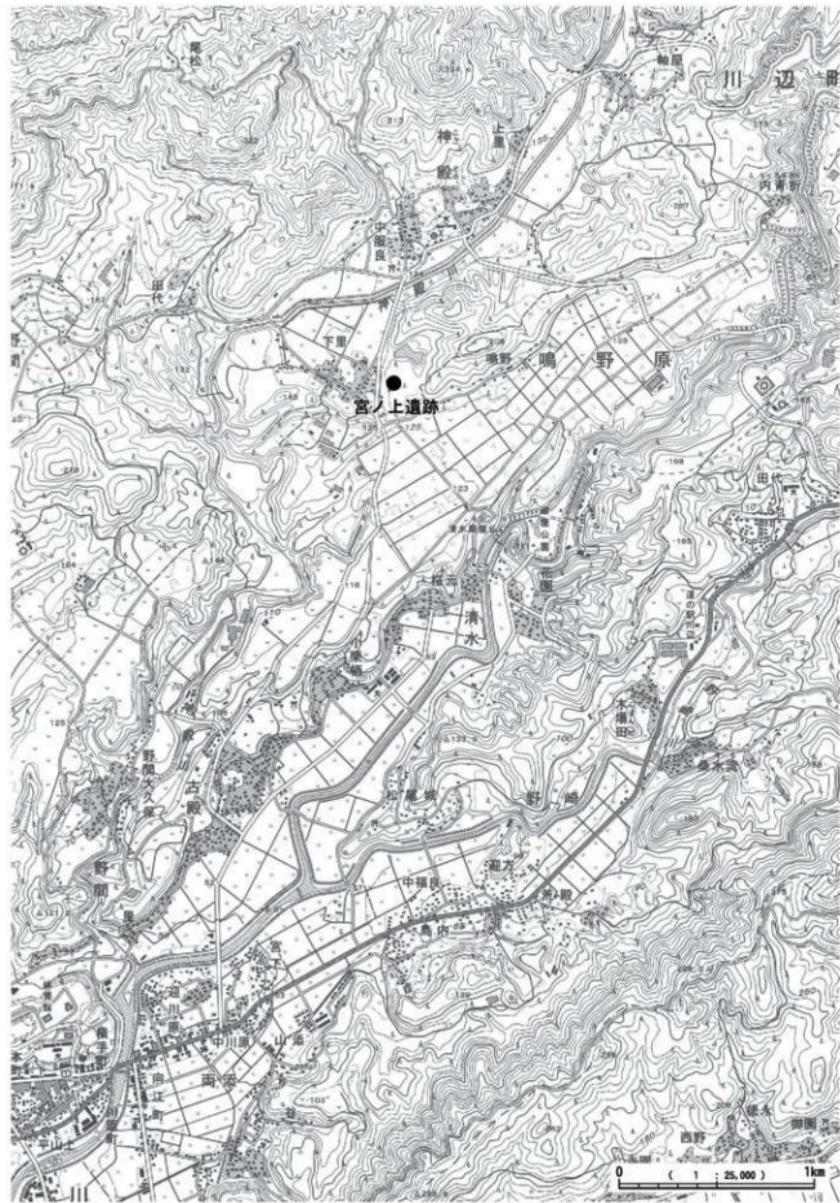
今回の調査により、今後、南九州を舞台とする旧石器時代の人々の活動の一端を、具体的に復元出来る重要な資料を多数得ることができました。

本報告書が、県民の皆様をはじめとする多くの方々に活用され、埋蔵文化財に対する关心とご理解を頂くとともに、文化財の普及・啓発の一助となれば幸いです。

最後に、調査に当たりご協力頂いた南薩地域振興局建設部、南九州市教育委員会、関係機関及び発掘調査に従事されました地域の方々に厚くお礼申し上げます。

平成22年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター  
所長 山下吉美



宮ノ上遺跡の位置図

## 報 告 書 抄 錄

## 例　言

- 1 本書は、主要地方道鹿児島川辺線地域高規格道路南薩縦貫道（川辺道路）整備事業に伴う「宮ノ上遺跡」旧石器時代の発掘調査報告書である。
  - 2 本遺跡は、鹿児島県南九州市川辺町古殿に所在する。
  - 3 発掘調査及び報告書作成（整理作業）は、鹿児島県土木部道路建設課（加世田土木事務所：現南薩地域振興局建設部）から鹿児島県教育委員会が依頼を受け、鹿児島県立埋蔵文化財センターが担当した。
  - 4 発掘調査は、平成16年5月10日から平成17年9月27日まで実施し、整理作業・報告書作成は平成19年度から平成21年度まで実施した。
  - 5 遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、表、図版の番号は一致する。
  - 6 挿図の縮尺は4/5を基本とする。しかし、大型品や接合資料等についてはこの限りではない。  
挿図の縮尺は各図面に示した。
  - 7 本書で用いたレベル数値は南九州地域振興局建設部が提示した工事図面に基づく海拔絶対高である。
  - 8 発掘調査は埋蔵文化財センターの指揮・監督の下に、労務管理、測量等の一部業務を新和技術コンサルタント株式会社に委託した。
  - 9 発掘調査における実測図作成及び写真撮影は調査担当者と新和技術コンサルタント株式会社が共同で行い、実測図作成の一部については株式会社理蔵文化財サポートシステムに委託した。
  - 10 遺構実測図のトレースは、整理作業員の協力を得て馬籠亮道が行った。
  - 11 石器の実測・トレースは整理作業員の協力を得て馬籠亮道が行い、一部を株式会社九州文化財研究所、株式会社パスコ、大成エンジニアリング株式会社に委託した。その監修については馬籠亮道が行った。
  - 12 遺物の写真撮影は、吉岡康弘、西園勝彦、辻明啓が行った。なお、本文中に掲載した接合資料展開写真については馬籠亮道が行った。
  - 13 整理作業・報告書作成にはデジタル技術を導入し、分布図・実測図等の挿図データの作成、デジタル写真処理、編集等の作業は整理作業員の協力を得て馬籠亮道が行った。
  - 14 本書の執筆・編集は、馬籠亮道が行った。
  - 15 遺物は、鹿児島県立埋蔵文化財センターで保管し、展示・活用する予定である。また、本書に使用したデータは鹿児島県埋蔵文化財情報管理システム及び埋蔵文化財情報データベース(<http://www.jomon-no-mori.jp>)で公開する予定である。
- なお、宮ノ上遺跡の遺物注記の略号は「ミヤ」である。

## 本文目次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯	1	第Ⅴ章 第Ⅱ文化層の発掘調査	23
第1節 調査に至るまでの経緯	1	第1節 道構	23
第2節 調査の組織	1	第2節 道物	27
第3節 発掘調査の経緯	2	第3節 接合資料	41
第Ⅱ章 道路の位置と環境	3	第14章 第Ⅲ文化層の発掘調査	73
第1節 位置と環境	3	第1節 道構	73
第2節 歴史的環境	3	第2節 接合資料	147
第3節 岩野原台地周辺の発掘調査	3	第15章 第Ⅳ文化層の調査	371
第Ⅲ章 発掘調査の概要	7	第1節 道構	371
第1節 発掘調査の方法	7	第2節 道物	373
第2節 道路の順序	7	第3節 まとめ	375
第3節 整理作業の方法	10	第1節 石器群の層位の変遷について	375
第Ⅳ章 第Ⅰ文化層の発掘調査	13	第2節 角状石器について	375
第1節 道構	13	第3節 第Ⅲ文化層の剥離技術とブロック形成過程	375
第2節 道物	13	写真図版	

## 挿図目次

第1図 川辺道路位置図	4	第52図 接合資料No7 (2)	49
第2図 川辺道路位置図兼断面図	6	第53図 接合資料No8 (1)	50
第3図 川辺地形およびグリッド配置図	7	第54図 接合資料No8 (2)	51
第4図 基本土層図	8	第55図 接合資料No9 (1)	51
第5図 土層断面図 (1)	9	第56図 接合資料No9 (2)	52
第6図 土層断面図 (2)	9	第57図 接合資料No10 (1)	52
第7図 接合資料の記載方法	11	第58図 接合資料No10 (2)	53
第8図 第Ⅰ文化層全体状況図	13	第59図 接合資料No10 (3)	54
第9図 第Ⅰ文化層道構配置図	14	第60図 接合資料No10 (4)	55
第10図 第Ⅰ文化層道構実測図 (1)	14	第61図 接合資料No10 (5)	56
第11図 第Ⅰ文化層道構実測図 (2)	15	第62図 接合資料No11 (1)	56
第12図 第Ⅰ文化層道構実測図 (3)	16	第63図 接合資料No11 (2)	57
第13図 第Ⅰ文化層出土石器分布図 (1)	16	第64図 接合資料No11 (3)	58
第14図 第Ⅰ文化層出土石器类型図 (1)	17	第65図 接合資料No12 (1)	58
第15図 第Ⅰ文化層出土石器类型図 (2)	18	第66図 接合資料No12 (2)	59
第16図 第Ⅰ文化層出土石器类型図 (3)	19	第67図 接合資料No13 (1)	59
第17図 第Ⅰ文化層出土石器类型図 (4)	20	第68図 接合資料No13 (2)	60
第18図 第Ⅰ文化層出土石器类型図 (5)	21	第69図 接合資料No13 (3)	61
第19図 第Ⅰ文化層出土石器部分図 (2)	22	第70図 接合資料No14 (1)	62
第20図 第Ⅰ文化層出土石器类型図 (6)	22	第71図 接合資料No14 (2)	63
第21図 第Ⅱ文化層全体状況図	23	第72図 接合資料No15 (1)	64
第22図 第Ⅱ文化層道構配置図	24	第73図 接合資料No15 (2)	65
第23図 第Ⅱ文化層道構実測図 (1)	24	第74図 接合資料No16	66
第24図 第Ⅱ文化層道構実測図 (2)	25	第75図 接合資料No17	66
第25図 第Ⅱ文化層道構実測図 (3)	26	第76図 接合資料No18	67
第26図 第Ⅱ文化層第1エリア第2エリア出土石器部分図	27	第77図 接合資料No19	67
第27図 第Ⅱ文化層第1エリア出土石器実測図 (1)	28	第78図 接合資料No20	68
第28図 第Ⅱ文化層第1エリア出土石器実測図 (2)	29	第79図 接合資料No21	69
第29図 第Ⅱ文化層第2エリア出土石器実測図	30	第80図 接合資料No22	69
第30図 第Ⅱ文化層第3エリア出土石器部分図	31	第81図 接合資料No23	69
第31図 第Ⅱ文化層第3エリア出土石器実測図 (1)	31	第82図 接合資料No24	70
第32図 第Ⅱ文化層第3エリア出土石器実測図 (2)	33	第83図 接合資料No25	70
第33図 第Ⅱ文化層第3エリア出土石器実測図 (3)	34	第84図 接合資料No26	70
第34図 第Ⅱ文化層第3エリア出土石器実測図 (4)	35	第85図 接合資料No27	71
第35図 第Ⅱ文化層第3エリア出土石器実測図 (5)	36	第86図 接合資料No28	71
第36図 第Ⅱ文化層第3エリア出土石器実測図 (6)	37	第87図 接合資料No29	71
第37図 第Ⅱ文化層第3エリア出土石器実測図 (7)	38	第88図 接合資料No30	72
第38図 第Ⅱ文化層第3エリア出土石器実測図 (8)	39	第89図 接合資料No31	72
第39図 第Ⅱ文化層第4エリア及びエリニア出土石器実測図	40	第90図 第Ⅲ文化層出土物出土状況図	73
第40図 第Ⅱ文化層第4エリア出土石器部分図	41	第91図 第Ⅲ文化層第1ブロック出土石器部分図	74
第41図 第Ⅱ文化層石器接合状況図	41	第92図 第Ⅲ文化層第1ブロック第1遺物集中部出土石器実測図	74
第42図 接合資料No3 (1)	42	第93図 第Ⅲ文化層第1ブロック第1遺物集中部出土石器実測図 (2)	75
第43図 接合資料No3 (2)	43	第94図 第Ⅲ文化層第1ブロック第2遺物集中部出土石器実測図	76
第44図 接合資料No4 (1)	43	第95図 第Ⅲ文化層第1ブロック第3遺物集中部出土石器実測図	76
第45図 接合資料No4 (2)	44	第96図 第Ⅲ文化層第1ブロック第4遺物集中部出土石器実測図	77
第46図 接合資料No4 (3)	45	第97図 第Ⅲ文化層第2ブロック出土石器分布図	79
第47図 接合資料No5 (1)	45	第98図 第Ⅲ文化層第2ブロック第4遺物集中部出土石器実測図	79
第48図 接合資料No5 (2)	46	第99図 第Ⅲ文化層第2ブロック第5遺物集中部出土石器実測図	80
第49図 接合資料No6 (1)	47	第100図 第Ⅲ文化層第3ブロック出土石器分布図	80
第50図 接合資料No6 (2)	48	第101図 第Ⅲ文化層第3ブロック第6遺物集中部出土石器実測図	80
第51図 接合資料No7 (1)	48	第102図 第Ⅲ文化層第4ブロック出土石器分布図	81

## 挿 図 目 次

## 挿 図 目 次

第239回	複合資料No61 (1)	188	第307回	複合資料No64 (2)	246
第240回	複合資料No61 (2)	189	第308回	複合資料No65	247
第241回	複合資料No62 (1)	190	第309回	複合資料No66 (1)	247
第242回	複合資料No62 (2)	191	第310回	複合資料No66 (2)	248
第243回	複合資料No63	192	第311回	複合資料No66 (3)	249
第244回	複合資料No64	193	第312回	複合資料No66 (4)	250
第245回	複合資料No65 (1)	193	第313回	複合資料No67	251
第246回	複合資料No65 (2)	194	第314回	複合資料No68	251
第247回	複合資料No65 (3)	195	第315回	複合資料No69 (1)	252
第248回	複合資料No65 (4)	196	第316回	複合資料No69 (2)	253
第249回	複合資料No65 (5)	197	第317回	複合資料No69 (3)	254
第250回	複合資料No66 (1)	198	第318回	複合資料No69 (4)	255
第251回	複合資料No66 (2)	199	第319回	複合資料No69 (5)	256
第252回	複合資料No67	200	第320回	複合資料No69 (6)	257
第253回	複合資料No68	200	第321回	複合資料No69 (7)	258
第254回	複合資料No69 (1)	200	第322回	複合資料No69 (8)	259
第255回	複合資料No69 (2)	201	第323回	複合資料No69 (9)	260
第256回	複合資料No69 (3)	202	第324回	複合資料No69 (10)	261
第257回	複合資料No70 (1)	202	第325回	複合資料No69 (11)	262
第258回	複合資料No70 (2)	203	第326回	複合資料No69 (12)	263
第259回	複合資料No71	204	第327回	複合資料No69 (13)	264
第260回	複合資料No72	205	第328回	複合資料No69 (14)	265
第261回	複合資料No73	206	第329回	複合資料No69 (15)	266
第262回	複合資料No74	207	第330回	複合資料No69 (16)	267
第263回	複合資料No75	208	第331回	複合資料No69 (17)	268
第264回	複合資料No76	209	第332回	複合資料No100 (1)	269
第265回	複合資料No77 (1)	210	第333回	複合資料No100 (2)	270
第266回	複合資料No77 (2)	211	第334回	複合資料No100 (3)	271
第267回	複合資料No77 (3)	212	第335回	複合資料No101	272
第268回	複合資料No77 (4)	213	第336回	複合資料No102 (1)	272
第269回	複合資料No77 (5)	214	第337回	複合資料No102 (2)	273
第270回	複合資料No77 (6)	215	第338回	複合資料No103 (1)	274
第271回	複合資料No77 (7)	216	第339回	複合資料No103 (2)	275
第272回	複合資料No78 (1)	216	第340回	複合資料No103 (3)	276
第273回	複合資料No78 (2)	217	第341回	複合資料No103 (4)	277
第274回	複合資料No79	217	第342回	複合資料No103 (5)	278
第275回	複合資料No80 (1)	217	第343回	複合資料No103 (6)	279
第276回	複合資料No80 (2)	218	第344回	複合資料No104 (1)	280
第277回	複合資料No81 (1)	219	第345回	複合資料No104 (2)	281
第278回	複合資料No81 (2)	220	第346回	複合資料No104 (3)	282
第279回	複合資料No81 (3)	221	第347回	複合資料No104 (4)	283
第280回	複合資料No81 (4)	222	第348回	複合資料No104 (5)	284
第281回	複合資料No81 (5)	223	第349回	複合資料No104 (6)	285
第282回	複合資料No81 (6)	224	第350回	複合資料No104 (7)	286
第283回	複合資料No81 (7)	225	第351回	複合資料No105 (1)	287
第284回	複合資料No82	226	第352回	複合資料No105 (2)	288
第285回	複合資料No83	227	第353回	複合資料No105 (3)	289
第286回	複合資料No84	228	第354回	複合資料No105 (4)	290
第287回	複合資料No85	228	第355回	複合資料No106 (1)	290
第288回	複合資料No86	229	第356回	複合資料No106 (2)	291
第289回	複合資料No87	230	第357回	複合資料No107	292
第290回	複合資料No88	230	第358回	複合資料No108 (1)	292
第291回	複合資料No89	230	第359回	複合資料No108 (2)	293
第292回	複合資料No90 (1)	231	第360回	複合資料No108 (3)	294
第293回	複合資料No90 (2)	232	第361回	複合資料No109	295
第294回	複合資料No91 (1)	233	第362回	複合資料No110	296
第295回	複合資料No91 (2)	234	第363回	複合資料No111	296
第296回	複合資料No92 (1)	235	第364回	複合資料No112	297
第297回	複合資料No92 (2)	236	第365回	複合資料No113 (1)	298
第298回	複合資料No92 (3)	237	第366回	複合資料No113 (2)	299
第299回	複合資料No92 (4)	238	第367回	複合資料No114 (1)	299
第300回	複合資料No93 (1)	239	第368回	複合資料No114 (2)	300
第301回	複合資料No93 (2)	240	第369回	複合資料No114 (3)	301
第302回	複合資料No93 (3)	241	第370回	複合資料No115 (1)	302
第303回	複合資料No93 (4)	242	第371回	複合資料No115 (2)	303
第304回	複合資料No93 (5)	243	第372回	複合資料No115 (3)	304
第305回	複合資料No93 (6)	244	第373回	複合資料No115 (4)	305
第306回	複合資料No94 (1)	245	第374回	複合資料No115 (5)	306

## 挿 図 目 次

第375回	接合資料No115 (6)	307	第423回	接合資料No134 (1)	350
第376回	接合資料No116 (1)	308	第424回	接合資料No135 (1)	351
第377回	接合資料No116 (2)	309	第425回	接合資料No135 (2)	352
第378回	接合資料No116 (3)	310	第426回	接合資料No136 (1)	352
第379回	接合資料No117 (1)	311	第427回	接合資料No136 (2)	352
第380回	接合資料No117 (2)	312	第428回	接合資料No136構成断片実測図	353
第381回	接合資料No117 (3)	313	第429回	接合資料No138構成断片実測図	353
第382回	接合資料No118 (1)	314	第430回	接合資料No138構成断片実測図	354
第383回	接合資料No118 (2)	315	第431回	接合資料No140構成断片実測図	355
第384回	接合資料No119 (1)	316	第432回	接合資料No177構成断片実測図 (1)	356
第385回	接合資料No119 (2)	316	第433回	接合資料No177構成断片実測図 (2)	357
第386回	接合資料No120 (1)	317	第434回	接合資料No18構成断片実測図 (1)	357
第387回	接合資料No121 (1)	318	第435回	接合資料No18構成断片実測図 (2)	358
第388回	接合資料No122 (1)	319	第436回	接合資料No19構成断片実測図	359
第389回	接合資料No123 (1)	320	第437回	接合資料No19構成断片実測図 (1)	359
第390回	接合資料No124 (1)	321	第438回	接合資料No19構成断片実測図 (2)	360
第391回	接合資料No124 (2)	322	第439回	接合資料No19構成断片実測図 (1)	361
第392回	接合資料No124 (3)	323	第440回	接合資料No19構成断片実測図 (2)	362
第393回	接合資料No124 (4)	324	第441回	接合資料No19構成断片実測図 (3)	363
第394回	接合資料No124 (5)	325	第442回	接合資料No17構成断片実測図 (4)	364
第395回	接合資料No124 (6)	326	第443回	接合資料No103構成断片実測図 (1)	364
第396回	接合資料No124 (7)	327	第444回	接合資料No103構成断片実測図 (2)	365
第397回	接合資料No125 (1)	328	第445回	接合資料No113構成断片実測図	366
第398回	接合資料No125 (2)	329	第446回	接合資料No114構成断片実測図 (1)	366
第399回	接合資料No125 (3)	330	第447回	接合資料No114構成断片実測図 (2)	367
第400回	接合資料No126 (1)	331	第448回	接合資料No117構成断片実測図	367
第401回	接合資料No126 (2)	332	第449回	接合資料No124構成断片実測図	368
第402回	接合資料No126 (3)	333	第450回	接合資料No125構成断片実測図	369
第403回	接合資料No127 (1)	333	第451回	接合資料No126構成断片実測図 (1)	369
第404回	接合資料No127 (2)	334	第452回	接合資料No126構成断片実測図 (2)	370
第405回	接合資料No127 (3)	335	第453回	接合資料No133構成断片実測図	370
第406回	接合資料No128 (1)	336	第454回	第Ⅴ文化層全体状況図	371
第407回	接合資料No128 (2)	337	第455回	第Ⅴ文化層構配図	371
第408回	接合資料No128 (3)	338	第456回	第Ⅴ文化層遺構配置図 (1)	372
第409回	接合資料No128 (4)	339	第457回	第Ⅴ文化層遺構配置図 (2)	372
第410回	接合資料No129 (1)	340	第458回	第Ⅴ文化層土器実測図 (1)	373
第411回	接合資料No129 (2)	341	第459回	第Ⅴ文化層土器実測図 (2)	374
第412回	接合資料No130 (1)	342	第460回	宮ノ上道路第1文化層・第Ⅲ文化層層位別器種実測図	375
第413回	接合資料No130 (2)	343	第461回	宮ノ上道路第1文化層の剥離技術	376
第414回	接合資料No131 (1)	343	第462回	第Ⅲ文化層解剖工程別・量差別分布図 (1)	378
第415回	接合資料No131 (2)	344	第463回	第Ⅲ文化層解剖工程別・量差別分布図 (2)	380
第416回	接合資料No131 (3)	345	第464回	第Ⅲ文化層解剖工程別・量差別分布図 (3)	382
第417回	接合資料No132 (1)	345	第465回	第Ⅲ文化層解剖工程別・量差別分布図 (4)	384
第418回	接合資料No132 (2)	346			
第419回	接合資料No132 (3)	347			
第420回	接合資料No132 (4)	348			
第421回	接合資料No133 (1)	349			
第422回	接合資料No133 (2)	350			

## 表 目 次

第1表	周辺道路地名表	5	第19表	第Ⅲ文化層第6ブロック出土石器複観表 (2)	98
第2表	基準杭標示一覧表	8	第20表	第Ⅲ文化層第6ブロック出土石器複観表 (3)	99
第3表	宮ノ上道路石柱材標準基準	12	第21表	第Ⅲ文化層第7ブロック出土石器複観表	107
第4表	第Ⅰ文化層出土石器複観表 (1)	17	第22表	第Ⅲ文化層第8ブロック出土石器複観表	110
第5表	第Ⅰ文化層出土石器複観表 (2)	20	第23表	第Ⅲ文化層第9ブロック出土石器複観表	112
第6表	第Ⅱ文化層出土石器複観表 (1)	29	第24表	第Ⅲ文化層第10ブロック出土石器複観表 (1)	114
第7表	第Ⅲ文化層出土石器複観表 (2)	30	第25表	第Ⅲ文化層第10ブロック出土石器複観表 (2)	117
第8表	第Ⅲ文化層出土石器複観表 (3)	31	第26表	第Ⅲ文化層第10ブロック出土石器複観表 (3)	120
第9表	第Ⅲ文化層出土石器複観表 (4)	32	第27表	第Ⅲ文化層第11ブロック出土石器複観表 (1)	123
第10表	第Ⅲ文化層出土石器複観表 (5)	35	第28表	第Ⅲ文化層第11ブロック出土石器複観表 (2)	126
第11表	第Ⅲ文化層出土石器複観表 (6)	38	第29表	第Ⅲ文化層第12ブロック出土石器複観表 (1)	131
第12表	第Ⅲ文化層第1ブロック出土石器複観表 (1)	75	第30表	第Ⅲ文化層第12ブロック出土石器複観表 (2)	136
第13表	第Ⅲ文化層第1ブロック出土石器複観表 (2)	77	第31表	第Ⅲ文化層第12ブロック出土石器複観表 (3)	138
第14表	第Ⅲ文化層第2ブロック出土石器複観表	80	第32表	第Ⅲ文化層第12ブロック出土石器複観表	146
第15表	第Ⅲ文化層第4ブロック出土石器複観表 (1)	81	第33表	第Ⅴ文化層出土石器複観表	274
第16表	第Ⅲ文化層第4ブロック出土石器複観表 (2)	86			
第17表	第Ⅲ文化層第5ブロック出土石器複観表	88			
第18表	第Ⅲ文化層第6ブロック出土石器複観表 (1)	94			

# 第Ⅰ章 発掘調査の経緯

## 第1節 調査に至るまでの経緯

鹿児島県教育委員会は、文化財の保護・活用を図るため、各開発関係機関との間で、事業区域内における文化財の有無及びその取り扱いについて協議し、諸開発との調整を図っている。

この事前協議制に基づき、鹿児島県土木部道路建設課（加世田土木事務所：現南薩地域振興局建設部：以下、道路建設課という）は、主要地方道鹿児島川辺線地域高規格道路南薩縦貫道「川辺道路」を計画し、事業区内の埋蔵文化財の有無について鹿児島県教育文化財課（以下、文化財課という）に照会した。これを受け文化財課は分布調査を行い、事業区内に山神道遺跡、折戸平遺跡、宮ノ上遺跡、堂園遺跡、鳴野原遺跡、古謡訪跡、馬場田遺跡等が所在することが判明した。遺跡の総面積は79,600m<sup>2</sup>が想定された。

この結果を受けて、道路建設課、文化財課、埋蔵文化財センターで協議した結果、上記の遺跡の範囲と性格を把握するために確認調査を実施することとした。調査は埋蔵文化財センターが行うこととした。

なお、馬場田遺跡に関しては、事業区域が町道拡幅工事と重なることから、川辺町（現南九州市）教育委員会が確認調査等を行うこととした。

確認調査は、平成16年2月3日から2月26日まで実施し、宮ノ上遺跡は約2,000m<sup>2</sup>に纏文時代と旧石器時代の遺物が残存することが確認された。

本調査の期間は以下の通りである。

平成16年度

平成16年5月10日から平成16年8月27日

平成17年1月12日から平成17年3月18日（実働90日）

平成17年度

平成17年6月1日から平成17年9月27日（実働61日）

## 第2節 調査の組織

平成15年度 確認調査

事業主体者 鹿児島県土木部道路建設課  
(加世田土木事務所)

調査主体者 鹿児島県教育委員会

調査統括 鹿児島県立埋蔵文化財センター

所長 木原 俊孝

調査企画 次長兼総務課長

田中 文雄

調査課長兼南の纏文調査室長

新東 晃一

主任文化財主事兼第一調査係長

池畠 耕一

主任文化財主事

中村 耕治

主任文化財主事

中村 耕治

文化財主事

元田 順子

\*

岩戸 孝夫

\*

吉岡 康弘

\*

石原田 高広

事務担当 総務係長 平野 浩二

主 事 福山恵一郎

平成16年度 本調査

事業主体者 鹿児島県土木部道路建設課  
(加世田土木事務所)

調査主体者 鹿児島県立埋蔵文化財センター

所長 木原 俊孝

調査企画 次長兼総務課長 賀雅 彰

調査課長兼南の纏文調査室長 新東 晃一

主任文化財主事兼第一調査係長 池畠 耕一

調査担当 文化財主事 日高 正人

\*

森 雄二

事務担当 総務係長 平野 浩二

主 事 福山恵一郎

調査指導

鹿児島大学法文学部助教授 本田 道輝

東京大学大学院人文社会研究科助手 安斎 正人

平成17年度 本調査

事業主体者 鹿児島県土木部道路建設課  
(加世田土木事務所)

調査主体者 鹿児島県立埋蔵文化財センター

所長 上今 常雄

調査企画 次長兼総務課長 有川 昭人

次長兼調査第一課長兼 南の纏文調査室長 新東 晃一

主任文化財主事兼第一調査係長 池畠 耕一

兼南の纏文調査室長補佐 中村 耕治

主任文化財主事 八木澤一郎

事務担当 総務係長 石原田 高広

主 事 平野 浩二

寄井田正秀

調査指導

文化庁美術学芸課考古資料部門文化財調査官

原田 昌幸

鹿児島大学法文学部助教授 本田 道輝

西南学院大学文学部教授 高倉 洋彰

平成19年度 報告書作成

事業主体者 鹿児島県土木部道路建設課  
(南薩地域振興局建設部)

調査主体者 鹿児島県立埋蔵文化財センター

所長 宮原 駿信

作成企画	次長兼総務課長 次長兼南の縄文調査室長 調査第一課長 主任文化財主事兼調査第一課第 一調査係長兼南の縄文調査室長 補佐	平山 彰 新東 是一 池畠 耕一 長野 真一	所長代理 調査協力者 安斎正人、今田秀樹、岩谷史記、鎌田洋昭、岸田裕一、桑波田武志、寒川朋枝、芝原次郎、高野学、日高優子、藤木聰、松本茂、森先一貴、和田るみ子	堀川 一徳
作成担当	主任文化財主事兼調査第一課第 一調査係長兼南の縄文調査室長 補佐	長野 真一		
事務担当	主 査	蒲地 後一		
平成20年度	報告書作成			
事業主体者	鹿児島県土木部道路建設課 (南薩地域振興局建設部)			
調査主体者	鹿児島県教育委員会			
作成統括	鹿児島県立埋蔵文化財センター 所 長	官原 景信		
作成企画	次長兼総務課長 次長兼南の縄文調査室長 調査第一課長 主任文化財主事兼調査第一課第 一調査係長兼南の縄文調査室長 補佐	平山 彰 池畠 耕一 青崎 和恵 長野 真一	平成16年度調査 表土剥ぎ。Ⅱ層～Ⅲ層掘り下げ。遺物取り上げ。 平成16年6月1日(火)～平成16年6月29日(火) Ⅱ層～Ⅲ層掘り下げ。遺物取り上げ。	平成16年5月10日(月)～平成16年5月28日(金)
作成担当	調査第一課長 主任文化財主事兼調査第一課第 一調査係長兼南の縄文調査室長 補佐	青崎 和恵 長野 真一	平成16年7月1日(木)～平成16年7月30日(金) Ⅲ層～V層掘り下げ。遺構実測。遺物取り上げ。	平成16年7月1日(木)～平成16年7月30日(金)
事務担当	主 査	五百路 真	平成16年8月3日(火)～平成16年8月27日(金) VI層～Ⅷ層掘り下げ。 B.C.4～9区土坑検出。C.7～12区土層断面実測。 出土遺物取り上げ。B.C.7～12区地形図作成。 礫群実測。石器製作跡出土。	平成16年8月3日(火)～平成16年8月27日(金)
作成指導	熊本大学文学部准教授	小畠 弘己	平成17年1月12日(月)～平成17年2月25日(金) Ⅸ層～Ⅹ層掘り下げ。各ブロック遺物取り上げ。 平成17年3月1日(火)～平成17年3月18日(金) IX層掘り下げ。ブロック検出状況写真撮影。 石核集中部実測。遺物取り上げ。埋め戻し準備。	平成17年1月12日(月)～平成17年2月25日(金)
平成21年度	報告書作成			
事業主体者	鹿児島県土木部道路建設課 (南薩地域振興局建設部)			
調査主体者	鹿児島県教育委員会			
作成統括	鹿児島県立埋蔵文化財センター 所 長	山下 古美		
作成企画	次長兼総務課長 次長兼南の縄文調査室長 調査第一課長 主任文化財主事兼調査第一課第 一調査係長兼南の縄文調査室長 補佐	齋藤 守重 青崎 和恵 中村 耕治 井ノ上秀文	平成17年度調査 平成17年6月1日(水)～平成17年6月28日(火) 調査準備。被覆土の剥ぎ取り。2mメッシュ釘打ち。 IX層～X層掘り下げ。X I層上面地形図作成。 遺構等実測。下層確認。	平成17年6月1日(水)～平成17年6月28日(火)
作成担当	主任文化財主事兼調査第一課第 一調査係長兼南の縄文調査室長 補佐	井ノ上秀文	平成17年7月1日(金)～平成17年7月28日(木) IX層～X I層掘り下げ。遺物取り上げ。 シルト質頁岩ブロック実測。礫群実測・写真撮影。 ブロック下石核群実測・写真撮影。地形図測量。	平成17年7月1日(金)～平成17年7月28日(木)
事務担当	主 査	馬籠 亮道	平成17年8月2日(火)～平成17年8月26日(金) IX層～X I層掘り下げ。遺物取り上げ。 IX層ブロック実測。 X I層上面等高線測量。礫群実測・写真撮影。	平成17年8月2日(火)～平成17年8月26日(金)
作成指導	大阪市文化財協会長原調査事務所	森 幸一郎 高崎 智博	平成17年9月1日(木)～平成17年9月27日(火) X I層～X II層掘り下げ。遺物取り上げ。 礫群実測・写真撮影。X II層上面地形図測量。 調査終了準備。	平成17年9月1日(木)～平成17年9月27日(火)

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

### 第1節 位置と環境

宮ノ上遺跡は、鹿児島県南九州市川辺町大字古殿字宮ノ上に所在する。

川辺町は薩摩半島のはば中央部にあり、西側に東シナ海を望み、東側は鍋山等の山塊を境界とし鹿児島市と接している。また、平成19年10月には、近隣の知覧町、頬谷町と合併し、南薩地方の中核都市を目指す南九州市としてスタートした。

本遺跡は、南薩地方最大河川である万之瀬川に流れ込む清水川と神殿川との間の鳴野原台地に位置する。なお、この鳴野原台地上には、堂園遺跡A地点、堂園遺跡B地点、鳴野原遺跡A地点、鳴野原遺跡B地点等の大小の遺跡が存在し、古くから生活条件を満たす良好な環境が形成されていたことを物語っている。

清水川は遺跡の東側を北東から南西方向に走り、溶結凝灰岩や厚く堆積するシラスを深く刻んで段丘崖を形成している。地質構造的には四十万層群を基盤層とし、これらは副産物として石器の材料となる砂岩や頁岩を供給している。加えて、近年の調査では、蛇紋岩の露頭も知られるようになり、縄文時代以降の石器とりわけ磨製石斧の供給源であった可能性が指摘されてきている。その四十万層群の上位を阿多火碎流に起因する溶結凝灰岩が覆い、さらに始良カルデラ起源のシラスが厚く堆積している。そしてこれらの台地は、中小河川の開析により狭小で間断びした南九州特有のヤツデ状の台地を形成している。すなわち、本遺跡の東側を走る清水川が開析した溶結凝灰岩崖に刻まれたのが「清水磨崖仏」である。

### 第2節 歴史的環境

南九州市川辺町内の先史時代及び古代の遺跡は町内全域に分布し、中でも万之瀬川流域や川を眺望できる台地上には密に分布する。

町内最古の遺跡は、後期旧石器時代のナイフ形石器や台形石器、剥片尖頭器等を出土する津フジ遺跡、背野平遺跡、上桑持野遺跡、荻久保遺跡等があり、背野平遺跡ではA-T層上位から7基の礫群が発見され、24,000年前の生活痕跡を知ることができる。本遺跡で主体をなす石器群は上記石器群に後続する時期に属するとみられるが、石材原産地の近傍に位置し原産地遺跡的な性格をもつこと、多量の石器接合資料が得られ石器製作技術やブロック形成過程を具体的に検討可能なことが特に重要である。

縄文時代になると遺跡数も飛躍的に増加し、具体的活動の痕跡を多くの遺跡で見ることが可能となってくる。町内の縄文時代で最も古い縄文時代草創期の遺跡が鷹爪野遺跡で、隆帶土器と共に舟形石器が発見されている。また、その上位では早期の前平式土器が磨製石器と共に8軒の堅穴住居跡を伴って発見されている。小崎遺跡では南下した押型土

器に伴って食糧残滓の貝殻や獸骨が発見され、荒多遺跡・上桑持野遺跡・鳴野原B遺跡等では塞ノ神式土器が主体で遺跡を構成している。万之瀬川沿いの廻り渦遺跡や南田代遺跡、古市遺跡からは曾畠式土器や深浦式土器等の縄文時代前期から中期の遺構・遺物が発見され、時代と共に遺跡の立地が変化していく様相を見る事ができる。次に、田中駆遺跡からは、指宿式土器や市来式土器が多数出土し、貯蔵穴と見られる土坑も造られている。また、2007年川辺町教育委員会発行の答石遺跡の報告書では後期の御領式土器の存在が報じられ、縄文時代のはば全ての遺跡が存在することが分かる。

弥生時代から古墳時代の遺跡に関しては、万之瀬川や神殿川等の河川流域や流域に直結する台地から発見される傾向が見られる。堂山遺跡では弥生前期の、古市遺跡でも同時期の堅穴住居跡が2軒発見されている。弥生中期になると、大型スーパーが進出した寺山遺跡で規模なV字溝が造られ、万之瀬川を見下ろす台地に環濠集落が存在した可能性が高くなっている。この寺山遺跡の環濠集落は、万之瀬川を取り込んで構築された可能性が高い。出土品からは、丹塗り土器等の北九州系土器も含まれ、広範な交流の痕跡が読み取れる。そして、弥生後期から古墳時代前期の集落構造や葬制の様相は、堂園A遺跡と堂園B遺跡で明らかになり、集落は堂園B遺跡で、当時の墓は堂園A遺跡で具体的に見ることができる。さらに堂園B遺跡の堅穴住居跡の中には、鍛冶工房と指摘される特殊な建物跡もあり大いに注目される。

「倭名類聚抄」によると、古代には「加波乃部」と謂じられ河辺郡に属し、稲積・川上の二郡があったとされる。現在の川辺町は、河辺郡川上郷と阿多郡嘉例郷に属していたとされる。

平安時代末期から鎌倉時代中期にかけ、河辺郡は府領社と公領からなる。頭頭は島津忠久が、府領社下司と公領社司には河辺氏の子孫河辺道綱の名が伝えられる。その後、島津忠良の三州統一化により川辺も直轄地として組み込まれることとなり、平山城・松尾城・山石城等の乱立する詰城がその緊張した時代背景を伝えている。

鹿児島県の史跡に指定されている「清水磨崖仏群」は、清水川の右岸の溶結凝灰岩崖に刻まれている。凝灰岩崖は高さ20mに達し、総延長400m間に192体の梵字・五輪塔・宝瓶印塔が確認され、その造営は平安時代から明治時代の長い間連続と行われたとされる。

旧川辺町は、現在支所等の行政機関が集中する平山地区を中心に置くが、磨崖仏群が造立された創建当初は「岩屋」に、鎌倉期から室町期にかけては清水から古殿・神殿が中心であったと伝えられている。

### 第3節 鳴野原台地周辺の発掘調査

鳴野原台地及びその周辺では、川辺道路建設に伴い計9遺跡の調査が行われた。



第1図 周辺遺跡位置図

折戸平遺跡、山神迫遺跡については確認調査で遺構や遺物が発見されなかったため本調査は行われていない。

宮ノ上遺跡は台地から一段上の段丘上に位置し、旧石器時代～縄文時代の遺物が多く出土した。旧石器時代ではナイフ形石器文化期後半期を中心に、充実した資料が得られている。縄文時代以降の調査成果については今後も整理作業を継続する予定であるが、縄文時代後期前半の土器群を中心に多量の遺物が出土している。

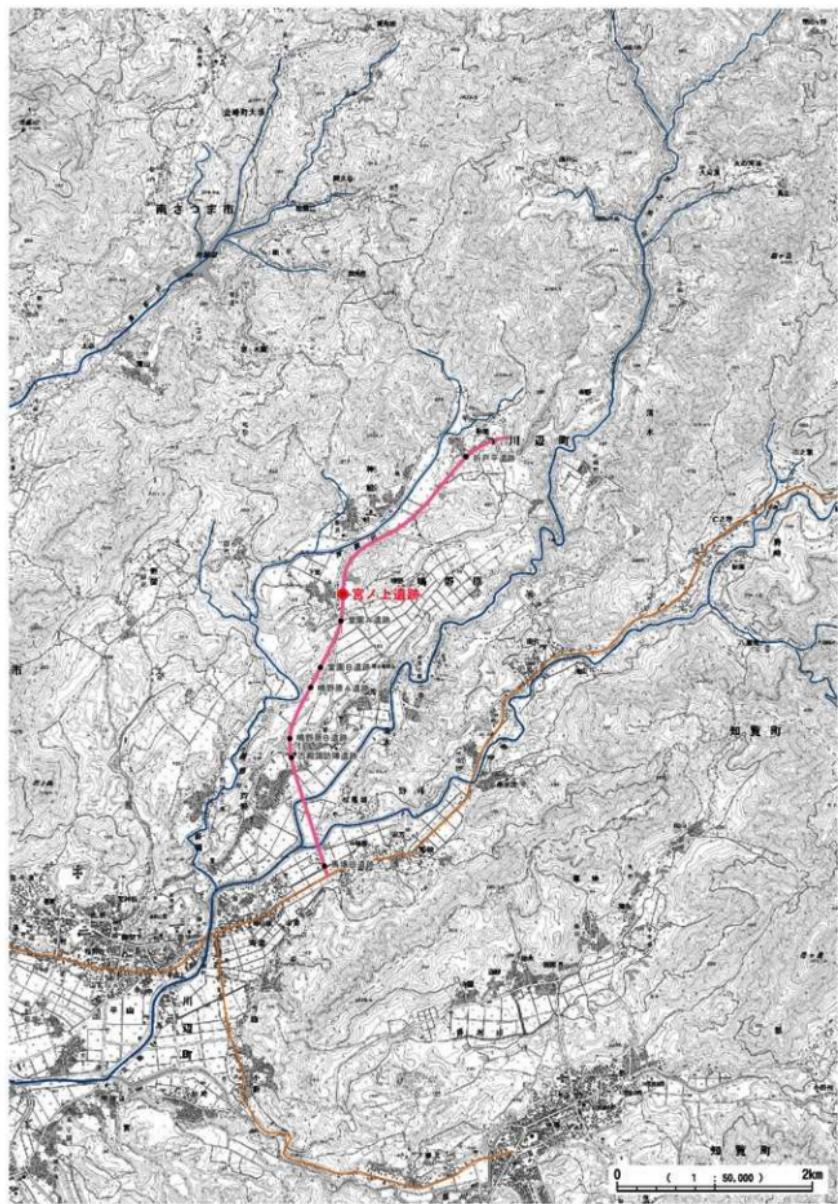
堂園遺跡は、南北に2つの調査区が設定され、北側をA地点、南側をB地点として調査が行われた。

堂園遺跡A地点は弥生時代中期から古墳時代初期にかけての土坑墓が64基検出され、県内では類例の少ない時期の土坑墓群として注目される。

堂園遺跡B地点は弥生時代～古墳時代の堅穴住居跡が25軒検出され、弥生時代後期後半から古墳時代初期にかけての集落跡が発見されたことが注目される。この中には南九州特有の花弁形住居が12軒含まれる。從来、花弁形住居は薩摩半島では検出例が少なかったが、この例を含めて近年出土例が増加しており、本道路例も薩摩半島中部の事例として重要な資料である。

第1表 周辺遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
1	平野上	川辺町御所野上	台地	古墳	鹿川式	
2	山岸下	川辺町御所野岸下	台地	古墳	鹿川式	
3	山岸沿	川辺町御所野岸沿	台地	古墳	鹿川式	
4	上五箇田	川辺町御所野五箇田	台地	古墳	鹿川式	
5	前戸平	川辺町御所野戸平	台地	縄文	鐵笠土器	
6	高船	川辺町御所野船	台地	弥生	青色片狀石器	組名「土ノ段中段」「地ノ段」を伴合
7	高船山	川辺町御所野内高船	山腹斜面	縄文(早期)	黒石,赤平式	
8	内高船	川辺町御所野内青船	台地	古墳	鹿川式	
9	前久保	川辺町御所野久保	台地	田石跡,鶴文(早期)	ナイフ形石器,吉田式,板平式石器式	
10	中之平	川辺町御所野中之平	台地	古墳	鹿川式	
11	内蟹田或越路	川辺町御所野ノ谷	台地	平安～中世		
12	上ノ原	川辺町御所野ノ原	台地	古墳	鹿川式	
13	御所野上	川辺町御所野上	盆地	古墳	鹿川式	
14	法輪原	川辺町御所野法輪原	台地	縄文,弥生	青色片狀石器	
15	大庭	川辺町御所野大庭	山腹	縄文	土器片散布	消失
16	宮ノ上	川辺町御所野ノ上	丘陵	田石房,鐵笠土器,縄文(中期)	ナイフ形石器,磨石刀柄,青色片狀石器	本報合書
17	堂園	川辺町博野	台地	縄文(中期),古墳(中期),古墳(後期)	黒石,青石,灰瓦,火葬,漆器,深衣式,海螺式,葉冠式,葉冠式,山ノ口式,馬頭式,松木筒式,中津井式,土器器,鹿跡	鹿川式(1986),鹿川式(1987),鹿川式(1988)
18	昭野原	川辺町御所野昭野原	台地	縄文(早期)	石臼,石器,ノヘ式,石頭,漆器石器,磨石,砾石	鹿川式(147)
19	中原	川辺町御所野中原	台地	古墳	鹿川式	
20	桜原	川辺町御所野桜原	台地	古墳	鹿川式	
21	風連	川辺町御所野風連	台地	縄文	土器片散布	平成12年度調査
22	新葛木・追	川辺町御所野葛木・追	台地	弥生	土器片散布	
23	尾立	川辺町御所野尾立	台地	弥生	青色片狀石器	
24	田代	川辺町御所野代	山腹斜面	縄文(早期)	青平式	
25	稻葉	川辺町御所野稻葉	山腹斜面	縄文,古墳,古代	縄文土器,鹿川式,縄文器	
26	東・西	川辺町御所野東・西	台地	縄文		
27	木幡田	川辺町御所野木幡田	台地	鹿川式		
28	東保佐野	川辺町御所野東保佐野	丘陵	縄文(早期)	縄文	
29	御朝寺跡	川辺町御所野御朝寺	台地	鹿川式		
30	桜塚場	川辺町御所野桜塚場	台地	古墳～中世(津豪)	鹿川式,青石,白磁	
31	川辺町尾根跡	川辺町御所野小妻地	台地	中世		
32	宝光寺跡	川辺町御所野千草	山腹斜面	中世(津豪)～五世	鐵石一握,鹿存	川辺町教育委員会(令33)
33	北中橋	川辺町御所野北中橋	台地	平安～中世(津豪)	土器器,青磁,白磁	
34	古御所跡御跡	川辺町御所野古御跡	台地	古墳,古代,中世	鹿川式,土器器,須彌器,青磁,白磁,米村	鹿川式(108)
35	伝尾瀬跡	川辺町御所野尾瀬	台地	中世(津豪)	空瓶,赤輪	
36	野城跡	川辺町御所野城	台地	中世		
37	高塚	川辺町御所野高塚	台地	中世		鹿丸町教育委員会(1)
38	大田塚	川辺町御所野大田塚	台地	縄文(中期)	青安式	
39	新里	川辺町御所野新里	台地	縄文～古墳		
40	野間跡之尾城跡	川辺町御所野野間跡之尾	台地	中世		
41	平山跡	川辺町御所野平山跡	河岸段丘	中世(津豪)	青磁,米村	川辺町教育委員会(1)
42	野間跡	川辺町御所野野間跡	山腹斜面	中世	空瓶	
43	折石跡	川辺町御所野折石	山腹斜面	中世?	字名	
44	山城跡	川辺町御所野山城	台地	古代?		



第2図 川辺道路関連遺跡位置図

## 第Ⅲ章 発掘調査の概要

### 第1節 発掘調査の方法

宮ノ上遺跡の本発掘調査は、平成16年度と平成17年度の合計3次にわたり、合計2,000m<sup>2</sup>を対象として行われた。調査地は鳴野原台地上の神殿下里集落に面する丘陵地の西側斜面に位置し、旧地は山林、果樹園等に利用されていた。

本調査に当たっては、表土を重機で除去した後、10mグリッドを設定してⅢ層以下を人力によって掘り下げた。ただし、包含層が確認されなかった部分や無遺物層については、重機を使用して掘り下げを行った。旧石器時代の包含層はⅢ層以下に相当する。この層準では10mグリッドに沿って2mグリッドを設定して調査を行った。

グリッドの設定にあたっては、基本グリッド間隔を10mとし、工事用センター杭No.170を基点に工事用センター杭No.177を視準した線をグリッドの基軸とした。測量座標の取り扱いについては、発掘調査では国土座標によって測量作業が進められたが、本報告書では整理作業の都合上、グリッドに基づく任意座標系に変換した（第3節参照）。任意座標系はA-I杭を原点として縱軸をX、横軸をYとした。

なお、工事用センター杭No.170の国土座標はX=-174809.852,Y=-55248.550であり、任意座標はX=10.000,Y=0.000である。また、工事用センター杭No.177の国土座標はX=-174949.726,Y=-55254.077であり、任意座標はX=10.000,Y=139.984である。第3図にグリッド配置を、第2表に基準杭の座標を示した。



第3図 周辺地形およびグリッド配置

### 第2節 遺跡の層序

層序については南産地方の層序と基本的に同じであるが、旧石器時代包含層については、宮ノ上遺跡特有のものである。以下に、各層の特徴を示す。

I層：表土

II層：黒色土。縄文時代～中世の遺物包含層である。

III層：黄茶褐色火山灰土。6,400年前の鬼界カルデラ起源の火山灰で通称アカホヤと呼称される。宮ノ上遺跡においては、二次堆積中に開聞岳起源のコラがブロック状に認められたが、どの時代の爆発かは確認できなかった。

IV層：暗褐色硬質土。固く締まった土層である。

V層：黒褐色硬質土。層内にバミスを含む。縄文時代早期の遺物が含まれる。

VI層：黄褐色火山灰層。層の下部は軽石状を呈する。11,500年前の桜島起源の薩摩火山灰層に比定される。

VII層：暗赤褐色土層。旧石器時代～縄文時代草創期の遺物包含層である。

VIII層：暗茶褐色粘質土層。旧石器時代の遺物包含層である。

IX層：褐色シルト質土層。旧石器時代の石器製作跡が検出された。

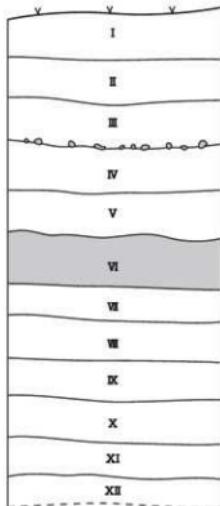
X層：にぶい赤褐色粘質土層

XI層：にぶい赤褐色シルト質土層

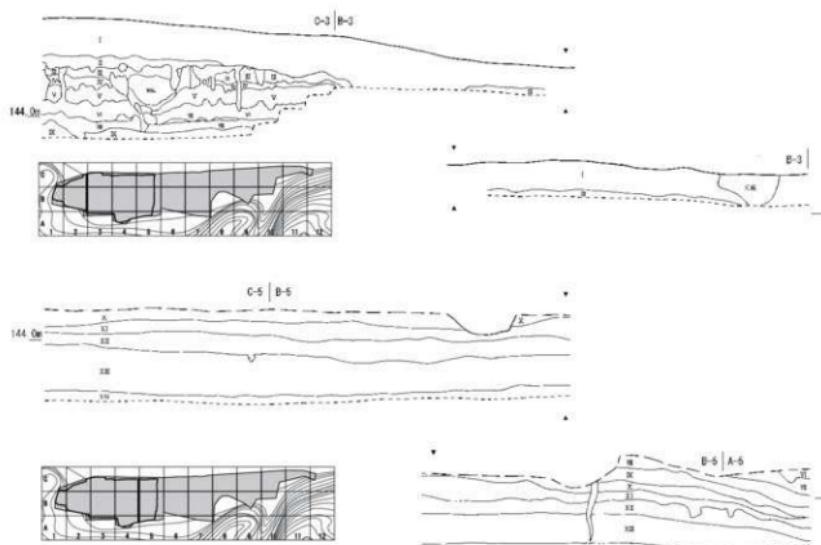
XII層：燈茶褐色石混じりシルト質土層

第2表 基準杭座標一覽表

点名	点名X座標	点名Y座標	仕事X座標	仕事Y座標	備考
No170	174095.862	55248.550	10.000	0.000	位置基準点
No177	174049.726	55254.077	10.000	139.984	位置基準点
A-1	174095.457	55258.542	0.000	0.000	位置基準点
A-13	174929.363	55265.280	0.000	120.000	

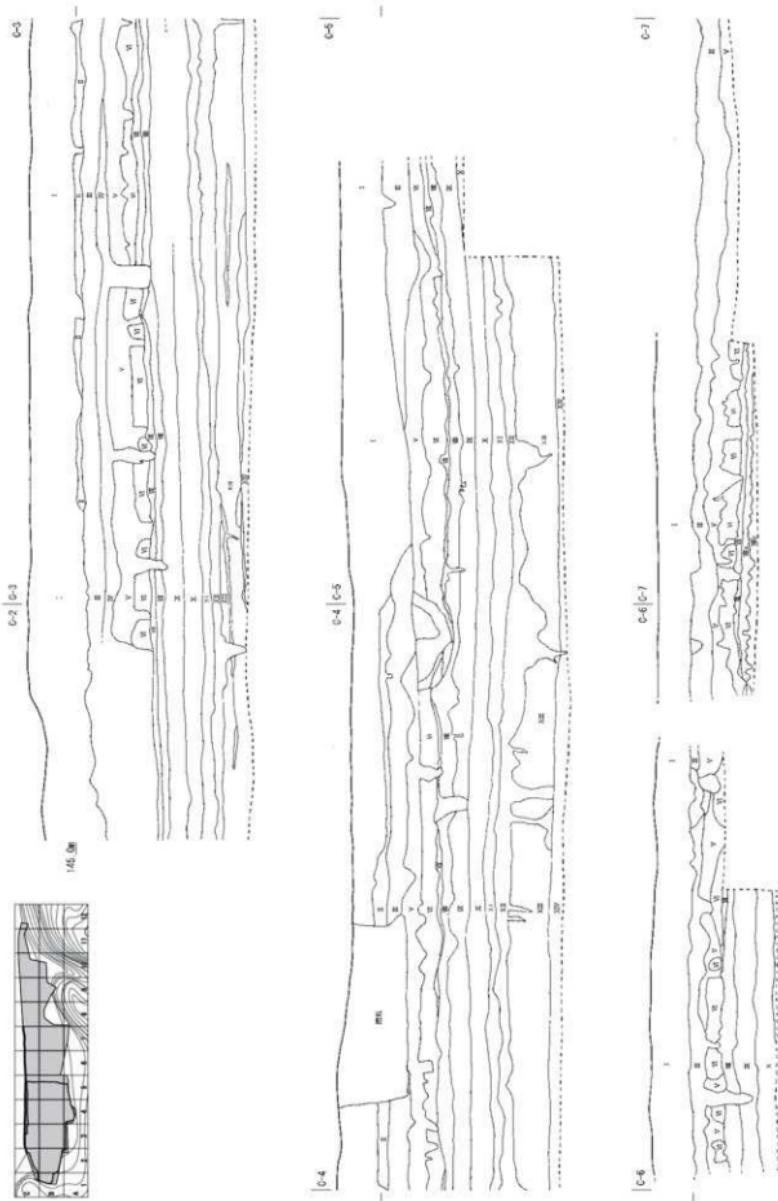


第4図 基本土層図



第5図 土層断面図（1）

第6図 土層断面図(2)



### 第3節 整理作業の方法

宮ノ上遺跡では、概ね次のような作業手順により整理作業を進めた。

平成16年度・平成17年度

#### (1) 水洗

遺物の水洗は主として発掘調査現場で行った。なお、微細剥離等の認定を確実に行うため、水洗は超音波洗浄機を使用して行った。

発掘調査現場では乾燥後遺物カードと共に袋詰めまでの作業を行い、以降の作業は発掘作業終了後に埋蔵文化財センターで行った。

平成19年度～平成21年度

平成19年度は遺物の一次選別と実測遺物の選定、実測委託、注記、接合作業を中心に行なった。

なお、石材分類については、第3表に示した基準に基づき、肉眼的特徴による分類を行った。

分類基準は、仁田尾中A・B遺跡基準をベースに、頁岩類について細分基準を変更した。これは、宮ノ上頁岩原産地の発見と原産地資料、宮ノ上遺跡の接合資料等により新たに分類基準の検討が可能になったことによる。

#### (1) 一次選別

一次選別では、作業を①実測遺物の選抜、②剥片分類、③碎片分類、④礫分類に区分し選別を行なった。なお、作業にあたっては次の事項に留意した。

##### ①実測遺物選別

実測遺物の選別にあたっては、石材原産地に立地し、かつ多くの石器製作跡が検出された遺跡の特性を考慮し、製品のみでなく石核、製品素材となりうる剥片等についても重点的に選別を行なった。また、剥片等の観察に際しては、二次加工だけでなく微細剥離等の有無にも十分注意しながら作業を行なった。

##### ②剥片分類

石材分類を行なった。ただし、ここでの分類はOB,SH等の大分類レベルに止め、二次選別以降の段階で細分を行なった。

##### ③碎片分類

碎片については、概ね径5mm以下の小片を中心に選別した。なお、径5mmを越える場合であっても、ブロック状の碎片、風化部分等については径7mm程度までを碎片に区分した。

##### ④礫分類

礫については石材、サイズ等を考慮しながら被熱破碎礫、自然礫等に区分した。なお、ハンマー等の石器類については実測遺物に区分した。

#### (2) 二次選別

二次選別段階では、概ね次のような作業を行なった。

##### ①実測遺物選別

一次選別において選抜した遺物を細かく観察し、実測が必要と判断した遺物について実測番号([S]+3桁)を付与し、取上番号、出土区、層位、分類、石材等を実測遺物管理台帳に記載した。また、この段階で重量計測を行なった。

##### ②剥片分類

石材分類の確認と細分を行なった。ただし、ここでは分類をOB1,CC2,SH2,HF3等の中分類レベルに止めた。

##### 分類後、データ入力を行った。

なお、本遺跡では接合作業が確実に必要と判断されたため、剥片についてはすぐに注記作業へ移行した。

##### ③碎片分類

碎片についても二次選別に併せて分類や石材の最終確認を行なった。確認終了後はバンケースに収納し、データ入力を行った。

##### ④礫分類等

被熱破碎礫については石材や重量など必要なデータの記録を行なった。

#### (3) 座標データ処理

宮ノ上遺跡では、発掘調査の一部民間委託により、成果品として遺物出土位置座標や遺構測点などが座標データとして納品された。

座標データの処理はこれらの納品済データを基にして行った。なお、使用する座標系についてはグリッド配置図に準じて、座標データをC-1区北隅を原点とする任意座標系に変換して使用した。また変換結果を元に分布図を作成し、国土座標ベースのものと比較して齟齬がないことを確認した。

座標データの処理に併せ、層位、グリッド、取上日等のデータについても発掘調査時のデータを基に確認・統合を行なった。特に、グリッドについては座標値との整合性を確保する観点から、座標値に基づく再判定を実施した。このため、注記と観察表に表示されるグリッドは異なる場合がある。なお、発掘調査時の記載情報は備考欄に転載した。

これらの座標データは、"遺物座標DB"としてExcel形式で保存した。

#### (4) 分布図作成

処理した座標値を基に、層位別の総点ドットを作成した。

宮ノ上遺跡の旧石器時代石器群は概ねⅥ層～XⅡ層に相当し、中でもIX層～X層にピークがあることが発掘現場での所見により判明していたが、これを分布図でも確認し、整理作業の進め方を検討した。

#### (5) 注記

接合作業の対象となる剥片等について、注記作業を行なった。非実測遺物については原則として白のポスター色で遺跡記号、グリッド、層位、取上Noを記載し、実測遺物については黄色のポスター色で実測Noのみを記載することとした。

## (6) 接合作業準備

発掘現場では互層-X層出土遺物を中心に、概ね十数か所のブロックが認定された。

この成果を踏まえ整理作業では座標データを基に分布図を作成した。その結果、現場で認定されたブロックは平面的に60か所程度の集中部にさらに細分できることが判明した。

そこで、接合をより効率的に進める観点から図面上で接合作業のための集中部認定を行い、各集中部毎の取上Noリストを作成して各集中部毎に遺物をまとめ接合作業を進めることした。

## (7) 接合作業

接合作業は、各集中部内での非実測遺物の接合から順次開始した。実測遺物についても実測作業が終了したものから順次投入して接合作業を行った。

各集中部内の接合状況を見ながら隣接集中部間接合→同一ブロック内での集中部間接合→隣接ブロック間接合→ブロック間接合と次第に範囲を広げながら接合作業を行った。

この間、母岩別の分類なども繰り返し行い、最終段階では特にブロック間の接合に努めた。

## (8) 接合番号の付与

接合作業がある程度進んだ段階で接合番号を付与し、接合遺物台帳を作成した。同時に剥離順についても観察を行い、剥離順を記号化して台帳に記載した。これらの記載事項は必要に応じてデータ入力を進め、順次内容を更新しながら諸作業の基本情報とし、接合資料毎に記表した(第7図)。

なお、剥離順は同一打面上で連続する剥離について、打面をアルファベット、ひらがな、カタカナの順に、剥離順を数

字で記載した。剥離の前後関係については、接合位置や剥離面の切り合い、打点移動等から前後関係を理解できたものは「→」で、そうでないものは「…」で関係を表記した。

また、一回の打撃でアクションタルに複数の剥離が剥離された場合にはこれらを「+」でつなぎ、括弧まとめて表記した。加えて、剥片等を素材としてさらに剥離が進められる場合があるので、これらも括弧で括り構造化して表記した。

従って、"(A1+A2)→A3→A4→A5→A6→[(A7+A8)…(A9)]→B1"の場合は、次のように解釈される。

A打面では、最初の打撃で(A1+A2)が剥離され、次にA3～A6までが順次剥離される。次に(A7+A8)と(A9)が剥離されるが、これらのブロックは前後に入れ替わる可能性がある。

この場合、記載は剥離順が先に来る可能性の高いものから順に、順序の逆転が複数の剥離に及ぶ場合には順序の逆転が及ぶ範囲を[]で記載している。

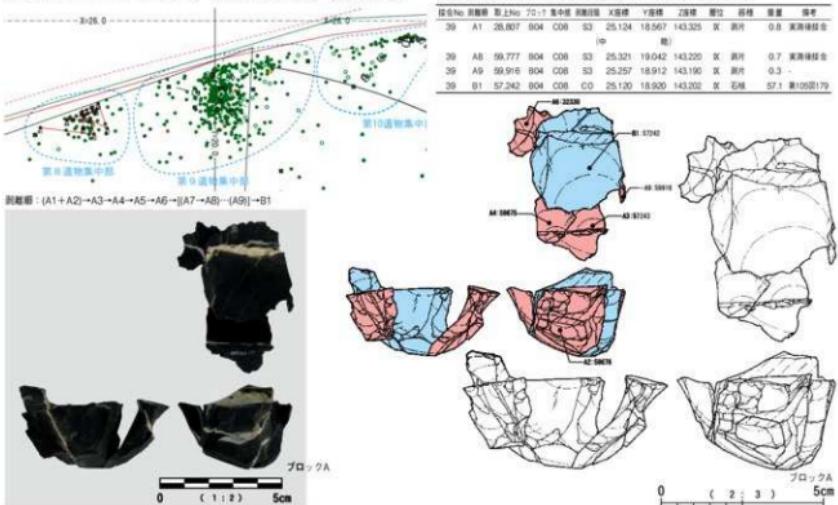
次に、剥離順が"(A1+A2)→A3→[(B1+B2)→B3→C1]→D1"と記載された場合には、まず、A打面の剥離が行われた後、ブロックBCが1回の打撃で剥離され、その後D1が剥離されたと理解する。[]で括られた(B1+B2)からC1までの剥離はブロックBCを素材とする状態で剥離されたことを意味する。

## (9) 実測

実測については、各整理作業年度に外部委託によって行ったものがあるほか、簡易なものについては埋蔵文化財センターで実測作業を行った。製図が終了した図面は順次スキャナーで読み込み、データを蓄積した。

なお、宮ノ上遺跡では実測図作成後も継続して接合作業を行つたため、実測図に記載されていない資料がある。これらは非掲載資料を含め、観察表にID等を記載した。

接合No	直角座標	取上No	70-1	集中部	直角座標	X	Y	Z	面積	厚さ
	(m)				(m)	(m)	(m)	(m)	(m²)	(mm)
38	A1	28.807	804	C08	93	25.124	18.567	143.325	X 路内	0.8 実測接着
						(中)				
39	A8	59.777	804	C08	93	25.321	19.042	143.220	X 路内	0.7 実測接着
39	A9	59.916	804	C08	93	25.257	18.912	143.190	X 路内	0.3 -
39	B1	57.242	804	C08	CO	25.120	18.920	143.203	X 路内	0.7 実測接着



第7図 接合資料の記載方法

### (10) 報告書作成

報告書作成は、デジタル方式で行った。分布図、実測図等の要素を全てデータとして作成し、データ入稿を行うものである。使用した主な機材は、次のとおりである。

デスクトップパソコン (CPU:Core2Duo 3.00GHz)

スキャナ (EPSON ES-10000G)

第3表 宮ノ上遺跡石材分類基準

種	グレード	個体	特	他
黒曜石I型(OB1) ●	不純物を多く含み、基質はほとんど光を透さないものの。			
黒曜石II型(OB2) ●	不純物を多く含み、光を透すものの。			
A群	不純物をややまで、基質は單色～オーリープ色で色を呈するもの。 a. 基質が黒色を呈し、わずかに光を透すものの。 b. 基質がオーリープ色を呈するものの。			
B群	不純物が不均一になり、径約5mm～1mm程度の石英質の不純物を含むもの。基質はオーリープ色を呈するものが多いが、まれにオーリープ色～單色を呈するもの。 a. 基質がオーリープ色を呈し、オーリープ色～暗赤色の混色が発達されるものの。 b. 基質がオーリープ色を呈し、オーリープ色～暗赤色の混色が発達されるものの。基質はガラス光沢がやや強く、流れは網目状を呈するものが多い。 c. 基質が單色を呈し、白い部分の不純物を含むもの。			
C群	不純物が一均で石英質の不純物を多く含み、基質はほとんど光を透さない黒色を呈するもの。			
D群	斑状の状況で不純物を多く含み、基質はオーリープ色を呈するもの。まれに流れが観察される。			
E群	微少な黒色の不純物を多く含むものの、基質はオーリープ色を呈するもの。			
黒曜石II型(OB3) ●	不純物を全く含まないか、わずかに含むものの、オーリープ色を呈するもの。基質にはわずかな白層や流れがみられるものも含む。 a. 自然面が平滑で不純物をほとんど含まないもの。 b. 自然面が粗面で不純物を含むものの。			
B群	不純物を含まないか、わずかに含むものの、オーリープ色、黒色を呈し、A群に比べて透明度がやや低いもの。 a. 基質はオーリープ色を呈するものの、黒色の混色が発達し、全体として黒色。またはオーリープ色に見えるもの。 b. 基質がオーリープ色を呈し、オーリープ色～暗赤色の混色が発達されるものの。 c. 基質の一端または全部が白層を呈するもの。 d. 基質が白層とたんなる白層を呈するもの。所謂の白雲母層。			
C群	不純物をほとんど含まないか、わずかに含むものの、オーリープ色～单色を呈し、透明度がほとんどないもの。 a. 基質の黑色を呈するものの、ガラス光沢をもち、わずかに透明感があるもの。 b. 基質がオーリープ色を呈するものの、石英質の不純物を多く含み、輪状を呈するものが多い。 c. 基質が青色を呈するものの、石英質の不純物を多く含み、輪状を呈するものが多い。			
D群	ラムダック型のガラス光沢を呈し、表面で元気の跡跡を含み、自然面が黒色に変化するもの。			
玉髓I型(CC1) ●	基質の比較的透明度が高く、白色の系の色調を基質とするもの。			
玉髓II型(CC2) ●	基質の透明度が非常に高く、赤褐色の色調を基質とするもの。			
黄岩I型(Sh1) ●	斑状分布に富む、黄岩質、油脂光泽のあるもの。			
A群	白色的の経済資源。			
B群	黒色の経済資源。			
C群	綠色の経済資源。			
黄岩II型(Sh2) ●	質的に分にはやや富むが油脂光泽があり無いもの。			
A群	黄色～茶色の経済資源。			
a.	基質が暗赤色～茶色を呈し、あまり風化しないものの。 1. 白色または暗褐色の混色がわずかに入るもの。 2. 白色または暗褐色の混色が発達するものの。			
b.	基質が明褐色を呈するもの。 1. 白色または暗褐色の混色の整理がわざかに入るもの。 2. 白色または暗褐色の混色の整理が発達するものの。			
c.	基質がやや風化が進んだ茶色を呈し、暗褐色の整理が発達するもの。			
B群	経済的価値が最も高いもの。油脂光泽が発達するもの。(東九州帯)			
黄岩带型(Sh3) ●	斑状分布がほとんどなく、無色透明のもの。透明度が高めで、白い筋で直角のもの。いやゆる硬質黄岩。斑状カルンフルックスを含む。			
A群	基質が暗赤色～暗褐色を呈するものの、斑状は結晶質を呈する。斑状がよくくらういろいもの。 a. 白色の筋が発達するものの。 b. 白色の筋が発達するものの。白の筋が白層を呈するもの。 c. 白色の層が発達するものの。			
B群	基質がベージュ～茶色の色調を呈するものの、斑状のかられない斑状カルンフルックスを含む。(東九州系硬質黄岩)			
C群	基質はやや暗赤色で、白い筋が発達するものの。若干斑状質を含むものもあるが、ほとんどは無だ。表面が白く風化するものもある。【在地系硬質黄岩】 a. 基質が黒色～暗褐色を呈するもの。 b. 明褐色～ベージュ、茶の色調を呈するもの。 c. 白色に風化するもの。			
D群	緑色の色調を基質とし、暗緑色の整理が発達するもの。【仁田尾中白道跡G2E群に対応】			
黄岩IV型(Sh4) ●	シルト質貯藏。			
黄岩V型(Sh5) ●	ややホロがいい、質薄で、整理が発達するものの、一部は結晶質を呈する。 A群 あまり整理が進行せず、基質が青色を呈するもの。 B群 基質は暗赤色～茶色を呈するものの、風化によって表面が白層を呈するもの。 C群 整理が進んでるが粗質のもの。			
ホルンフェルスI型(HF1) ●	あまり整理が発達しないものの、粒状が比較的細かく、やや透疊なものが多い。正岩～黄岩質のもの。			
A群	基質が青色～暗褐色を呈するものの、粗粒。			
B群	基質が暗赤色～暗褐色を呈するものの、粗粒。			
C群	基質が青色に風化したもの。			
ホルンフェルスII型(HF2) ●	やや透疊が進んでるものの、粗粒質のもの。			
A群	基質が青色～暗褐色を呈するものの、粗粒。			
B群	基質が暗赤色～暗褐色を呈するものの、粗粒。			
C群	基質が青色に風化したもの。			
ホルンフェルスⅢ型(HF3) ●	整理が進むるか、粒子が粗いものの、質薄～妙質のもの。			
A群	基質が暗赤色～暗褐色を呈するものの、粗粒。			
B群	基質が暗赤色～ベージュ、茶色を呈するものの、粗粒。			
C群	基質が青色に風化したもの。			
黄岩I型(SA1) ●	細粒の岩。			
研磨I型(SA2) ●	研磨質。			
研磨II型(SA3) ●	研磨質。			
黄岩I型(SA4) ●	黄岩質。			

また、データの処理には次のソフトウェアを使用した。

OS : Microsoft Windows XP

データ等の管理・処理：Microsoft Excel

報告書福集：Adobe InDesign CS3

実測図データ処理、写真処理：Adobe Photoshop CS3

分布図作成、地形図作成等 : Adobe Illustrator CS3

## 第IV章 第I文化層の発掘調査

第I文化層は、X I層を主体に分布する遺物・遺構を主として取り扱う。土壌堆積が薄く上下移動も見られるため自然層位では完全には区分できないが、遺物では器種・石材ごとに検討を行った結果、頁岩IV類を素材とする小型剝片石器類や縦長剝片を素材とする石器群が当文化層に該当する。

遺構はX I層下部で検出されたものをここで取り上げる。

### 第1節 遺構

X I層下部では疊群3基、疊集中部1基を検出した。疊群は疊が散在した状態で検出され掘り込みを伴うものは確認されていないが、疊には被熱によるとみられる赤化や破碎が見られるものが多い。疊集中部は石材や遺物分布との関連から石器製作等に関連する可能性のあるものを取り扱う。

#### 1号疊群

A-B-3区X I層下部で検出された。構成確は約40cm×30cmの範囲に集中し、周囲の疊を含めると約130cm×75cmの範囲に分布する。疊の集中部付近には掘り込み等は確認できなかった。疊は砂岩の亜角疊が多く使用されていた。

#### 2号疊群

B-2区X I層下部で検出された。拳大ほどの砂岩疊21個が約160cm×150cmの範囲に散在した状態で検出された。疊は亜角疊が多く、被熱と考えられる赤化が確認できた。

#### 3号疊群

B-2区X I層下部で検出された。人頭大から拳大ほどの安

山岩疊4個が約250cm×150cmの範囲に散在した状態で検出された。疊は亜角疊が多く、被熱によるとみられる赤化や破碎が確認できた。疊数は少ないものの、検出状況が2号疊群とはほぼ同様であることから、遺構と認定した。

#### 1号疊集中部

B-3区X I層下部で検出された。拳大ほどの疊10個が散在した状態で検出された。掘り込み等は確認できていない。疊の多くは亜角疊で構成されていた。

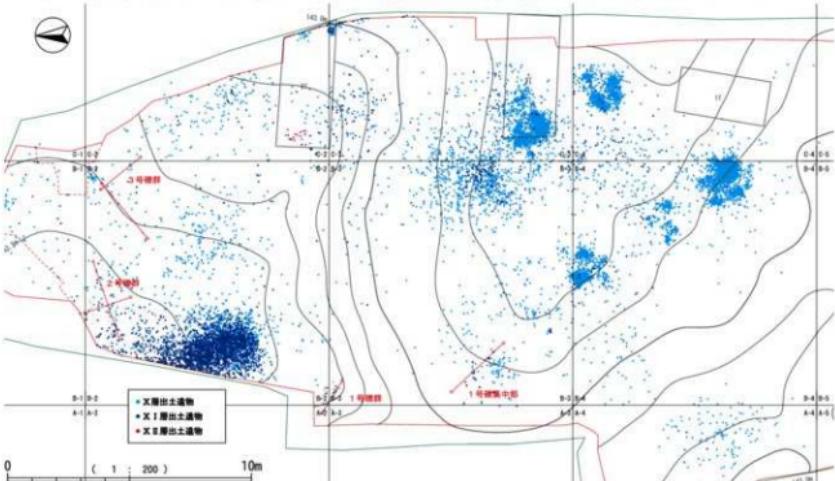
### 第2節 遺物

第I文化層では、大型の縦長剝片を中心とする石器群を一括した。石材は白色緻密なシルト質頁岩(頁岩IV類)と、ホルンフェルスを主体とする。ホルンフェルスは灰褐色を呈しわずかに風化するものと、非常に風化が進み、表面が黒く剥落するものが主体を占め、これに搬入品と考えられるものが客観的に組成される。出土層位はおむねX I層からのもののが多いが、若干の浮き上がりがあるものと考えられる。

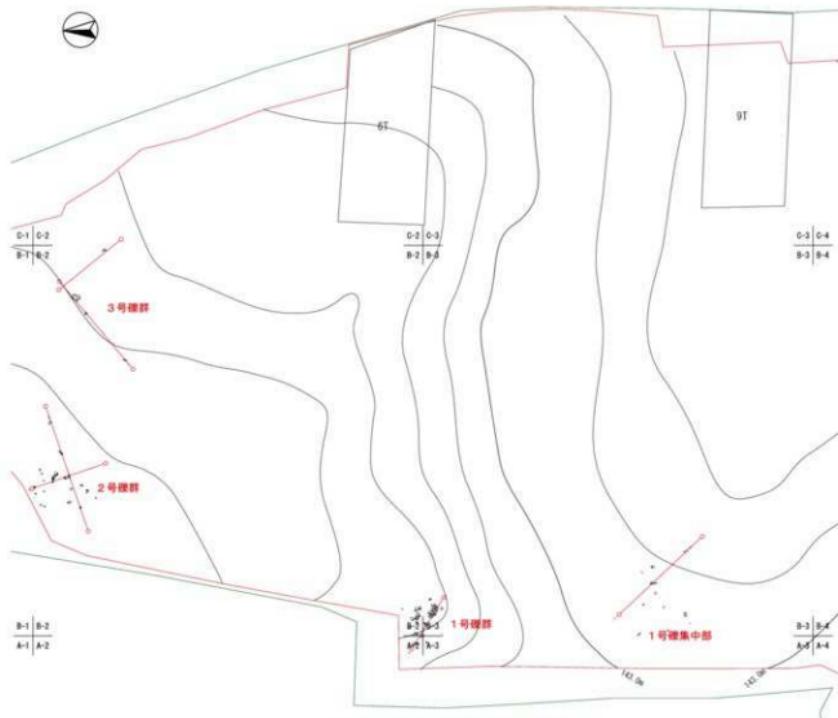
1～7、接合資料No1、接合資料No2は頁岩IV類を素材とするものである。台形石器や削器、縦長剝片のほか、彫器の可能性のある資料を中心とする。

1は台形石器である。小型の不定形剝片を素材とし、頭部側と尾部側から二次加工を加えて製品としている。石材はやや珪質分を帯びる母岩で、類似する資料は他に見られず搬入品の可能性が高い。

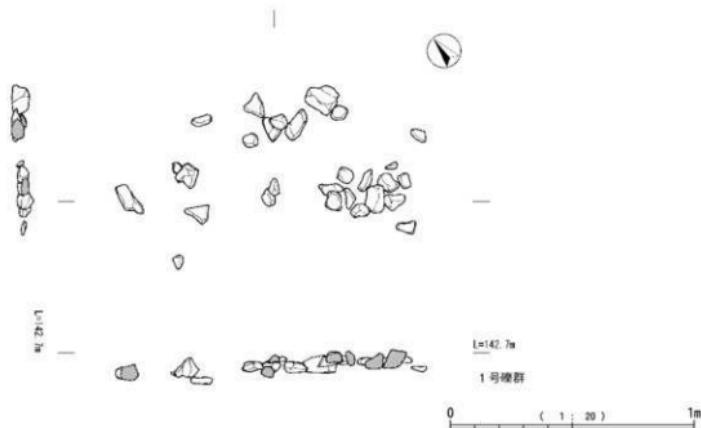
2、3は削器である。いずれも大型の不定形剝片を素材としており、周縁に二次加工を加え製品としている。



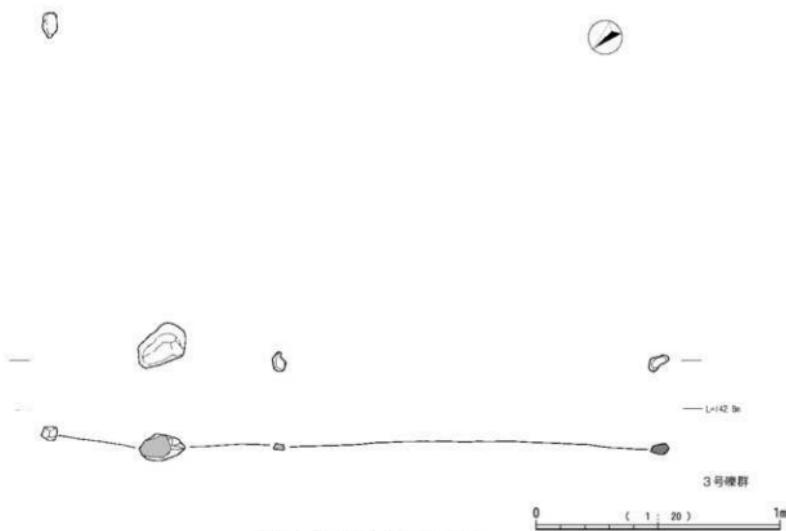
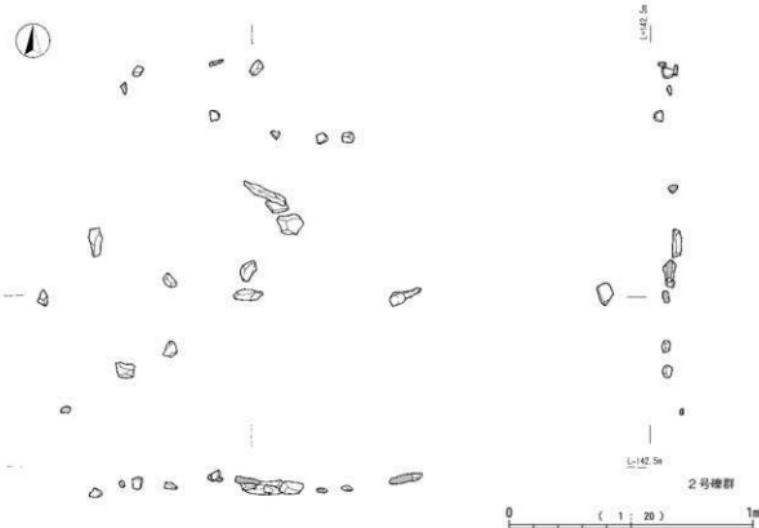
第8図 第I文化層全体状況図



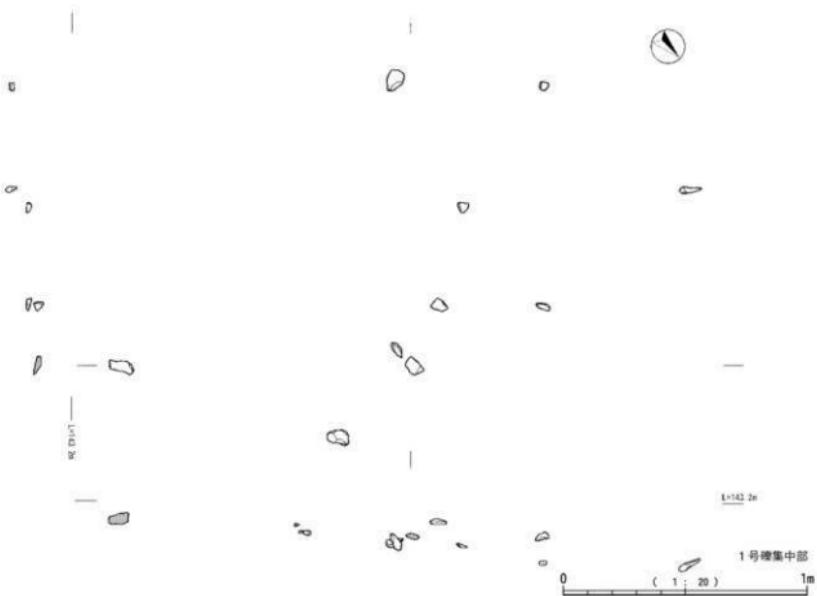
第9図 第I文化層遺構配置図



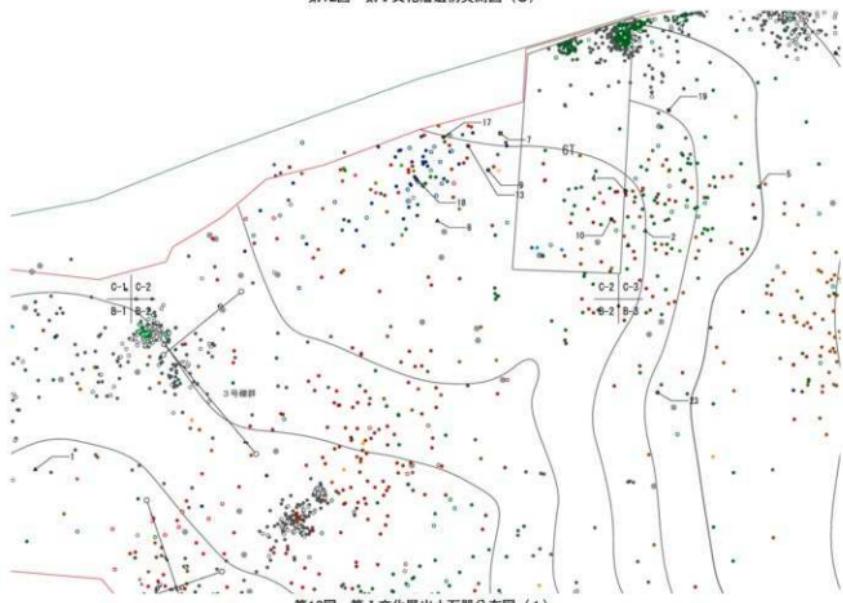
第10図 第I文化層遺構実測図(1)

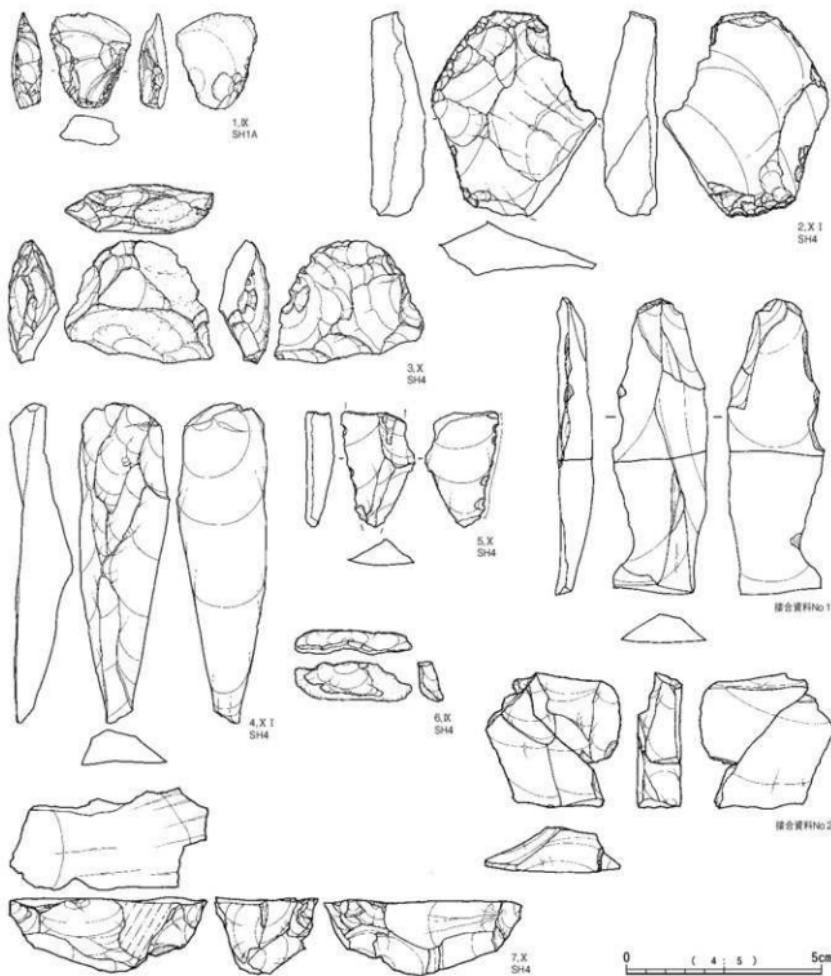


第11図 第I文化層遺構実測図(2)



第12図 第Ⅲ文化層造構実測図(3)

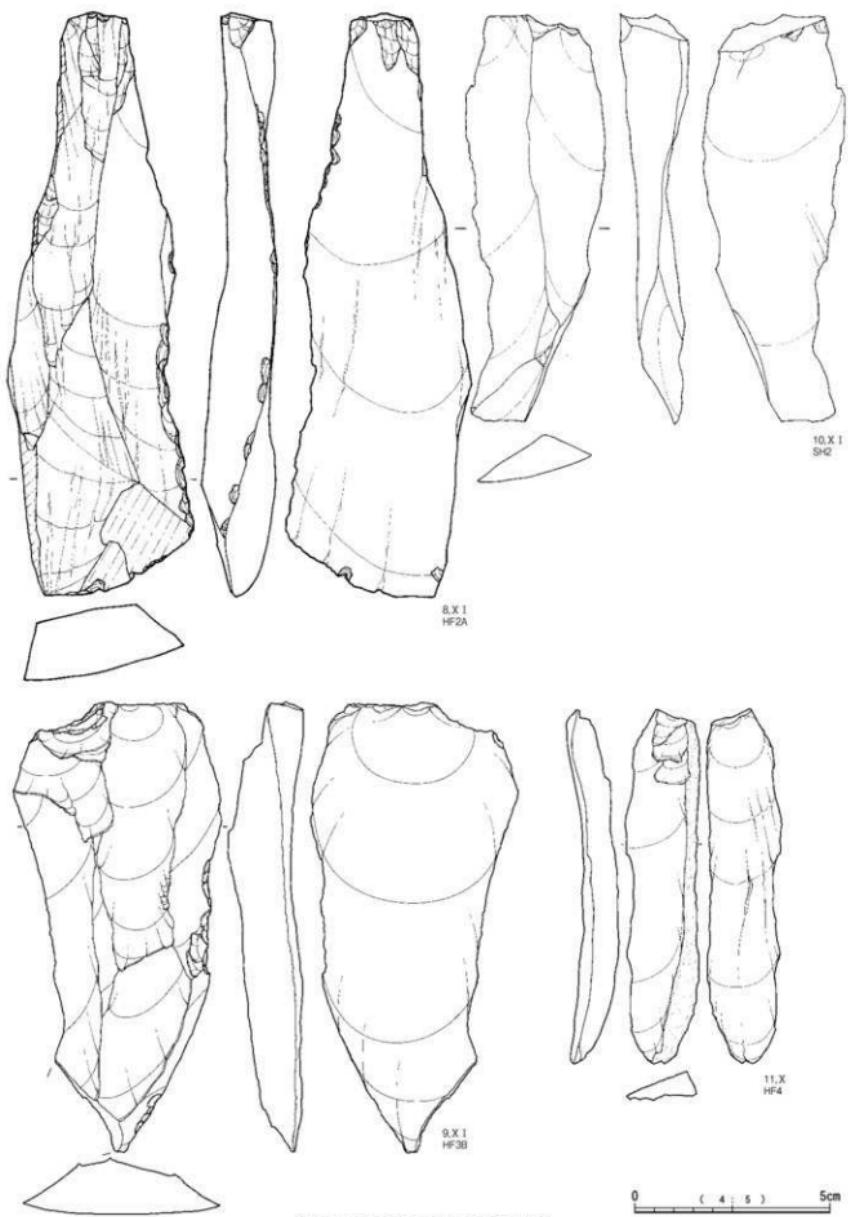




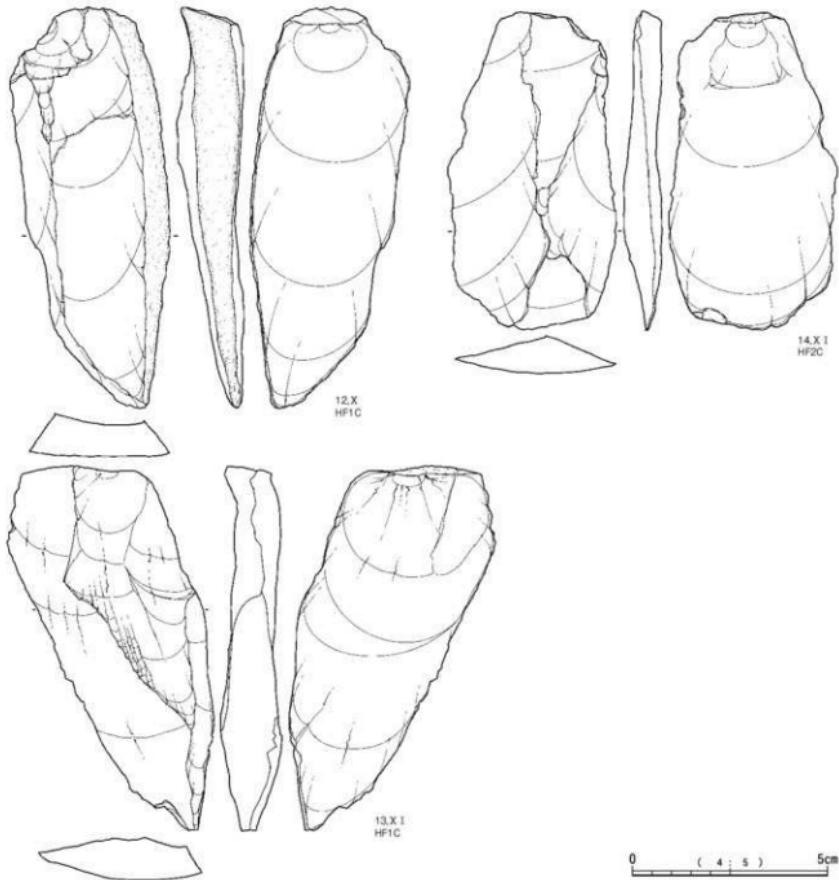
第14図 第Ⅰ文化層出土石器実測図(1)

第4表 第Ⅰ文化層出土石器観察表(1)

標本No.	回上No.	X座標	Y座標	2面標	3面標	4面標	位置	プロック	集中部	分類1	分類2	分類3	EHL1	EHL2	EHL3	最大幅	最大厚	重量	番号
1	42042	16.508	8.033	142.641	B-1	X	-	-	-	刮削石器	-	SH1A	-	白色風化表質	24.1	20.3	7.9	3.56	-
2	57793	21.398	20.549	142.747	C-3	X I	-	-	-	刮削	-	SH4	-	白色風化表質	61.1	41.1	14.4	24.6	-
3	61020	23.997	27.017	143.310	C-3	X	-	-	-	刮削	-	SH4	-	白色風化表質	30.6	37.1	12.9	12.29	-
4	60695	22.207	26.140	142.826	C-3	X I	-	-	-	磨圓片	-	SH4	-	白色風化表質	79.4	22.6	16.4	17.3	-
5	41165	22.300	22.889	143.248	C-3	X	-	-	-	磨圓片	-	SH4	-	白色風化表質	28.9	18.8	7.7	3.04	-
6	60639	25.039	24.453	143.294	C-3	X	-	-	-	磨圓片	-	SH4	-	白色風化表質	10.1	29.2	6.7	1.03	-
7	43064	23.399	17.575	142.621	C-2	X	-	-	-	石核	-	SH4	-	白色風化表質	18.8	49.3	26.4	23.75	-
■No1	22943	21.847	16.733	143.044	C-2	X	-	-	-	磨圓片	-	SH4	-	白色風化表質	62.0	19.2	8.5	8.07	-
■No2	59984	21.661	22.793	143.120	C-3	X	-	-	-	磨圓片	-	SH4	-	白色風化表質	33.8	33.0	11.5	13.9	-
8	43996	20.968	21.256	142.972	C-3	X	-	-	-	磨圓片	-	SH4	-	白色風化表質	-	-	-	-	-
9	45258	21.105	20.196	142.947	C-3	X	-	-	-	磨圓片	-	SH4	-	白色風化表質	-	-	-	-	-



第15図 第Ⅰ文化層出土石器実測図（2）



第16図 第I文化層出土石器実測図(3)

4は綫長剥片である。5も綫長剥片を素材とする微細剝離剥片である。尾部のみの欠損品であるが、左側縁に微細剝離痕が観察される。6は調整剥片である。

7は石核である。大型剥片の主要剥離面を打面として剥片剥離を行っている。

このほか、頁岩IV類を素材とする石器群では、接合資料が2点得られている。

接合資料No1は綫長剥片の接合資料で、左側縁に微細な剥離痕が観察される。接合資料No2は綫長剥片素材の接合資料で、綫長剥片を折断し、切断面から数枚の剥離が行われている。石材が軟らかいため微細剝離痕等の観察は困難であるが、彫器の可能性のある資料である。

8~14はホルンフェルス等を素材とする大型の綫長剥片石

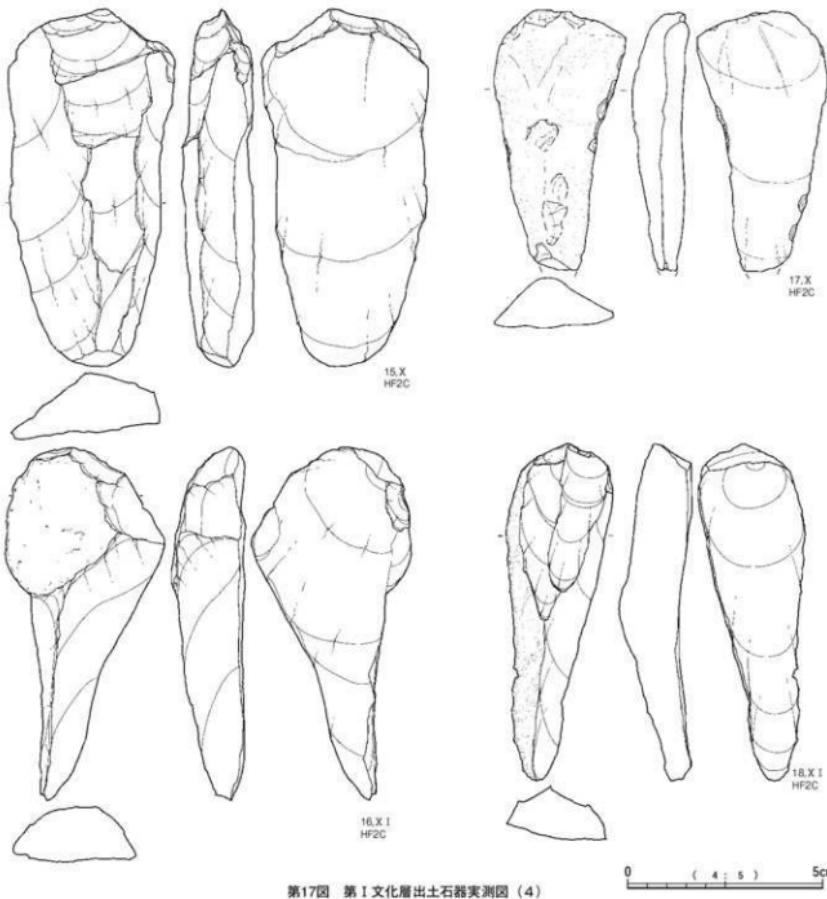
器群である。8は大型の綫長剥片素材の削器である。灰褐色を基調としやや白色に風化する母岩を素材とし、右側縁に簡単な二次加工を施して刃部形成を行っている。

9は褐色に風化し節理が平行にわずかに入る良質な母岩を素材とする。右側縁中部に微細剝離痕が観察される。

10~14は綫長剥片である。10は黒色の頁岩を素材とする。11は比較的小型の資料で黒色の夾雜物を含む特徴的な個体を素材とする。12,13は灰褐色を基調としやや白色に風化する個体を素材とする。これらは同一母岩の可能性が高い。

15~19も白色に脆く風化するホルンフェルスを素材とする綫長剥片である。石材の質的制約によるものか、やや分厚い形状のものが目立つ。21,22も同一母岩と考えられる。

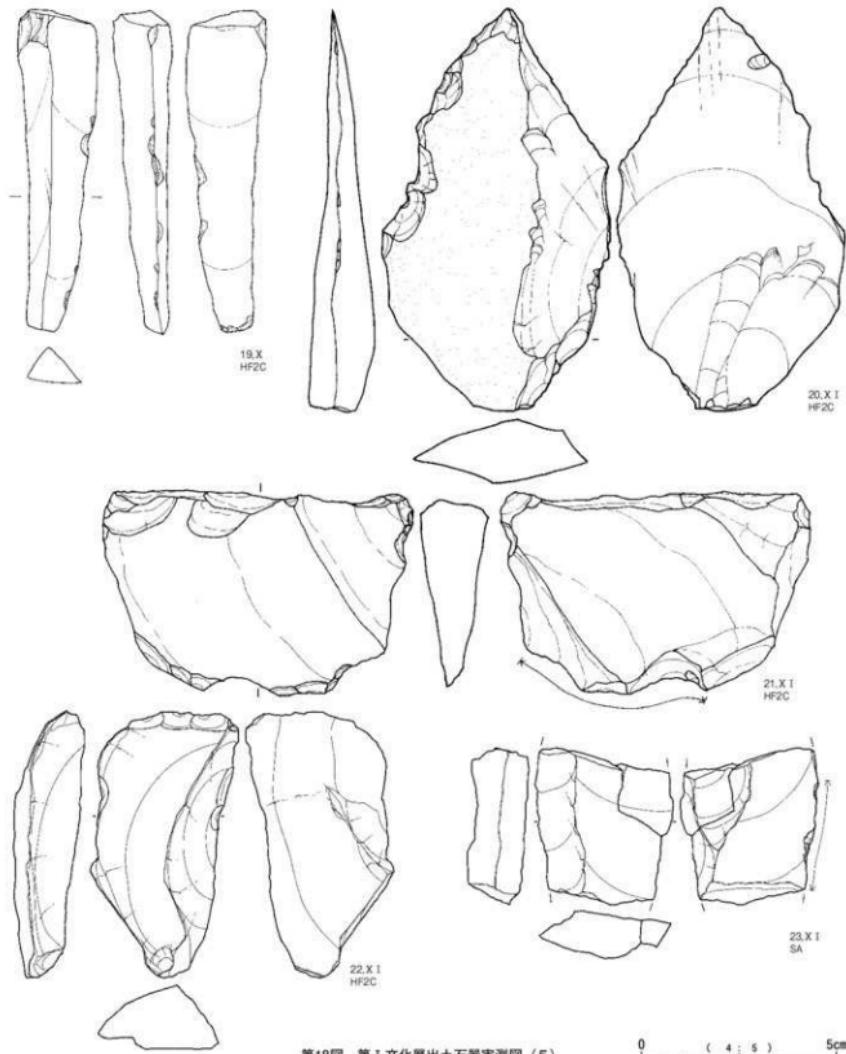
20はやや幅広の綫長の剥片を素材とする削器である。右側



第17図 第I文化層出土石器実測図(4)

第5表 第I文化層出土石器観察表(2)

編目No	形(No)	X座標	Y座標	Z座標	刃長	刃幅	刃厚	刃部Ⅰ	刃部Ⅱ	分類Ⅲ	分類Ⅳ	石核Ⅰ	石核Ⅱ	石核Ⅲ	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考
15	8	43067	21.602	16.283	142.729	C-2	X	-	-	粗面	粗面刮削器	HF2A	b	-	144.5	45.4	19.8	109.33	-
	9	43694	22.644	17.325	142.756	C-2	X	-	-	粗面	粗面刮削器	HF2B	c	-	111.4	51.7	19.8	66.37	-
	10	29954	21.639	19.852	142.732	C-2	-	-	-	粗面前片	粗面刮削器	SH2	-	-	150.3	28.5	17.8	46.09	-
	11	57761	18.729	39.420	143.124	B-4	X	-	-	粗面前片	粗面刮削器	HF4	-	-	88	18.8	13.8	14.66	-
16	12	58631	22.865	26.764	142.624	C-3	X	-	-	粗面前片	粗面刮削器	HF1C	-	-	99.4	39.9	17.6	68.15	-
	13	43245	20.136	16.912	142.744	C-2	X	-	-	粗面前片	粗面刮削器	HF1C	-	-	90.4	51.4	16	52.53	-
	14	60635	18.546	25.005	142.963	B-3	X	-	-	粗面前片	粗面刮削器	HF2C	-	-	78.7	41.9	10.2	28.85	-
	15	60668	10.987	30.716	143.090	B-4	X	-	-	粗面前片	粗面刮削器	HF2C	c	-	86.6	41.6	18.8	70.27	-
17	16	60668	10.049	25.566	142.914	B-3	X	-	-	粗面前片	粗面刮削器	HF2C	c	-	87.4	38.9	19.3	44.93	-
	17	42971	25.320	16.409	142.824	C-2	X	-	-	粗面前片	粗面刮削器	HF2C	c	-	64.6	32.5	14.7	24.56	-
	18	43692	22.457	15.860	142.595	C-2	X	-	-	粗面前片	粗面刮削器	HF2C	c	-	83.5	26.7	19	29.09	-
	19	59271	23.870	21.028	142.945	C-3	-	-	-	粗面前片	粗面刮削器	HF2C	c	-	83	20.6	15.4	21.12	-
18	20	58250	23.548	26.828	142.645	C-3	X	-	-	粗面	粗面刮削器	HF2C	a	-	100	56.8	17.2	69.29	-
	21	60672	11.346	25.873	143.049	B-3	X	-	-	粗面	粗面刮削器	HF2C	c	-	76.9	50.4	18.8	79.72	-
	22	60671	10.798	25.667	143.035	B-3	X	-	-	粗面	粗面刮削器	HF2C	c	-	66.1	37	18.5	35.81	-
	23	60714	15.087	20.798	142.922	B-3	X	-	-	粗面前片	粗面刮削器	SA	-	-	39.1	34.5	16.1	20.52	-
20	24	60676	12.169	26.769	143.089	B-3	X	-	-	粗面	粗面刮削器	HF1	c	-	69.3	107.3	31	202.66	-



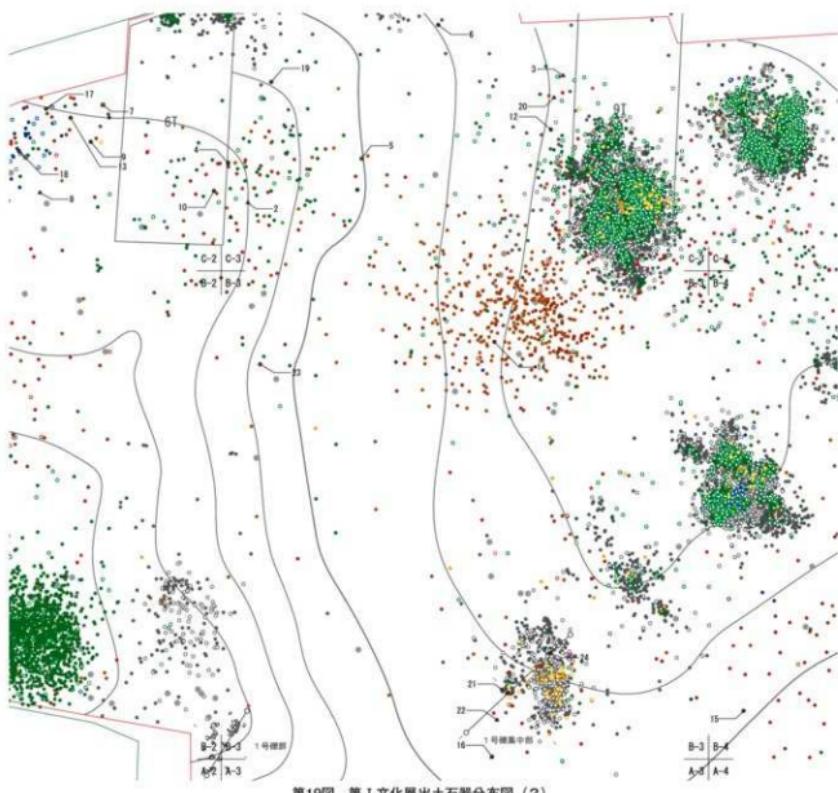
第18図 第I文化層出土石器実測図(5)

縁に主要剥離面側から簡単な二次加工を加え、刃部を形成している。素材は14と同一母岩の可能性が高い。

21,22,24は削器である。21,22は白色に脆く風化するホルンフェルスを素材としており、幅広の不定形剥片の縁辺に二次加工を施して刃部を形成している。24は白色の節理が発達するホルンフェルスを素材とする。背面側から主要剥離面の右

側面の一部に二次加工を加えている。

23は砂岩の剥片を素材とする微細剥離痕剥片である。右側縁に微細な剥離が観察される。縦長剥片素材の可能性があるが破断しており詳細は不明である。



## 第V章 第Ⅱ文化層の発掘調査

第Ⅱ文化層では、X層下部～XI層検出の遺構とX層主体の石器群を取り扱う。土壤堆積が薄いために上下移動を考慮する必要があるが、石材毎の器種組成、接合状況、所属層位等を検討して石器群を抽出した。

遺構はX層下部～XI層で検出されたものを取り上げる。

### 第1節 遺構

第Ⅱ文化層では、礫群2基、礫集中部5基が検出された。

礫集中部については、第Ⅰ文化層と同様、石器製作跡等の可能性があるものを取り扱う。また、XI層～X層検出遺構については検出層位により時期差を内包する可能性もあるので、ここでは検出層位毎に区分して掲載する。

#### (1) XI層検出遺構

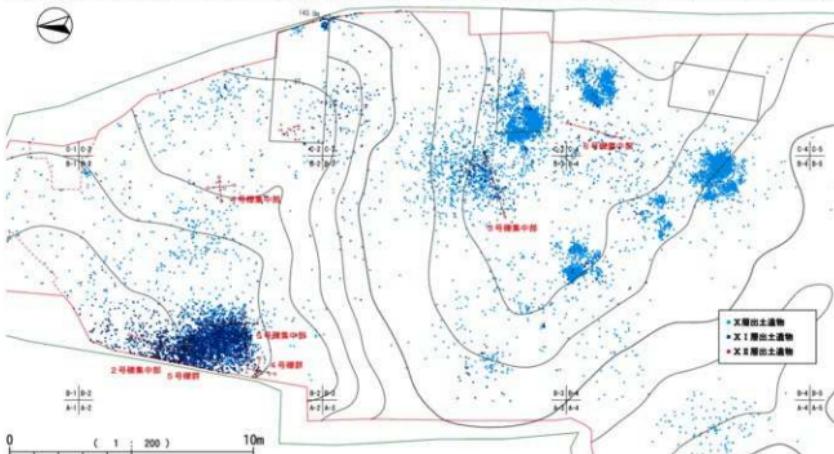
礫群2基、礫集中部1基を検出した。

#### 4号礫群

B-2区、XI層で検出された。調査区境で検出されたため全体像は不明であるが、礫は約35cm×35cmの範囲に集中し、全体としては約80cm×65cmの範囲に分布していた。中央の礫集中部には、深さ約5cmほどの若干の窪みが認められたが、明瞭な掘り込みは確認できなかった。砂岩の亜角礫が多く使用されていた。

#### 5号礫群

B-2区、XI層で検出された。調査区境で検出されたため全体像は不明であるが、構成礫は約30cm×25cmの範囲に集中し、全体として約130cm×100cmの範囲に広がっていた。



第21図 第Ⅱ文化層全体状況図

礫集中部付近には掘り込みは確認されなかった。礫の多くは亜角礫で構成され、石材には砂岩が多用されていた。

#### 2号礫集中部

B-2区、XI層で検出された。拳大のシルト質頁岩の礫14個が約150cm×120cmの範囲に散在した状態で検出された。

礫の多くは亜角礫で構成される。周辺には炭化物などの出土は確認できなかった。面的に検出されており、この付近に生活面が存在するものと考えられる。

#### (2) X層検出遺構

礫集中部4基を検出した。いずれも被熱破碎礫等は確認されず、シルト質頁岩やその他の頁岩等の礫等が集中する状態で検出された。

#### 3号礫集中部

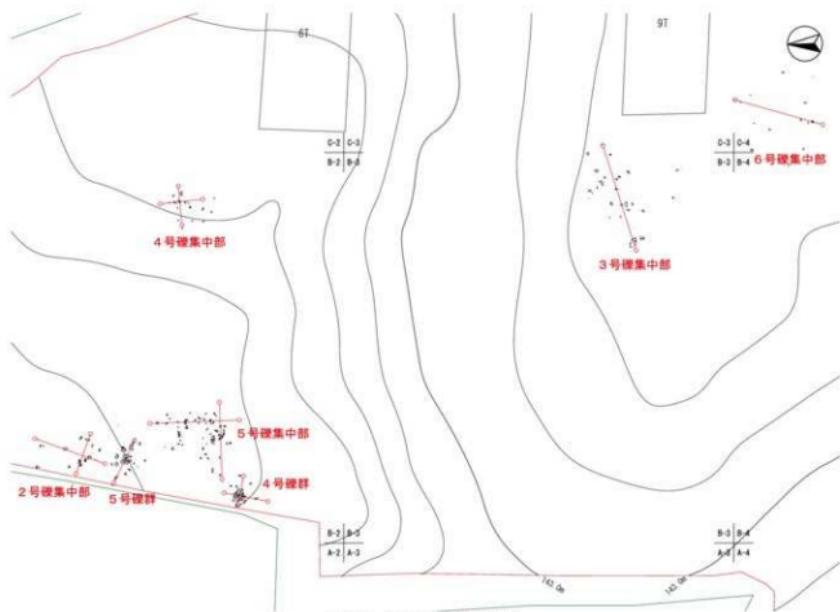
B-C-3区X層で検出された。約270cm×255cmの範囲に礫が散在する状態で検出された。礫の多くは亜角礫であった。

#### 4号礫集中部

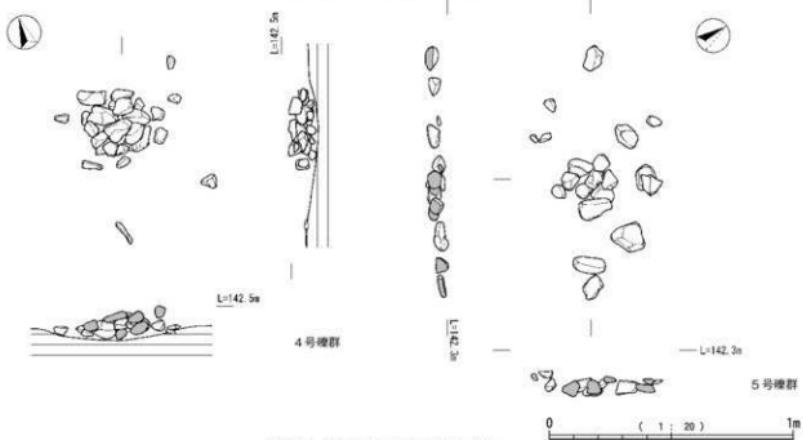
B-2区X層下部で検出された。3cm～7cm大的シルト質頁岩の剥片等が約85cm×80cmの範囲に散在した状態で検出された。礫の多くは亜角礫で構成され、周辺には炭化物などの出土は確認できなかった。

#### 5号礫集中部

B-2区、X層で検出された。第3エリアに形成された遺物集中部の直下に相当し、約65cm×50cmの範囲に頁岩を素材



第22図 第Ⅱ文化層造構配置図



第23図 第Ⅱ文化層造構実測図(1)

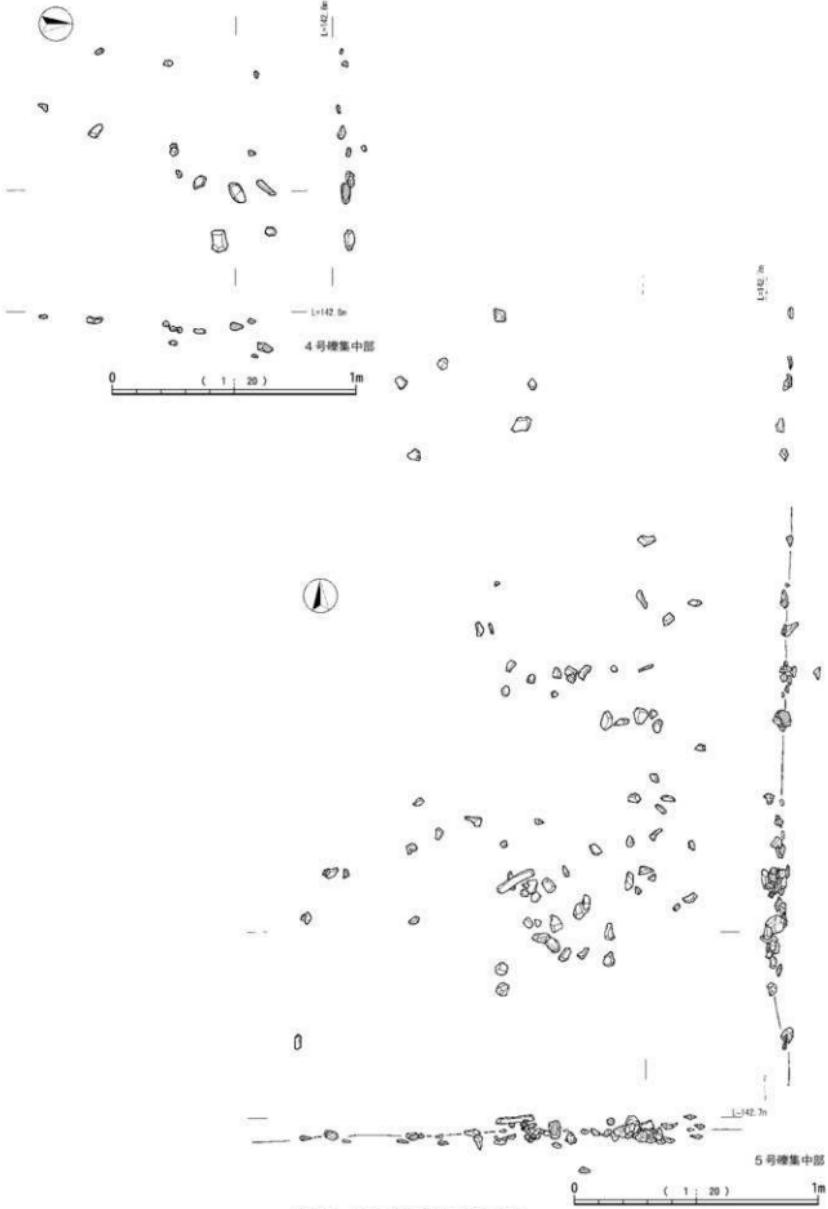
とする石核や剥片、砂岩を素材とする叩石などが混在して検出される集中部があり、周囲の縊等を含めると約280cm×220cmの範囲に分布する。炭化物等の痕跡は認められなかつたものの、ほぼ面的に検出されており、この付近に生活面が存在することが予測される。

#### 6号縊集中部

C-4区X層下部で検出された。固化はしていないが拳大ほどの縊が10個程度散在しており、縊群の可能性のあるものとして取り扱う。構成縊は亜角縊が多い。



第24図 第Ⅱ文化層遺構実測図（2）



第25図 第Ⅱ文化層遺構実測図 (3)

## 第2節 遺物

X層を主体とする石器群を一括した。遺物分布は散漫ながらも集中部を形成する地点が数か所あるが明確な遺物集中部を形成することは少なく、上下層との区分が困難な石器群も含まれるので、ここでは便宜的な単位として、エリアを設定した。石材はホルンフェルス、頁岩、黒曜石を主体とする。

第1エリア (第27図～第28図; 第6表)

B-2区の中央部付近に位置し、ホルンフェルスを中心とする緩慢な集中部を形成する。角錐状石器が3点組成され、複数のホルンフェルス母岩による剥片が含まれることから、これを素材とする石器製作が行われている可能性が高い。

また分布位置は4号窯集中部に隣接しており、両者の関係が想定される。

25は角錐状石器である。褐色～茶色を呈する珪質頁岩を素材とするもので、両面に加工が施され断面菱形を呈する。特に裏面にみられる加工は剥離が大きく、石核を転用して製品としている可能性もある。裏面右側縁先端部付近に細かい二次加工が看取され、削器的な使用が想定される。26は白色に脆く風化するホルンフェルスを素材とする角錐状石器である。一見剥片尖頭器状に見えるが、やや大きめの整形剥離が全周しており裏面加工も施されていることから角錐状石器的な石器であると判断される。31,32と同一石材である。27は灰褐色のホルンフェルスを素材とする角錐状石器である。下半分が欠損しており全体形は不明であるが、主軸長8cm程度の製品が想定される。

28は削器である。27と同一の石材を使用し、右側縁に簡単な二次加工を加えて製品としている。

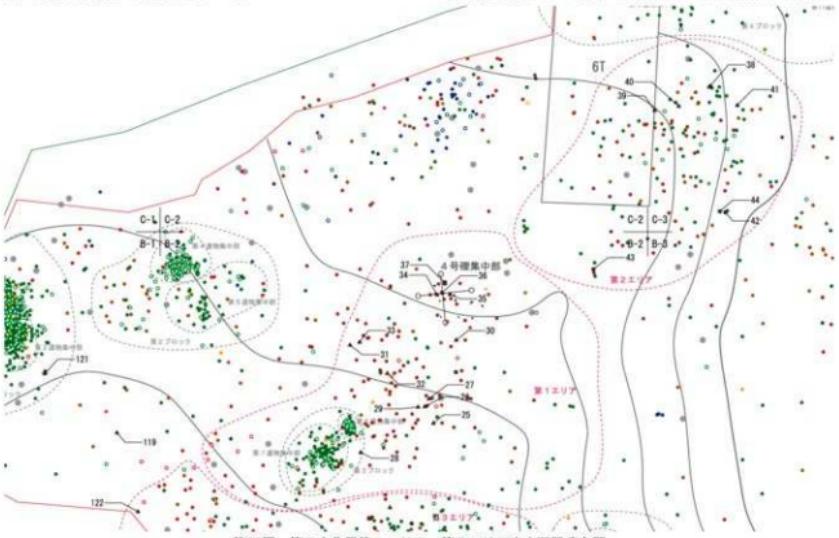
29～33は二次加工剥片である。白色に脆く風化するホルンフェルスを素材とするものであるが、29と30, 31～33が各々同一母岩とみられる。29は薄手の剥片を素材とし、左側縁に簡単な二次加工が看取できる。30は厚手の不定形剥片の一縁辺に二次加工が施されている。削器的な機能が想定される。31と32は風化のため判然としないが素材剥片を折断しており台形石器的な製作技術が想定できる。33は厚手の素材剥片に簡単な整形剥離が施されている。角錐状石器の未製品の可能性がある。

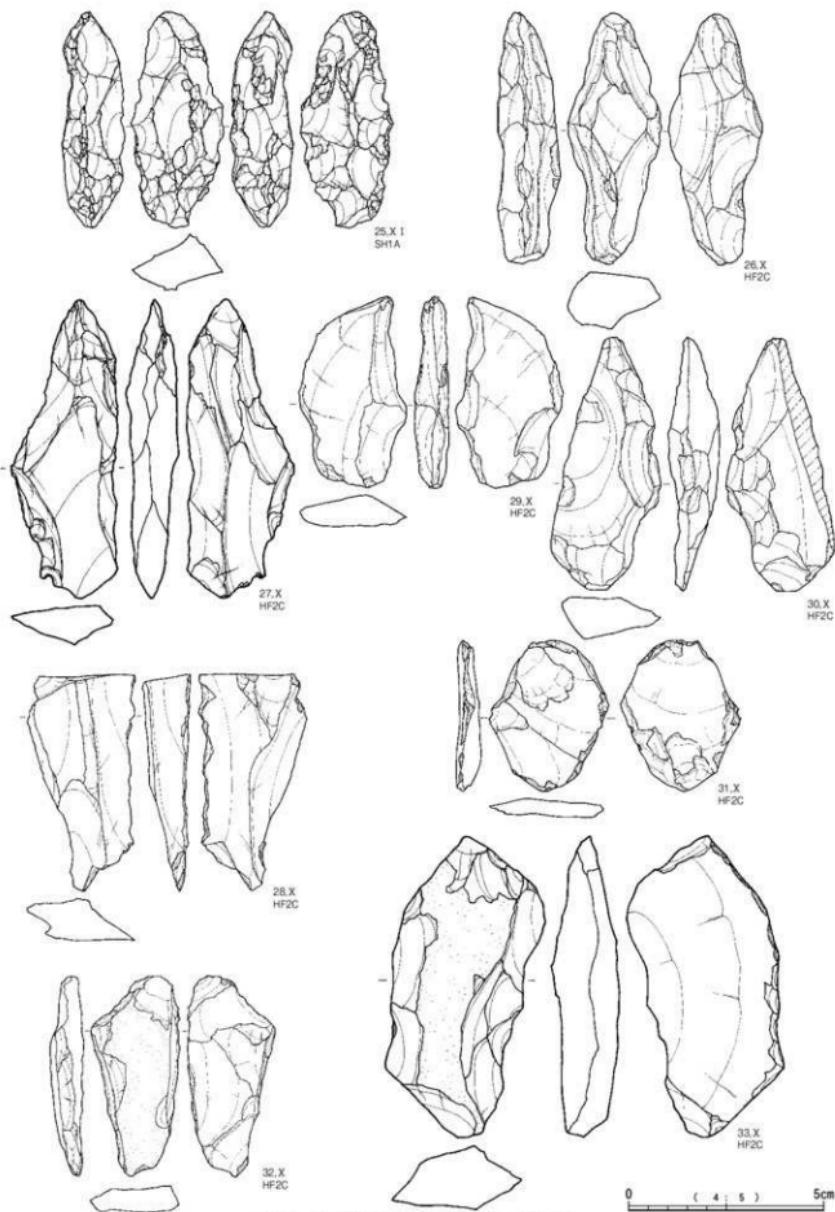
34～37は4号窯集中部に含まれる石器である。34は角錐状石器で33と同一母岩と見られる。薄手の横長剥片を素材とし、基部付近を中心に二次加工を加え製品としている。35～37は白色に脆く風化するホルンフェルスを素材とする。いずれも同一母岩の可能性が高いもので、4号窯集中部はこの石材を素材とする石器製作址を含む可能性が高い。35,36は二次加工剥片、37は石核である。

第2エリア (第29図; 第7表)

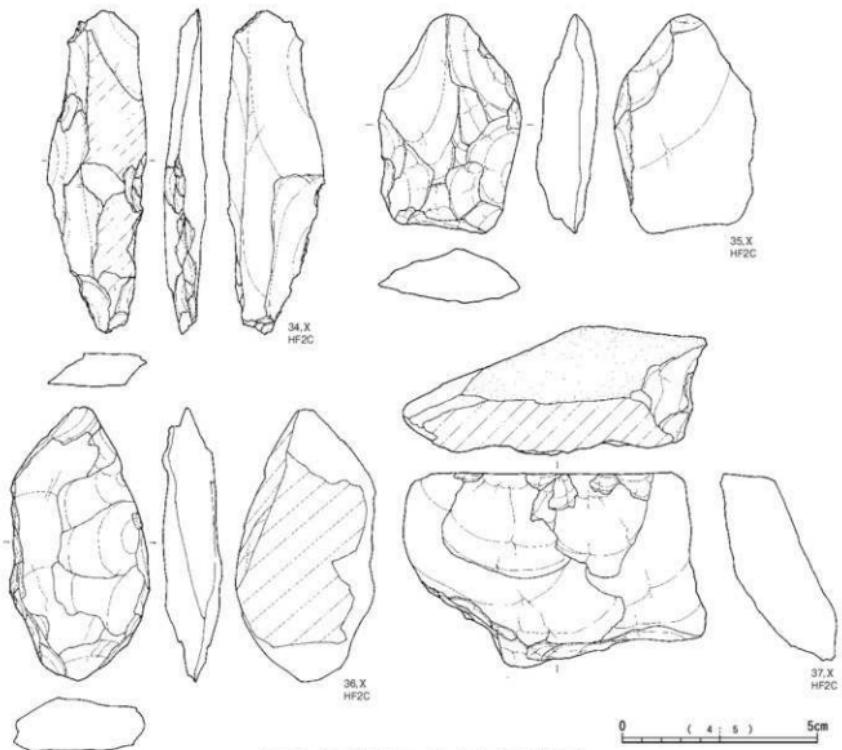
C-3区の北西隅に緩やかな集中部が形成され、数点の角錐状石器が近接して出土する区域があり、第2エリアとして設定した。ただし、このエリアは第1文化層に区分した石器群が平面的に重複しており、石材毎の出土状況を考慮して設定を行った。石材はホルンフェルスが多く、隣接する3号窯集中部との関連も想定される。

38,39は角錐状石器である。褐色に風化する比較的良質のホルンフェルスを素材としており、主軸長は概ね3～4cmほどの製品である。38は幅広の不定形剥片を素材とするもので主要剥離面側から二次加工を施している。先端部は欠損の





第27図 第Ⅱ文化層第1エリア出土石器実測図（1）



第28図 第Ⅱ文化層第1エリア出土石器実測図（2）

可能性もあるが素材面をそのまま残している可能性の方が高い。39は不定形剥片の形状をそのまま利用して右側縁を中心にして二次加工を加え製品としている。40も先端部が欠損しているが角錐状石器と考えられる資料である。薄く扁平な剥片を素材とし、主要剥離面側から二次加工を加えて製品としている。褐色に風化する点を除けば38.39等と同様の石材を利用している。第1エリア第27図27と同一母岩である。

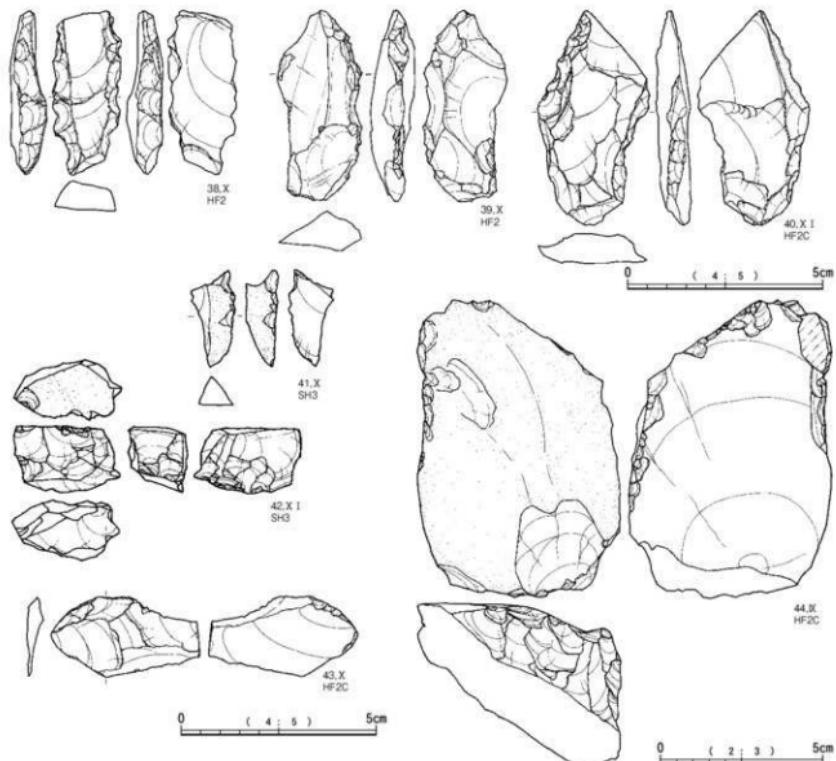
41は灰褐色の母岩を素材とするものである。41は二次加工剥片である。両者とも同一の接合資料に属する。43は調

整剥片である。40等と同一母岩である。

44は打面再生剥片である。少なくとも径20cm程度はあるうかと思われるホルンフェルス亜円礫を素材とし自然面を打面として先行作業面が形成されている。本資料はその作業面を打面として旧打面を割り飛ばしたものである。石材的には40等と同種であるが若干風化が進んでおり、第1文化層に帰属する可能性もある。

第6表 第Ⅱ文化層出土石器観察表（1）

編番	件号	上部	中部	下部	厚さ	幅	横幅	長さ	重さ	備考
27	25	43882	16.077	15.603	142.507	B-X	A01	集巾器	SH1.3	-
	26	24965	16.414	15.420	142.609	B-Z	X	角錐状石器	SH1.4	53.7 23.3 16.6 15.62
	27	23746	16.578	15.513	142.750	B-Z	X	角錐状石器	HF2C	62.3 23.6 16.4 22.09
	28	22661	15.478	14.113	142.689	B-Z	X	角錐状石器	HF2C	74.2 27 14 21.81
	29	22908	16.409	15.520	142.807	B-Z	X	角錐状石器	HF2C	53.7 26.9 12.6 14.4
	30	29698	17.779	16.071	142.637	B-Z	X	角錐状石器	HF2C	47.4 26.9 9.1 10.77
28	31	26246	17.676	13.893	142.698	B-Z	X	角錐状石器	HF2C	62.8 27.2 13.4 17.71
	32	24967	17.098	14.659	142.705	B-Z	X	角錐状石器	HF2C	37.6 30.1 6.7 6.03
	33	26245	17.737	14.090	142.685	B-Z	X	角錐状石器	HF2C	49.9 23 8.9 9.2
	34	角錐状10	18.708	15.679	-	B-Z	X	角錐状石器	HF2C	74.8 39.2 17.8 45.82
	35	角錐状15	18.717	15.943	-	B-Z	X	角錐状石器	HF2C	83.4 25.8 11.1 20.1
	36	角錐状10	18.752	15.785	-	B-Z	X	角錐状石器	HF2C	56.2 36.7 16.1 26.52
29	37	角錐状10	18.948	15.837	-	B-Z	X	角錐状石器	HF2C	71 35.5 15.4 37.49
	38	角錐状10	18.708	15.679	-	B-Z	X	角錐状石器	HF2C	50.1 77.3 33.2 106.45



第29図 第Ⅱ文化層第2エリア出土石器実測図

第3エリア (第31図～第38図; 第8表～第11表)

B-2区の調査区境近くに検出されており、5号錆集中部等の上位にある。若干傾斜面にさしかかる地点にやや緩慢ながら濃密な錆集中部が形成されている。

石器群は、ホルンフェルス系石材を利用するものと、頁岩II類を素材とするものの二者に大別できる。

ホルンフェルス系石材では合計4点の資料を抽出した。45は角錆状石器である。白色に風化するホルンフェルスを素材とする。横剥ぎの剥片を素材とし、主要剥離面側からの調整加工により素材の打点側を除去して製品としている。

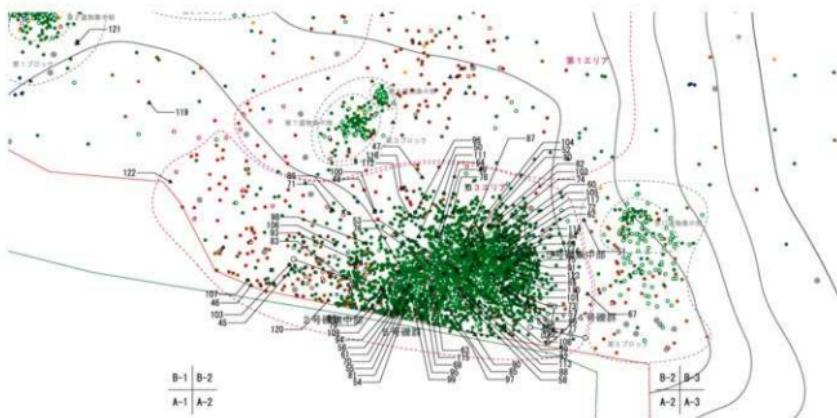
46～48は二次加工剥片である。46はホルンフェルスII類を

素材とするもので、中央付近で破断している。左側縁にはやや大きめの調整剥離痕が看取され、角錆状石器の未製品の可能性が疑われる資料である。47も若干風化が進むが、基本的には46と同種の石材である。先端部は欠損している。扁平な剥片を素材とし、周縁に簡単な二次加工を施して製品としている。48は白色に風化するホルンフェルスである。風化が進行しているため十分に観察できないが、小型の横長剥片の末端側に主要剥離面側から二次加工が施されている。

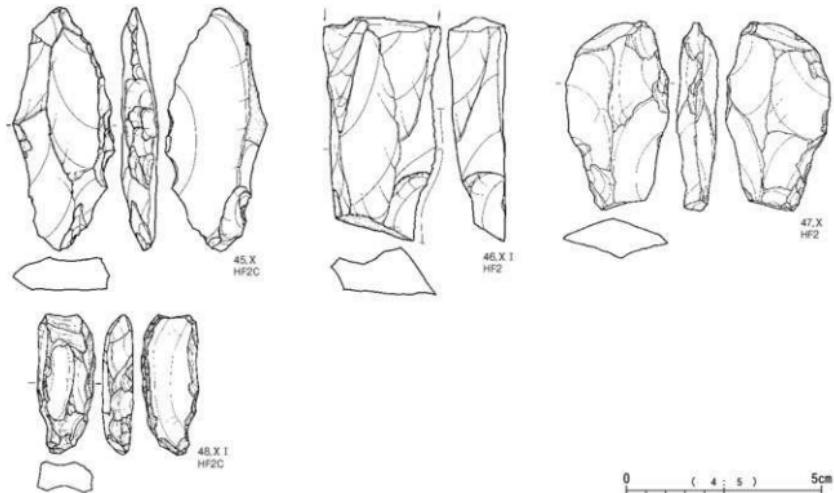
頁岩系石材は5～8個程度の母岩に区分でき、主に主軸長3～5cm程度の角錆状石器を中心に、削器、微細剥離痕剥片等を中心とする組成を示す。

第7表 第Ⅱ文化層出土石器観察表(2)

編目No.	石器No.	石器名	Y座標	Z座標	形態	位置	エリア	集中部	分類	L3	M4L1	M4L2	石4L3	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考	
38	58258	22.96	21.259	142.988	円錐	-	C-3	X	A02	-	角錆状石器	-	HF2	-	40.8	17.2	9.6	6.44	-
39	59093	22.486	20.144	142.956	円錐	-	C-3	X	A02	-	角錆状石器	-	HF2	-	47.6	21.1	11.6	10.02	-
40	60692	22.571	20.638	142.874	円錐	-	C-3	X	A02	-	角錆状石器	-	HF2C	II	53.3	27.9	9.3	12.97	-
41	59089	22.591	21.829	142.935	円錐	-	C-3	X	A02	-	二段加工剥片	-	SH3	-	19.3	9.1	6.9	0.78	SG142
42	56113	20.400	21.582	142.890	円錐	-	C-3	X	A02	-	剥片	-	SH3	-	16.7	26.9	15.8	7.16	SG142
43	42076	19.232	18.896	143.018	円錐	-	B-2	X	A02	-	調整剥片	-	HF2C	II	37.2	20.1	6.1	3.45	-
44	21419	20.419	21.481	143.488	円錐	-	C-3	X	A02	-	打凸再剥片	-	HF2C	II	50.4	60.6	91.3	180.44	-



第30図 第Ⅱ文化層第3エリア出土石器分布図



第31図 第Ⅱ文化層第3エリア出土石器実測図(1)

49~69は角錐状石器である。接合資料No.5\_E1E2を含め、破片資料まで合わせると19点以上が含まれる。主軸長は最小のものが約35mm、最大のものが約50mmで概ね45mm前後のものが多い。第3エリアのはほとんどは同種の石材で構成されており、接合資料も豊富に含まれることからブロック内で角錐状石器の製作と消費が行われている可能性が高い。

### 第8表 第Ⅱ文化層出土石器観察表(3)

規則No.	回数	地上No.	X座標	Y座標	Z座標	フレーム	部位	エリア	集中場	半面2	合面3	EHL1	EHL2	EHL3	最大幅	最大幅	最大厚	重量	備考
31	45	38849	12,478	12,035	142,584	B-2	X	A03	-	角錐状石器		HF2C	a		60.4	25.6	9.9	14.39	-
	46	51187	12,142	11,201	142,334	B-2	XI	A03	-	二次加工片		HF2	a		56.5	29.4	15.5	27.22	-
	47	22694	14,350	14,713	142,678	B-2	X	A03	-	二次加工片		HF2	a		47	26.2	11	12.59	-
	48	43242	13,829	13,737	142,466	B-2	XI	A03	-	二次加工片		HF2C	-		34.8	14.5	8.2	5.25	-

49~51は小型の角錐状石器である。いずれも幅広の不定形剥片を素材としている。49は基部が一部欠損しているが、主剥離面側にも二次加工が若干施されている。

52~54も基本的には小型角錐状石器の範疇に入る石器である。52は分厚い横広の剥片を素材としており、素材の末端側に二次加工を施している。二次加工は左側縁を中心に行なわれ

ており、右側縁には簡単な整形剥離しか施されていない。53は同じく厚手の横広剝片を素材とするものである。裏面にも左側縁を中心に調整剥離痕が観察される。正面左側端部付近には微細剥離痕が多く観察できる。54は前者と比べるとやや薄手の剝片を素材とする。先端部を尖らせようとする意識はあまり看取できないが、主に素材の末端側に二次加工を加えている。55も分厚い横広剝片を素材とするもので、先端部付近を中心に細かな二次加工を施して製品としている。先端部には微細剥離痕も観察され、また後線の一部には摩滅が見られる。55は53と同一母岩の可能性が高い。56も横広の剝片を素材とするものである。二次加工は先端部付近に集中しており、特に正面左側縁先端部付近に細かな剥離痕が観察される。59.60も基本的には横広の剝片を素材とするものである。基部付近にはやや大きめの剥離が施されており、当初の主軸長は残存部より1cm程度長かった可能性が高い。59は正面右側縁に、60は正面左側縁を中心に二次加工が施されているが、素材剝片から見ればいずれも末端側からの加工となる。また60は正面左側縁先端部付近に微細剥離痕が多く観察される。

61は先端部が欠損しているが、やや大きめの製品である。推定される主軸長は5cm程度となり、サイズ的には中型の部類に属する。横長の剝片を素材としており、二次加工は主に素材の打点側に施されている。

62~71は分厚い素材を利用する比較的大きめの製品である。62は分厚い横広の不定形剝片を素材とし、主に素材剝片の打点側から第二次加工を施し製品としている。二次加工は正面左側縁に丁寧に施されており、左側縁は急斜度を呈する。右側縁には簡単な整形剥離が施されるのみである。61.62は分厚い剝片を素材とするもので、両側縁から第二次加工を施して一方の端部を尖らせるように整形している。いずれも下端付近は一部が欠損しているが、基本的には素材形状に近く欠損部位はそう大きくはない。61は正面左端部に断続的ながら微細剥離痕が観察される。ただしこの資料は正面右側縁下端部にもわずかに微細剥離痕が観察され、天地逆の可能性もある。

第9表 第Ⅱ文化層出土石器観察表(4)

編号	Znlo	ZnLlo	XZlo	YZlo	ZBZlo	ブリフ	留合	エアリ	集中部	分岐2	分岐3	EHL1	EHL2	EHL3	最大幅	最大幅	最大幅	重量	備考	
49	42356	13.198	15.096	142.630	B-2	X	A03	-	両側状石器	SH0C	-	39.3	15.7	10.7	4.37					
50	36047	13.139	14.632	142.722	B-2	X	A03	-	両側状石器	SH0C	-	39.9	16.7	11.3	4.94					
51	42697	13.478	18.030	142.744	B-2	X	A03	-	両側状石器	SH0C	-	35.6	16.5	14	6.1					
52	43604	12.985	15.667	142.546	B-2	X	A03	-	両側状石器	SH0C	-	38.6	22.5	13.8	10.84					
53	42257	12.496	15.417	142.672	B-2	X	A03	-	両側状石器	SH0C	-	40.9	19	13	7.37					
54	44061	11.610	14.354	142.493	B-2	X	A03	-	両側状石器	SH0C	-	43.3	20.5	20.4	7.31					
55	37016	11.586	14.225	142.734	B-2	X	A03	-	両側状石器	SH0C	-	42.1	22.1	13	10.16					
56	43953	12.042	14.361	142.464	B-2	X	A03	-	両側状石器	SH0C	-	46.8	20.9	10.6	9.24					
57	43024	12.181	16.324	142.537	B-2	X	A03	-	両側状石器	SH0C	-	43.5	21.4	13.4	7.89					
58	43216	12.078	15.466	142.574	B-2	X	A03	-	両側状石器	SH0C	-	50.1	18.1	14.6	9.84					
59	36028	11.880	15.692	142.850	B-2	X	A03	-	両側状石器	SH0C	-	49	18.3	14.5	9.37					
60	46070	13.171	16.314	142.496	B-2	X	A03	-	両側状石器	SH0C	-	42.7	22.1	15.1	14.72					
61	43266	12.141	14.456	142.561	B-2	X	A03	-	両側状石器	SH0C	-	45.7	25.6	17.8	15.76					
62	43068	13.266	17.181	142.557	B-2	X	A03	-	両側状石器	SH0C	-	48.6	25.1	18.3	17.35					
63	31225	11.786	15.006	142.923	B-2	X	A03	-	両側状石器	SH0C	-	49.7	24	18.5	13.54					
64	41719	13.154	15.022	142.729	B-2	X	A03	-	両側状石器	SH0C	-	26.8	18.9	10	3.35					
65	46734	12.462	16.470	142.533	B-2	X	A03	-	両側状石器	SH0C	-	33.4	20.6	11.8	6.55					
66	42417	12.377	16.146	142.657	B-2	X	A03	-	両側状石器	SH0C	-	44.2	26.1	13	14.5					
67	41709	11.967	18.016	142.724	B-2	X	A03	-	両側状石器	SH0C	-	18	15	11	1.84					
68	42318	11.857	14.782	142.609	B-2	X	A03	-	両側状石器	SH0C	-	29.4	19.7	13.3	4.92					
69	43019	12.671	16.386	142.546	B-2	X	A03	-	両側状石器	SH0C	-	42.1	28.1	20.3	16.17					
Nan5		43442	11.900	13.954	142.533	B-2	X	A03	-	両側状石器	SH0C	-	71.1	22.2	15.4	18.32				
E102		42331	12.981	13.337	142.540	B-2	X	A03	-	両側状石器	SH0C	-								

る。また62についても微細剥離痕等は観察されないが、同様に天地逆の可能性がある。

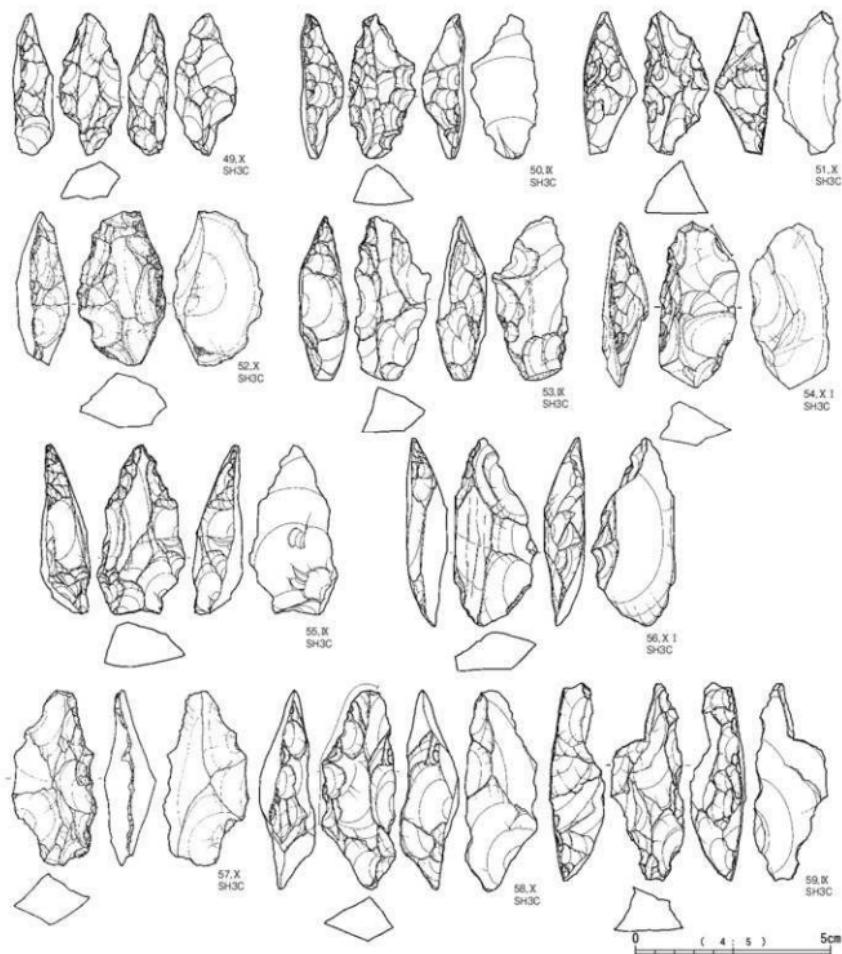
63も分厚い素材を利用するものである。ただし、整形剥離は一枚一枚が比較的大柄で、正面左側縁のみに観察される。左側縁に連続的に微細剥離痕が観察されるため角錐状石器と認定したが、石核を転用した製品である可能性が高い。石材は、59.60と同一母岩である。

64~69接合資料No5\_E1E2は接合した製品を一括掲載した。64.65は圓化後接合した資料である。主軸長5cm程度の角錐状石器で縱長の剥片を素材とし、正面右側縁に連続的な二次加工を加えて製品としている。64は先端部の破断資料で先端部右側縁には微細剥離痕が観察され、稜線の一部に摩滅痕が観察される。66.67も圓化後接合した資料である。横広の不定形剝片を素材とし、正面右側縁を中心に二次加工を施している。正面右側縁上半には凸部に微細剥離痕が観察されるため、両側縁から二次加工を施し先鋭化した方が基部の可能性が高い。68.69も圓化後接合した。大型の分厚い不定形剝片を素材としており、石材は53.55等と同一母岩である。二次加工は先端部付近を中心に施され、それ以外の部分にはやや大きめの整形剥離の後は周縁に簡単な整形加工が加えられるのみである。なお、本資料の微細剥離痕は正面左側縁先端部付近に観察される。

接合資料No5\_E1E2は、横広の大型剝片を素材とするものである。素材剝片の打点側から二次加工を進め製品としている。後上調整が施されているのが本資料の特徴である。二次加工は基部付近に集中し、先末端縁にはあまり施されていない。微細剥離痕はほとんど観察されない。

70~77は二次加工剝片である。角錐状石器の未製品及び関連資料である可能性が高いものを中心に抽出した。

70.71は先端部のみの欠損品である。これらは同一母岩である。70は右側縁に集中的な加工が施されている。71は横広の剝片を素材とし、素材の打点側に二次加工を加えている。右側縁には連続的な整形剥離が施され、正面左側縁先端部付近に細かな二次加工と微細剥離痕が観察される。72はやや幅



第32図 第Ⅱ文化層第3エリア出土石器実測図(2)

広の剥片を素材とする。右側縁に二次加工が施されている。

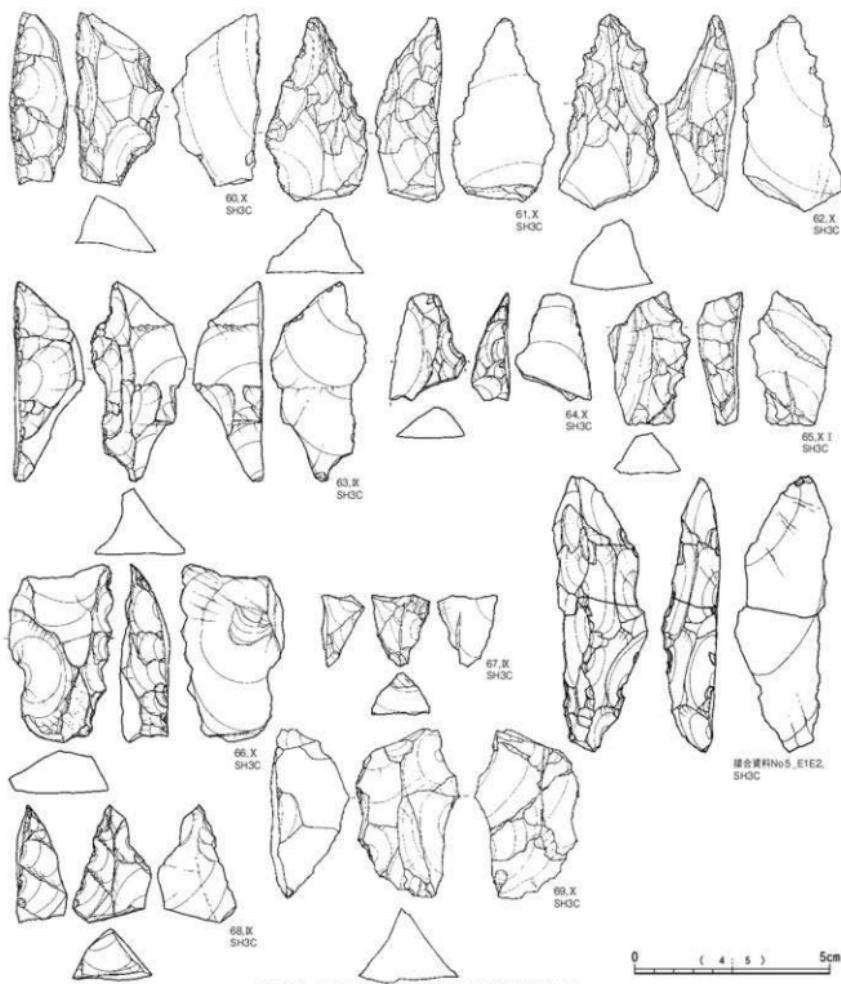
73は角錐状石器の先端部と考えられる資料である。右側縁に細かな剥離痕が観察される。74は角錐状石器の関連資料である。石核の転用品の可能性もあるが正面左側縁には連続的に細かな二次加工が施されているため、関連資料として取り扱う。右側面からの加撃により打削された資料である。

75~77は角錐状石器の関連資料の可能性がある一群である。いずれも側縁に二次加工が施されており、一部には微細剥離痕も観察される。

78~83は削器である。いずれも不定形剥片を素材とし、縁

辺の一部に二次加工を施して刃部を形成している。

78は横広の不定形剥片を素材とし、右側縁に簡単な二次加工を施している。80は素材剥片の両側縁から二次加工を施し、端部を尖頭状に加工して製品としている。側縁は鋸歯状を呈するが、特に先端部付近には微細剥離痕が観察され、抉入石器的な使用法も想定される。79~83は素材剥片の一部に二次加工を施して刃部形成している。84は素材の下端部に急斜度の剥離を施しており、搔器とみられる。85は二次加工剥片である。角錐状石器の関連資料の可能性もあるが、細かな調整剥離は観察されず石核の可能性もある。



第33図 第Ⅲ文化層第3エリア出土石器実測図(3)

86~91は抉入石器である。いずれも不定形剥片を素材とするもので、多様な形状の素材を選択している。抉り部の直径は一定ではないが、86,87が10mm程度、88~90が6mm程度、91が4mm程度である。

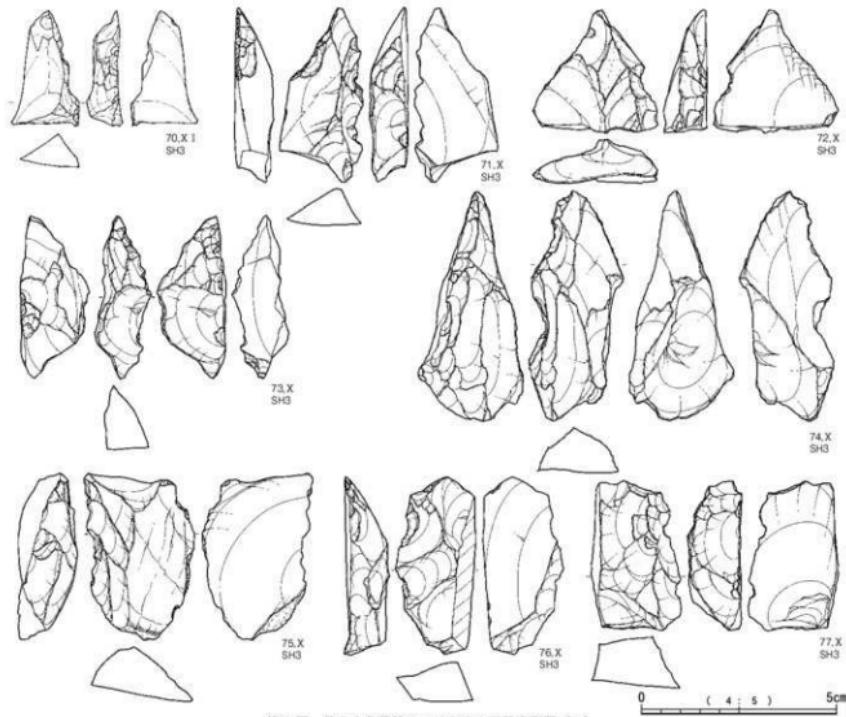
92~99は微細剥離痕剥片である。素材剥片の鋭利な縁辺の一部に連続的な微細剥離が観察される。

100~111は調整剥片である。特に、100~109は角錐状石器の関連資料である可能性が高い。

112~117は石核である。112~115は交互剥離状に剥離が進

められたもので、ほぼ極限に近い状態まで剥離が進行している。角錐状石器の関連資料の可能性もあるが最後まで比較的大きな剥離が行われており、石核として取り扱っておく。116,117は平坦な先行剥離面を打面として剥離が進められている石核である。主軸長3~4cm程度の幅広の剥片が剥離されている。

118~122は黒曜石Ⅱ類を素材とするものでX層に主体を持つため、ここで取り扱う。118は石核で、小型の亜円錐を分割し、分割面から剥離を行っている。119~122は小型の台形



第34図 第2文化層第3エリア出土石器実測図(4)

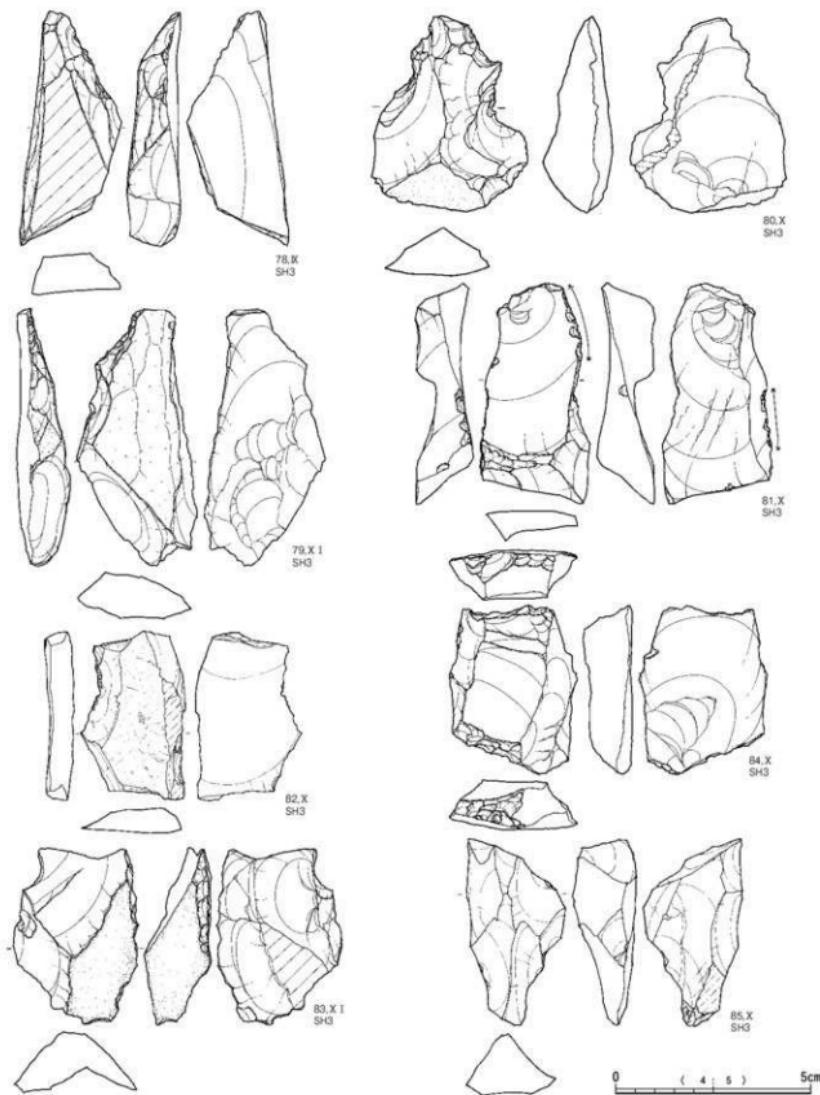
第4エリア (第39図: 第11表)

石器である。118と同一母岩の可能性が高い。いずれも小型の剥片を素材とするもので、縁辺に急斜度の二次加工を施して製品としている。

123は叩石である。角棒状の砂岩錠を使用し、先端部に敲打痕が観察される。

第10表 第2文化層出土石器観察表(5)

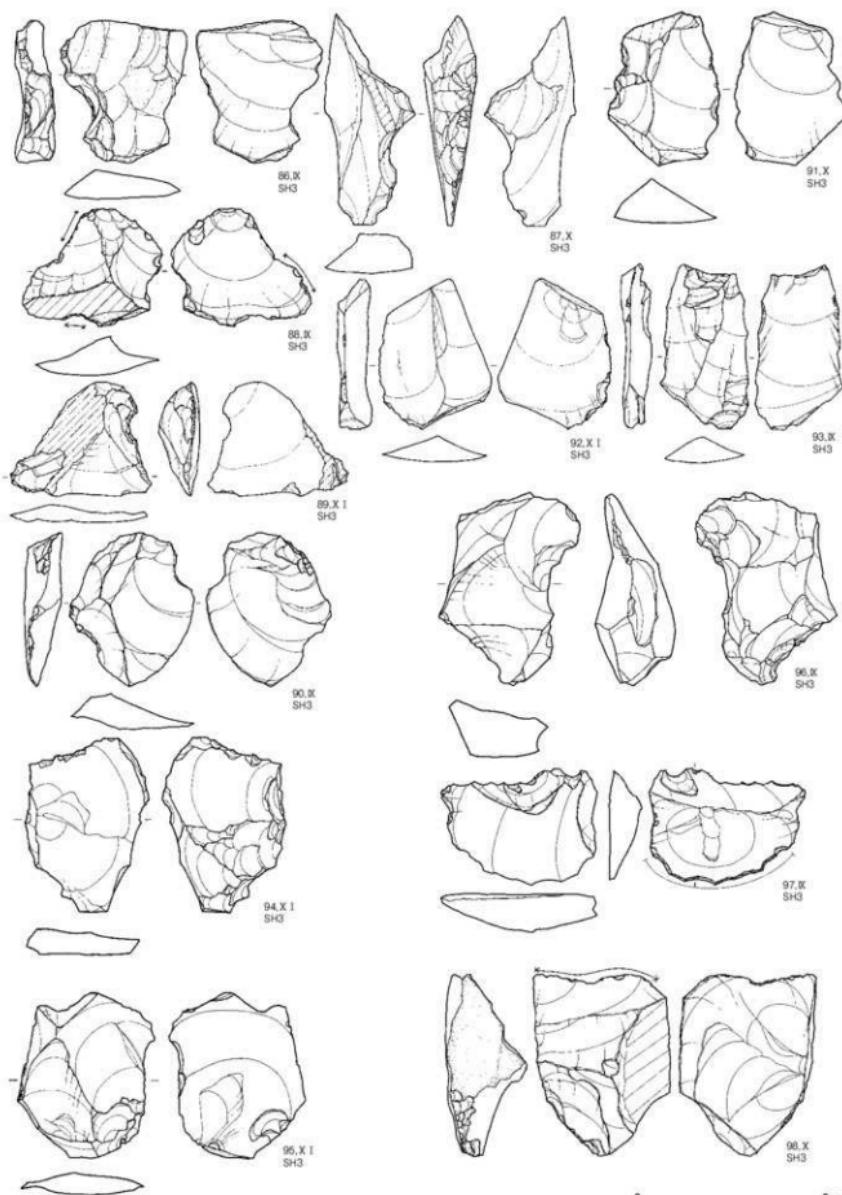
	周長(cm)	厚さ(cm)	第2号	第3号	第4号	位置	エリア	集中部	合計2	合計3	SHM1	SHM2	SHM3	最大幅	最小幅	最大厚	重量	備考
34	70 47338	11.925	14.208	142.424	B-2 X I	A03	二世加工剥片	SH0	-	-	28.6	16.7	9.5	3.08	-	-	-	-
	71 42334	13.676	12.860	142.560	B-2 X	A03	二世加工剥片	SH0	-	-	43.3	20.9	10.2	7.34	混合層RN405_A1	-	-	-
	72 42691	12.905	16.408	142.630	B-2 X	A03	二世加工剥片	SH0	-	-	30.6	31.2	11.4	6.54	混合層RN410_02	-	-	-
	73 42420	12.117	16.464	142.643	B-2 X	A03	二世加工剥片	SH0	-	-	40.6	14.3	17.9	6.77	-	-	-	-
	74 42682	13.393	16.366	142.652	B-2 X	A03	二世加工剥片	SH0	-	-	57.1	23.7	27.2	19.21	混合層RN11_71	-	-	-
	75 42771	12.643	17.109	142.615	B-2 X	A03	二世加工剥片	SH0	-	-	41.6	27.6	15.6	14.11	混合層RN13_G1	-	-	-
	76 42369	12.378	15.174	142.646	B-2 X	A03	二世加工剥片	SH0	-	-	44.2	20.2	11.9	9.83	混合層RN6_C1	-	-	-
	77 38507	11.999	16.339	142.737	B-2 X	A03	二世加工剥片	SH0	-	-	37.3	22.5	14.4	12.75	混合層RN6_L1	-	-	-
	78 42231	13.642	15.339	142.715	B-2 X	A03	剥離	SH0	-	-	58.1	25.4	14	18.79	SG051_A2	-	-	-
	79 43718	11.703	13.684	142.396	B-2 X I	A03	剥離	SH0	-	-	63.8	30.1	14	19.59	SG216_A2	-	-	-
	80 43601	12.963	15.734	142.509	B-2 -	A03	剥離	SH0	-	-	48.3	39.7	17.8	26.6	混合層RN11_J1	-	-	-
	81 38473	11.802	14.394	142.674	B-2 X	A03	剥離	SH0	-	-	54.7	27.6	15.3	18.51	混合層RN6_F1	-	-	-
	82 43007	13.371	16.069	142.614	B-2 X	A03	剥離	SH0	-	-	41.9	26.6	7.9	9.13	混合層RN12_C2	-	-	-
	83 43646	12.281	15.140	142.363	B-2 X I	A03	剥離	SH0	-	-	43.8	31.4	17.5	15.31	混合層RN15_V1	-	-	-
	84 39812	12.685	16.307	142.749	B-2 X	A03	剥離	SH0	-	-	42	32	13	19.68	混合層RN27_A1	-	-	-
	85 38489	11.561	15.313	142.703	B-2 X	A03	二世加工剥片	SH0	-	-	46.6	24.8	16.7	14.12	混合層RN23_B1	-	-	-
35	86 42617	12.096	13.869	142.715	B-2 X	A03	挿入石器	SH0	-	-	39.5	31.5	10.5	9.5	-	-	-	-
	87 42878	12.765	15.604	142.606	B-2 X	A03	挿入石器	SH0	-	-	52.1	22.9	13.9	9.74	-	-	-	-
	88 20568	12.053	15.506	142.937	B-2 X	A03	挿入石器	SH0	-	-	29.4	35	12.3	8	SG188_BS	-	-	-
	89 42826	13.612	13.214	142.487	B-2 X I	A03	挿入石器	SH0	-	-	28.6	35.1	16.8	7.00	-	-	-	-
	90 41988	11.132	15.782	142.689	B-2 X	A03	挿入石器	SH0	-	-	36.3	31.2	10.2	8.67	混合層RN26_B1	-	-	-
	91 45067	12.672	16.690	142.497	B-2 -	A03	挿入石器	SH0	-	-	38.4	29	12.2	12	混合層RN7_H1	-	-	-



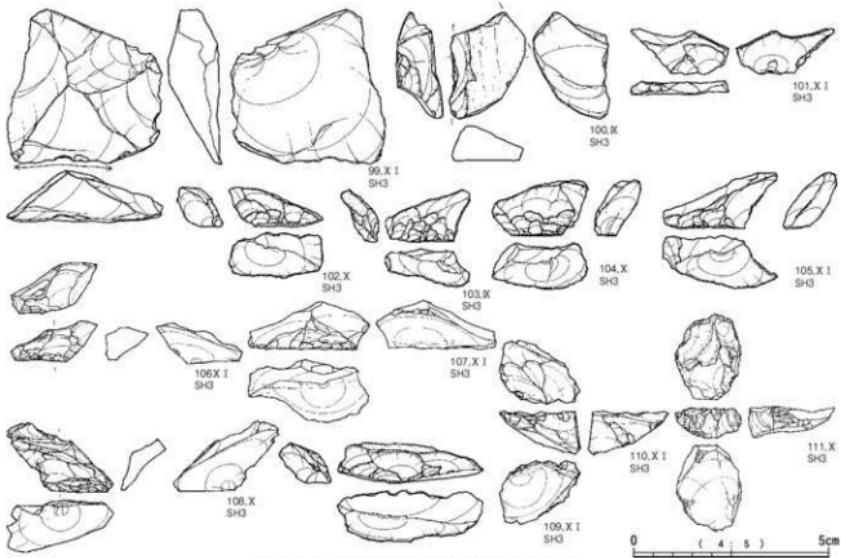
第35図 第Ⅲ文化層第3エリア出土石器実測図（5）

124は大型の石核である。この資料は白色に風化する特徴的な母岩を素材としている。周辺で同一母岩の剥片等も出土しているが、製品がなく剥離目的等は不明である。125も石核で、平坦な先行剥離面を打面として剥離を行っている。

126は微細剥離痕剥片である。良質の頁岩を素材とするもので、縁辺の一部に微細剥離が観察される。127は剥片である。白色に風化する良質なホルンフェルスを素材としており、綾長を意識した剥離が行われている。



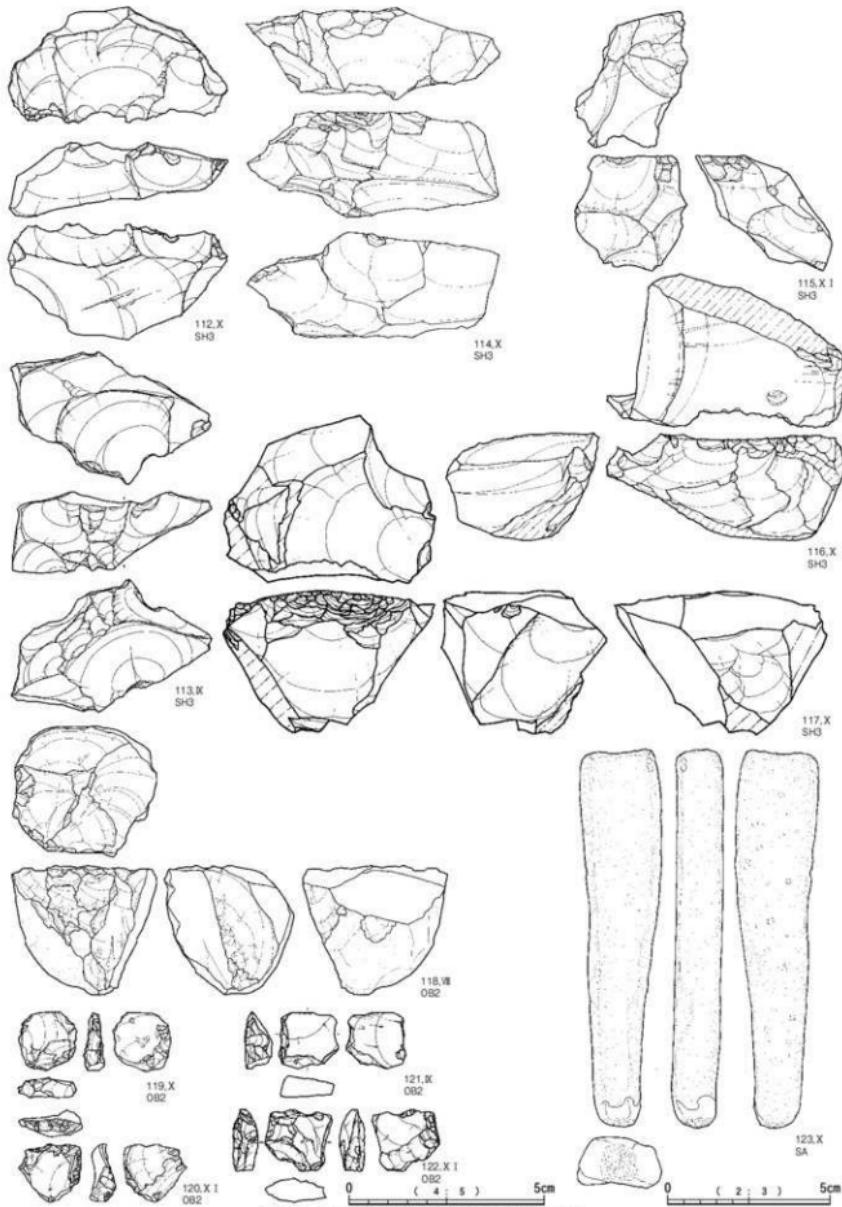
第36図 第II文化層第3エリア出土石器実測図（6）



第37図 第Ⅱ文化層第3エリア出土石器実測図（7）

第11表 第Ⅱ文化層出土石器觀察表（6）

編號	品項	規格	單位	重量	體積	尺寸	型式	集中組	分組	子集	E6L1	E4L6L2	E4L5L3	直角	直角	直角	直角	直角
36	92	43524	11.306	16.396	142.534	B-2	X	A03	-	-	S03	-	-	27.5	28.3	9.2	7.69	結合料#H011_B
	93	42106	12.642	13.384	142.596	B-2	X	A03	-	-	S03	-	-	40.9	22.1	8.2	6.83	結合料#H011_P1
	94	46961	11.575	13.969	142.387	B-2	-	A03	-	-	S03	-	-	31.9	44.6	8.6	10.5	結合料#H011_D3
	95	44060	14.714	14.714	142.482	B-2	-	A03	-	-	S03	-	-	39.9	35.8	9	9.23	結合料#H011_H2
	96	42224	13.607	14.570	142.702	B-2	-	A03	-	-	S03	-	-	49	38.8	15.4	22.5	結合料#H011_J1
	97	41964	11.492	15.122	142.618	B-2	X	A03	-	-	S03	-	-	39	29.1	10.3	8.73	結合料#H011_A1
37	98	42185	13.005	13.560	142.566	B-2	X	A03	-	-	S03	-	-	45.2	34.3	21.7	24.49	结合料#H012_B1
	99	45901	11.501	13.471	142.566	B-2	X	A03	-	-	S03	-	-	38.4	36.5	13.6	15.26	结合料#H012_H5
	100	40201	13.671	13.741	142.688	B-2	X	A03	-	-	S03	-	-	26.6	19.1	12.2	4.72	结合料#H012_K1
	101	44021	11.000	16.952	142.503	B-2	X	A03	-	-	S03	-	-	11.6	24.5	3.9	0.72	-
	102	46564	13.363	16.146	142.664	B-2	X	A03	-	-	S03	-	-	10.1	23.5	12	1.7	结合料#H012_A1
	103	37026	12.562	15.989	142.665	B-2	X	A03	-	-	S03	-	-	13.2	21.2	10.1	1.23	-
38	104	42647	13.651	16.063	142.670	B-2	X	A03	-	-	S03	-	-	14.1	24.1	12.1	2.76	-
	105	44107	13.104	13.674	142.546	B-2	X	A03	-	-	S03	-	-	15.6	28.4	13.8	2.38	-
	106	51183	12.979	12.925	142.257	B-2	X	A03	-	-	S03	-	-	10.2	21.5	13.4	1.57	-
	107	40241	12.248	11.134	142.564	B-2	X	A03	-	-	S03	-	-	12.1	30.3	16.3	4.11	-
	108	40578	12.230	15.667	142.548	B-2	X	A03	-	-	S03	-	-	17.5	26.5	13.5	2.4	-
	109	42823	12.026	13.917	142.532	B-2	X	A03	-	-	S03	-	-	10.4	36.2	13.5	3.95	-
39	110	47436	12.410	16.444	142.454	B-2	X	A03	-	-	S03	-	-	10.9	20.3	16.6	2.72	-
	111	40003	14.024	15.167	142.609	B-2	X	A03	-	-	S03	-	-	21.4	16.5	22.1	2.35	-
	112	42556	13.575	14.456	142.648	B-2	X	A03	-	-	S03	-	-	54.5	29	19.5	21.72	结合料#H013_I1
	113	41991	11.96	15.636	142.670	B-2	X	A03	-	-	S03	-	-	49.8	33.1	21.1	22.62	结合料#H013_U1
	114	43229	12.706	16.219	142.592	B-2	X	A03	-	-	S03	-	-	27.2	64	23.8	35.05	结合料#H013_I1_T4
	115	47013	12.074	14.908	142.509	B-2	X	A03	-	-	S03	-	-	28.7	28.1	34.9	19.81	结合料#H013_D1
40	116	43896	12.606	16.935	142.564	B-2	X	A03	-	-	S03	-	-	26.7	59.2	39.6	54.18	结合料#H013_P1
	117	43907	13.096	16.271	142.573	B-2	X	A03	-	-	S03	-	-	35.4	52.6	43.2	73.61	结合料#H013_I1
	118	19631	14.126	14.260	143.201	B-2	X	A03	-	-	S02	-	-	32.3	36	33.6	39.98	-
	119	48811	9.882	9.111	140.470	B-1	X	A03	-	-	S02	-	-	15	14.6	5.6	1.1	-
	120	46074	11.801	12.785	143.324	B-2	X	A03	-	-	S02	-	-	14.5	19.8	7	1.11	-
	121	42167	11.701	7.645	142.674	B-1	X	A03	-	-	S02	-	-	14.9	15	7.3	1.32	-
41	122	43486	14.266	14.944	142.548	B-1	X	A03	-	-	S02	-	-	16.6	17	6.8	1.41	-
	123	40911	12.593	16.654	142.570	B-2	X	A03	-	-	S02	-	-	155	34	21.4	151.77	-
	124	60943	7.699	36.175	142.908	A-4	X	A04	-	-	S02	-	-	56.9	88.9	79.5	440	-
	125	50509	7.973	35.86	142.945	A-4	X	A04	-	-	S02	-	-	28.7	53.3	35.4	46.59	-
	126	60800	10.275	39.010	142.917	A-4	X	A04	-	-	S02	-	-	57.1	30.3	15.5	16.71	结合料#H020_B1
	127	60940	7.760	36.594	142.913	A-4	X	A04	-	-	H19	-	-	59.7	36.4	10.1	17.75	-
42	128	60799	9.991	27.720	143.104	A-3	X	A05	-	-	H19	-	-	40.4	23.1	9.2	9.36	-
	129	57764	17.761	44.329	143.183	B-5	X	A05	-	-	S03	-	-	45.9	33.3	16.4	14.85	-
	130	54006	21.016	28.476	143.270	C-3	X	A05	-	-	S03	-	-	42.0	36.6	8.5	10.35	S2027_A21

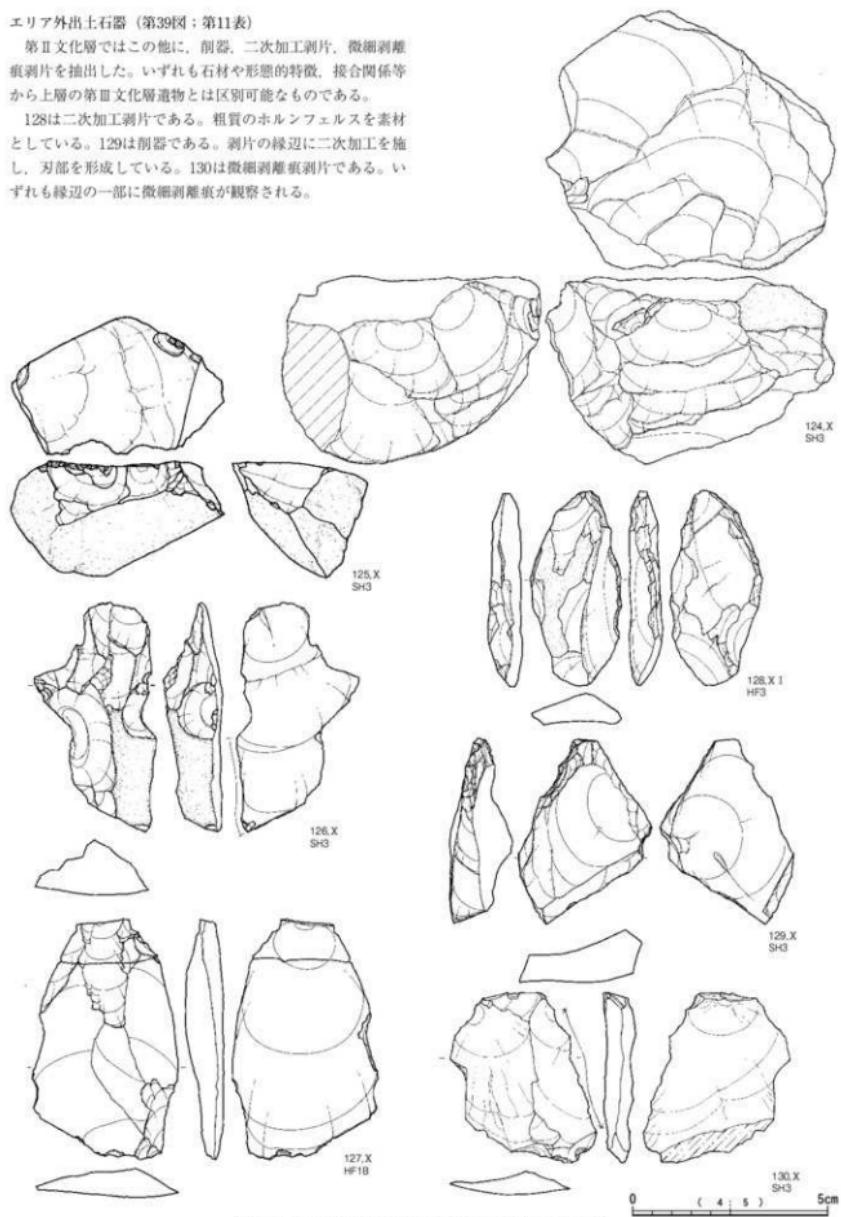


第38図 第Ⅱ文化層第3エリア出土石器実測図(8)

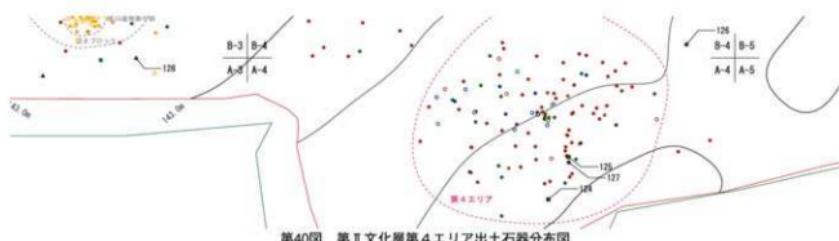
エリア外出土石器（第39図；第11表）

第Ⅱ文化層ではこの他に、削器、二次加工剥片、微細剥離痕剥片を抽出した。いずれも石材や形態的特徴、接合関係等から上層の第Ⅲ文化層遺物とは区別可能なものである。

128は二次加工剥片である。粗質のホルンフェルスを素材としている。129は削器である。剥片の縁辺に二次加工を施し、刃部を形成している。130は微細剥離痕剥片である。いずれも縁辺の一部に微細剥離痕が観察される。



第39図 第Ⅱ文化層第4エリア及びエリア外出土石器実測図



第40図 第Ⅱ文化層第4エリア出土石器分布図

### 第3節 接合資料

第Ⅱ文化層では、頁岩Ⅲ類を中心に接合を試みた結果、合計67個体の接合資料が得られた。接合作業では第Ⅲ文化層の資料とも比較を行ったが、頁岩Ⅲ類に区分した中でも第Ⅲ文化層で多用される石材とは肉眼的な特徴が異なる資料が多く、念のため接合を試みたがほとんど接合しなかった。

接合資料は、角錐状石器の関連資料が多いが、この他に石核接合資料も数点含まれる。

第3エリアの頁岩Ⅲ類のみに限定すれば、接合可能な剥片石核等の総点数は2269点で、接合総点数は736点である。接合可能な剥片に占める接合総点数の比率（接合率）は26.6%である。全体の接合状況を第41図に示す。

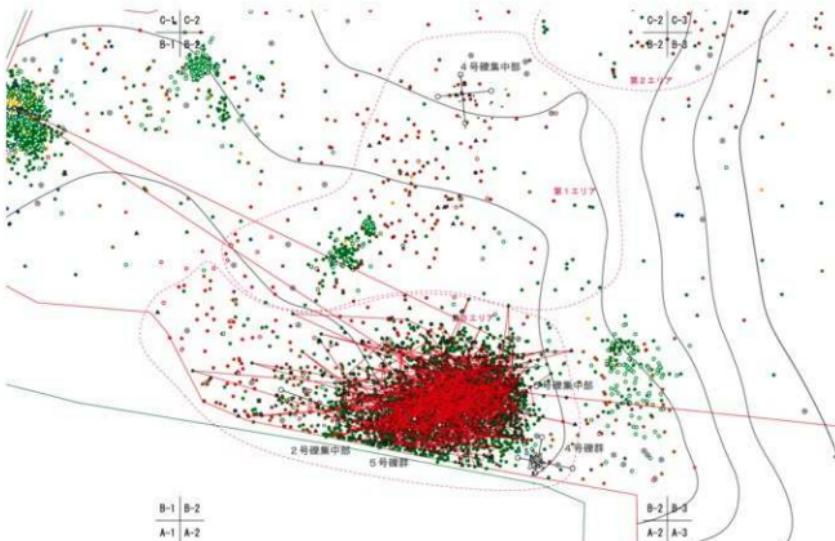
本節ではこれらの接合資料のうち、石器製作技術が理解可能な資料を中心に、29個体を掲載する。資料の記載にあたっては、剥離順等を記号化し、実測図、分布図、観察表等に示した。詳細な記載方法等については、第Ⅲ章第3節を参照されたい。

### 接合資料No.3 (第42図～第43図)

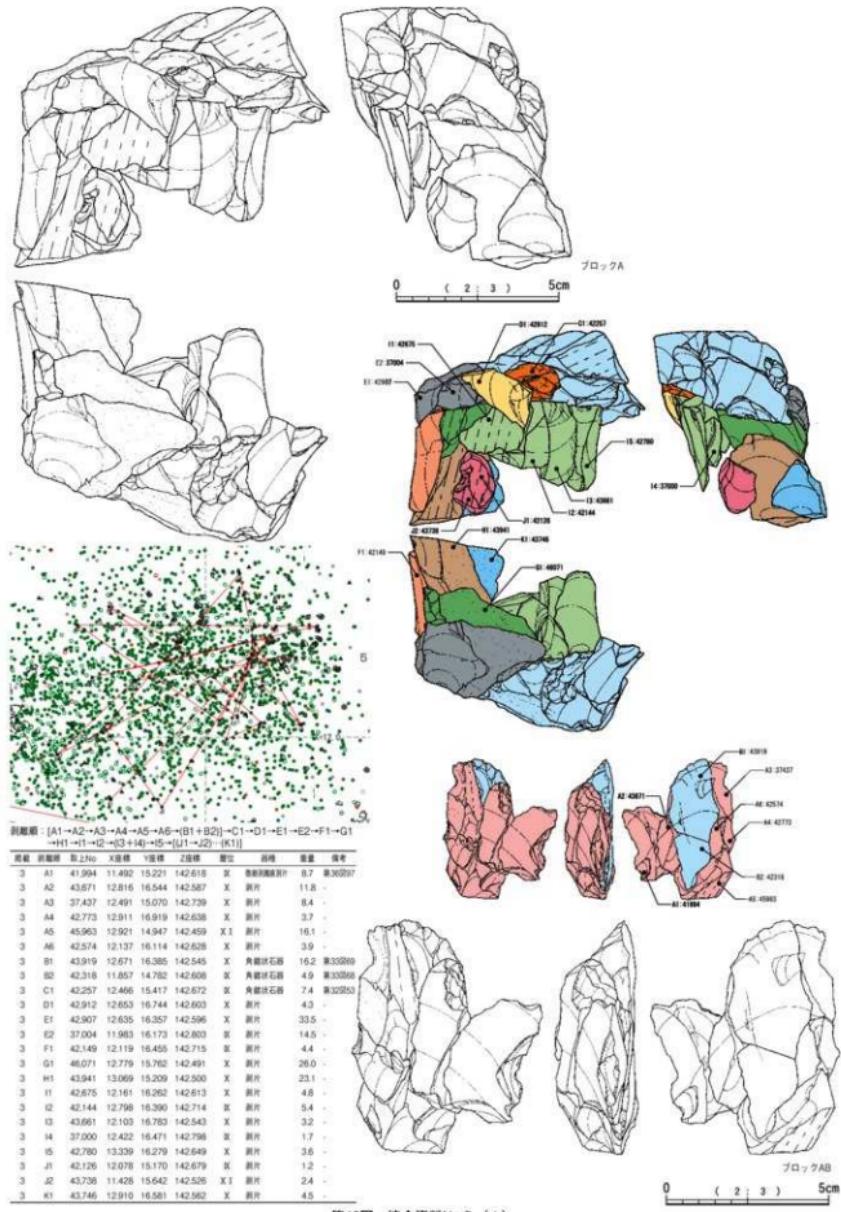
角錐状石器を含む接合資料である。厚さ5cm程の板状に分割された礫を素材とし、大型の幅広剥片を剥離して素材剥片とする。製品はこの幅広剥片を縱に使用し、素材の頭部を基部側に配置して、両側縁から二次加工を施している。二次加工の程度は左右の側縁で異なり、主に正面右側縁の方が変形度が大きい。製品は折損しているが完形状態では主軸長7～8cm程度と比較的大型である。

### 接合資料No.4 (第44図～第46図)

拳大の角礫を素材として幅広の不定形剥片を剥離し、これを素材として角錐状石器を作成している。素材剥片は幅5cm程度のものが多く、このうち比較的厚手のブロックAB、ブロックDEでは主に素材剥片の端部側から二次加工が施されている。二次加工は製品からみればどちらかの側縁に偏る場合が多く、ブロックAB、ブロックDEの場合、素材の端部側からの変形度が大きい。頭部側の二次加工はブロックABが



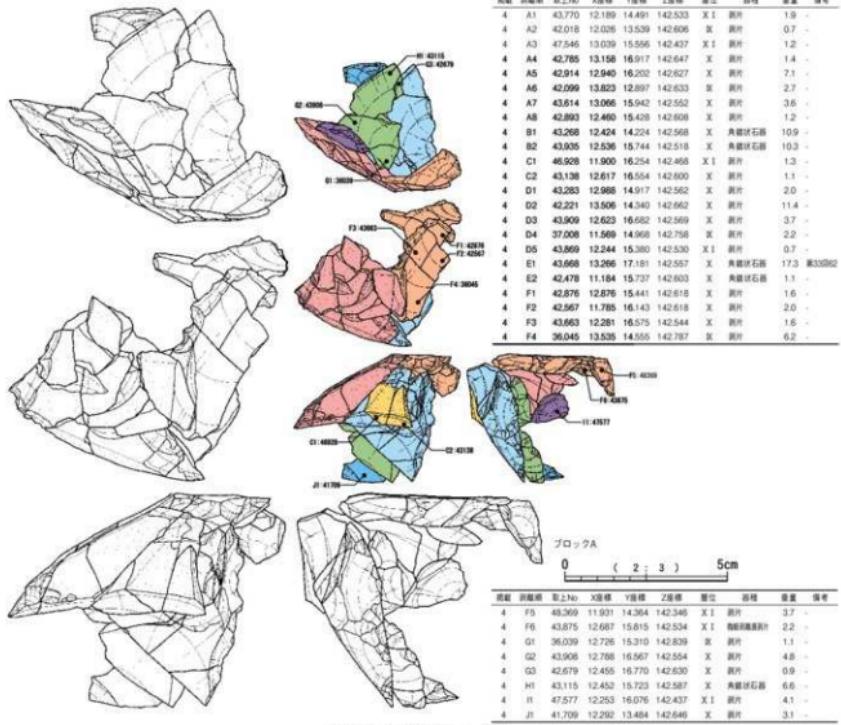
第41図 第Ⅱ文化層石器接合状況図



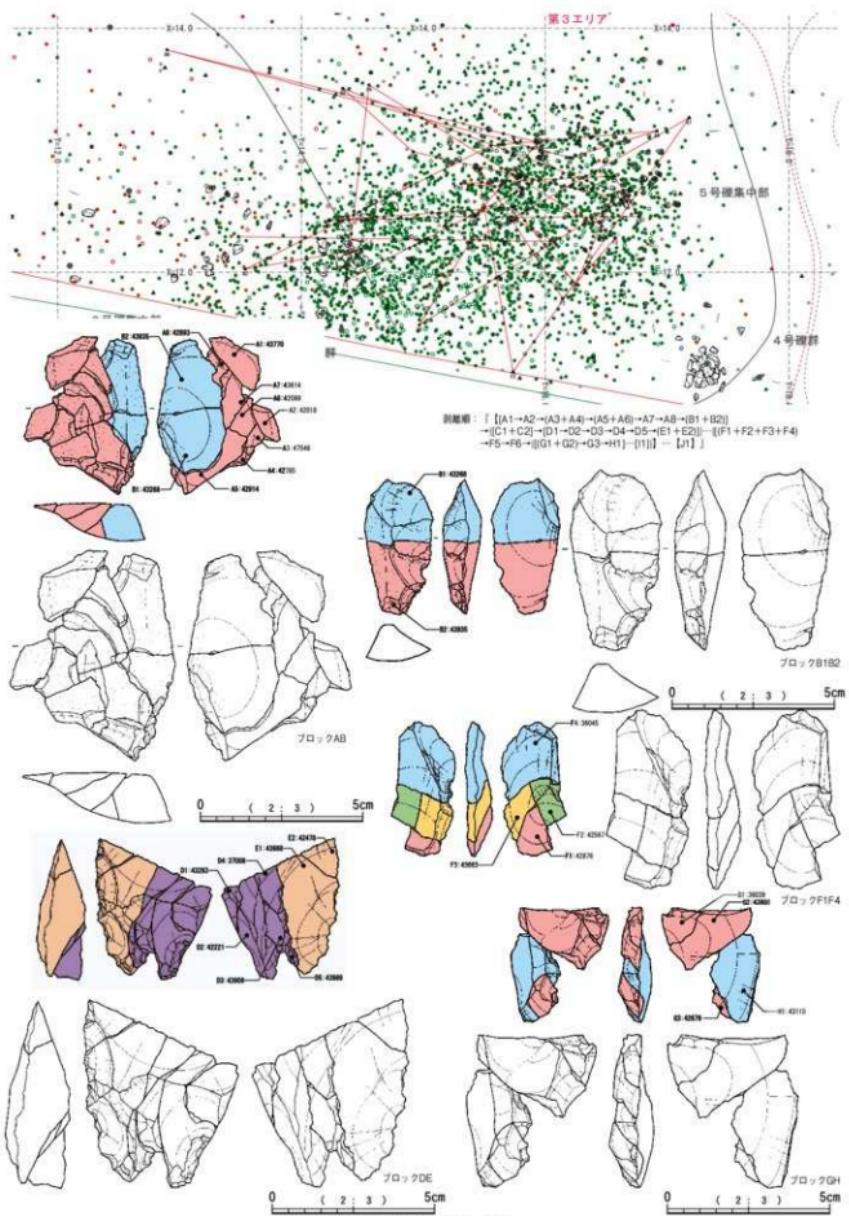
第42回 接合資料No 3 (1)



第43図 接合資料No3 (2)



第44図 接合資料No4 (1)



第45図 接合資料No 4 (2)



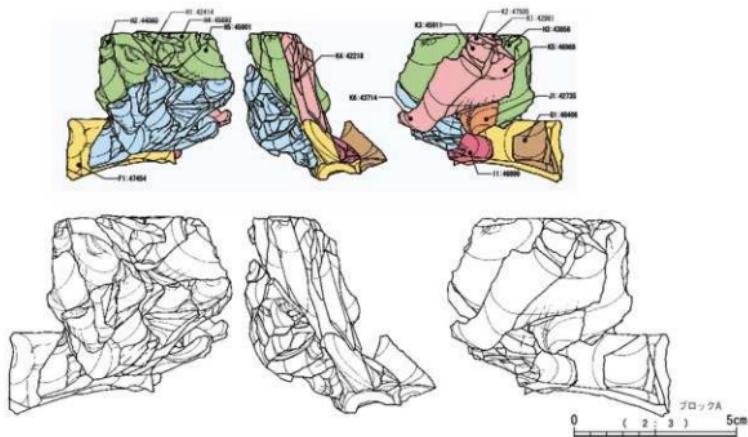
第46回 接合資料No4 (3)

ほとんど行われておらず、ブロックDEも打点付近の素材面を簡単に除去する程度で素材の変形度は小さい。

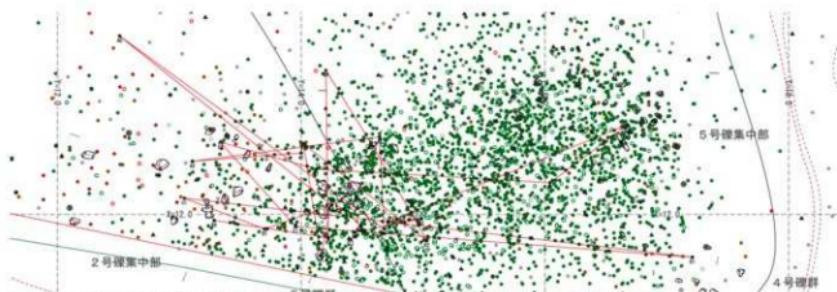
この他、ブロックF1F4ブロックGHのように、比較的薄手の資料ながら二次加工が加えられている資料がある。特にブロックGHは正面右側縁を中心にある程度二次加工が進んでおりブロックAB、ブロックDE等との関連に注意を要する。

### 接合資料No.5 (第47図～第48図)

角錐状石器を含む接合資料である。石核形状は不明であるが、幅5cm程度の不定形剥片を素材として製品を作出している。二次加工段階の接合資料が比較的小ないため詳細は明らかではないが、角錐状石器は素材を横に使用し、両側縁から三次加工を加えている。主軸長は7cm程度の櫛状の剥片を茎



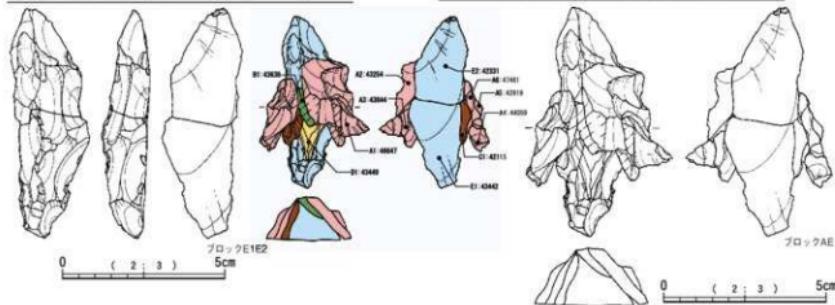
### 第47回 接合資料No5 (1)



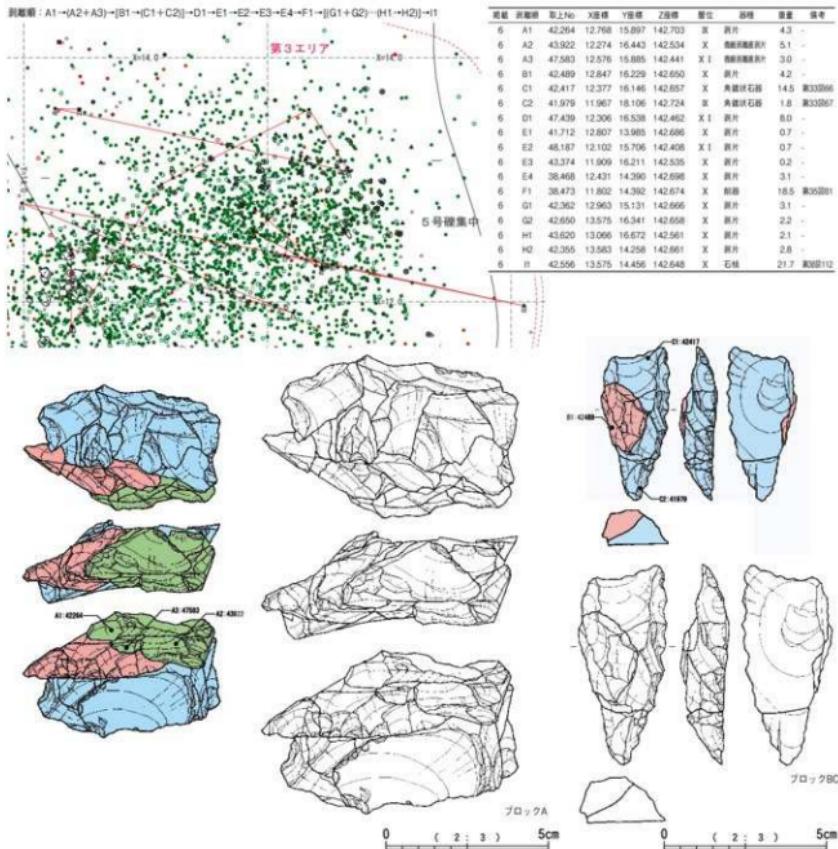
測驗題：E(A1→A2→A3)→[A4→A5→A6]→B1→C1→D1→[E1+E2)]→F1→G1→H1→[H2+H3]→H4→H5→B1→J1)→K1→[K2+K3+K4]→[K5+K6]

規格	基材	面積	厚度	重量	備註
5 A1	45.647	12.503	14.000	142.430	X1
5 A2	43.254	12.48	13.107	142.420	X1
A3	43.254	12.64	14.643	152.508	X1
A4	44.059	12.64	11.680	142.485	X1
A5	42.819	13.462	12.510	142.488	X1
A6	47.461	12.705	12.449	142.363	X1
B1	43.623	11.880	13.700	142.473	X1
C1	42.115	12.133	10.041	142.529	X1
D1	43.449	11.648	17.200	142.542	X1
E1	43.442	11.900	13.954	142.533	X1
E2	42.331	12.91	13.337	142.542	X1
F1	47.454	12.371	14.126	142.366	X1
G1	48.406	12.260	16.043	142.394	X1

前照灯	副驾驶室	后乘客室	行李箱	重量	备注
S_1	42.414	12.735	16.676	142.672	X 衬片
S_2	44.060	11.936	14.714	142.402	X 衬片
H_3	43.856	11.964	14.985	142.523	X 衬片
H_4	45.892	11.853	14.446	142.450	X 衬片
H_5	45.901	11.906	14.485	142.450	X 衬片
H_6	46.899	12.114	14.252	142.434	X 衬片
J_1	42.735	11.666	14.163	142.565	X 衬片
K_1	42.981	12.579	14.018	142.586	X 衬片
K_2	47.500	11.786	15.012	141.416	X 衬片
K_3	45.911	12.594	14.572	142.467	X 衬片
K_4	42.218	13.181	14.201	142.662	X 衬片
K_5	46.968	11.808	14.222	142.426	X 衬片
K_6	43.714	11.951	12.263	142.357	X 衬片



第48図 接合資料No5 (2)



第49図 接合資料No6 (1)

材とし、両側縁に調整剥片が接合する。二次加工段階の接合資料が比較的少ないため二次加工の詳細については不明である。この他、角錐状石器とは別に、微細剥離痕剥片等も接合している。微細剥離痕剥片は2点含まれ、いずれも主軸長4cm~5cm程度のやや薄手の素材を使用している。いずれも削器的な機能が想定される。

#### 接合資料No6 (第49図~第50図)

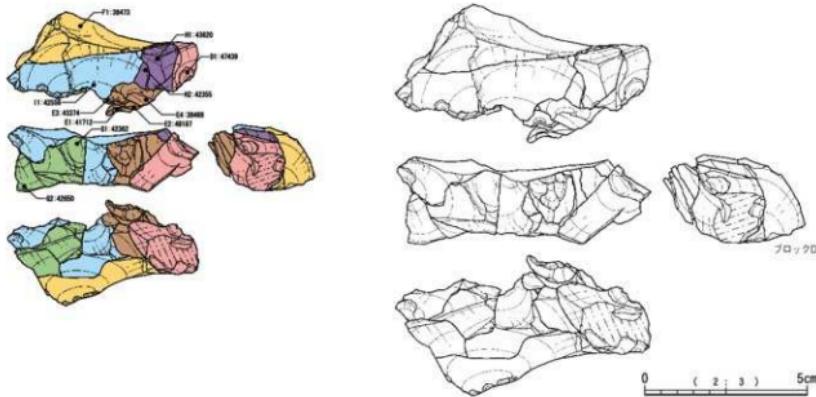
角錐状石器と微細剥離痕剥片を含む接合資料である。BCは角錐状石器で幅6cm程の石核から横広の素材剥片を剥離し、これに主に尾部側から二次加工を加えて製品としている。製品の基部側には素材の縁が残されており正面形は二等辺三角形形状を呈するが、先端部の二次加工の特徴等から角錐状石器に区分した。素材剥片が剥離された石核は、その後

番号	採取場所	東N緯度	西緯度	南緯度	北緯度	部位	種類	重量	番号
6	A1	42.264	12.768	15.097	142.703	X	剥片	4.3	-
6	A2	43.922	12.274	15.443	142.554	X	微細剥離痕剥片	5.1	-
6	A3	47.583	12.578	15.885	142.441	X	微細剥離痕剥片	3.0	-
6	B1	42.489	12.847	16.229	142.650	X	剥片	4.2	-
6	C1	42.417	12.377	16.146	142.857	X	角錐状石器	14.5	第30回66
6	C2	41.979	11.967	16.106	142.724	X	角錐状石器	1.8	第30回67
6	D1	47.439	12.309	16.538	142.462	X	剥片	8.0	-
6	E1	41.712	12.801	13.985	142.696	X	剥片	0.7	-
6	E2	41.187	12.103	15.706	142.408	X	剥片	0.7	-
6	E3	43.374	11.000	16.211	142.535	X	剥片	0.2	-
6	E4	38.468	12.431	14.390	142.698	X	剥片	3.1	-
6	F1	38.473	11.803	14.392	142.674	X	剥片	18.5	第35回1
6	G1	42.362	12.963	15.131	142.666	X	剥片	3.1	-
6	G2	42.650	13.075	16.341	142.658	X	剥片	2.2	-
6	H1	43.620	13.066	16.672	142.561	X	剥片	2.1	-
6	H2	42.355	13.583	14.258	142.661	X	剥片	2.8	-
6	I1	42.556	13.575	14.456	142.648	X	石核	21.7	第30回12

も剥離が進行し、ほぼ極限に近い状態まで剥離が進行した後放置されている。この段階で生産された剥片については用途不明である。

#### 接合資料No7 (第51図~第52図)

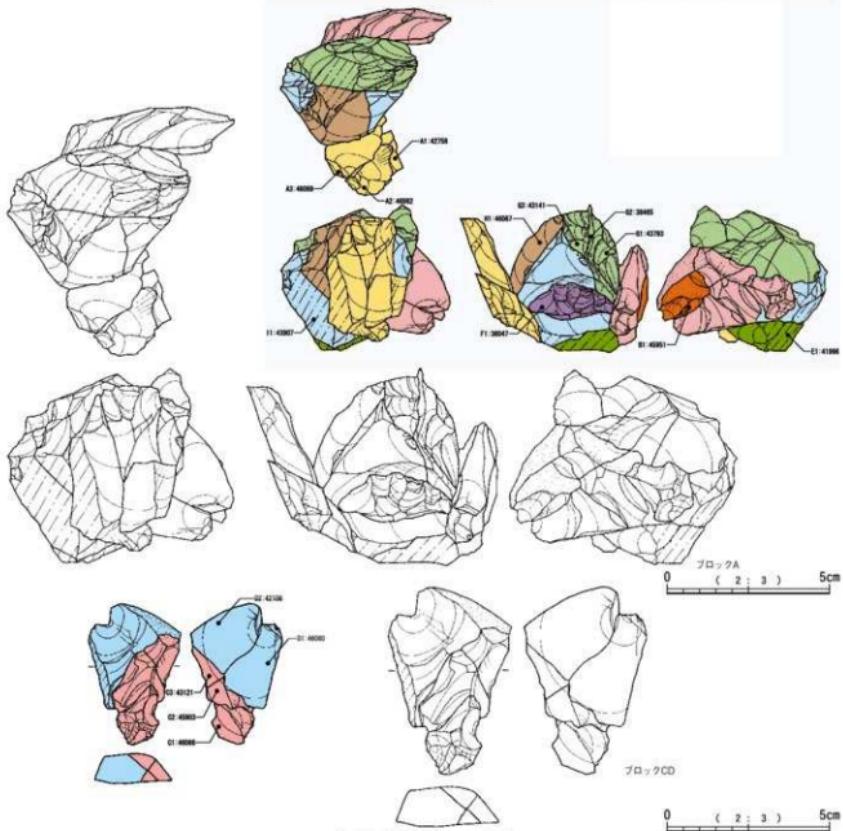
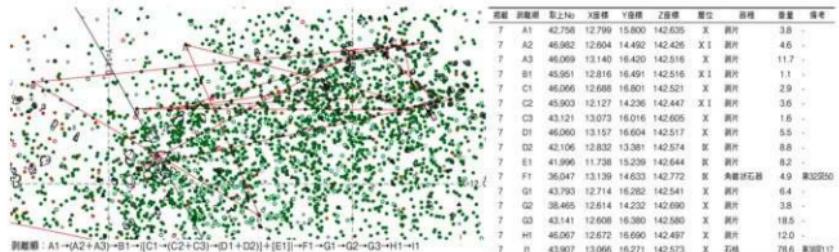
小型の角錐状石器と微細剥離痕剥片を含む接合資料である。径7~8cmの拳大の拳頭を素材とし、頻繁に打面転しながら素材剥片の生産を行っている。角錐状石器は主軸長3cm程度で製品のみの状態で石核に接合している。角錐状石器は素材剥片を横向きに使用し、頭部と尾部方向から二次加工が施されている。幅は大きく変化しているものの、主軸長は素材剥片の幅と比べてさほど変化していない。微細剥離痕剥片は主軸長5cm程度の薄手の剥片の破片を利用している。



第50図 接合資料No 6 (2)



第51図 接合資料No7 (1)

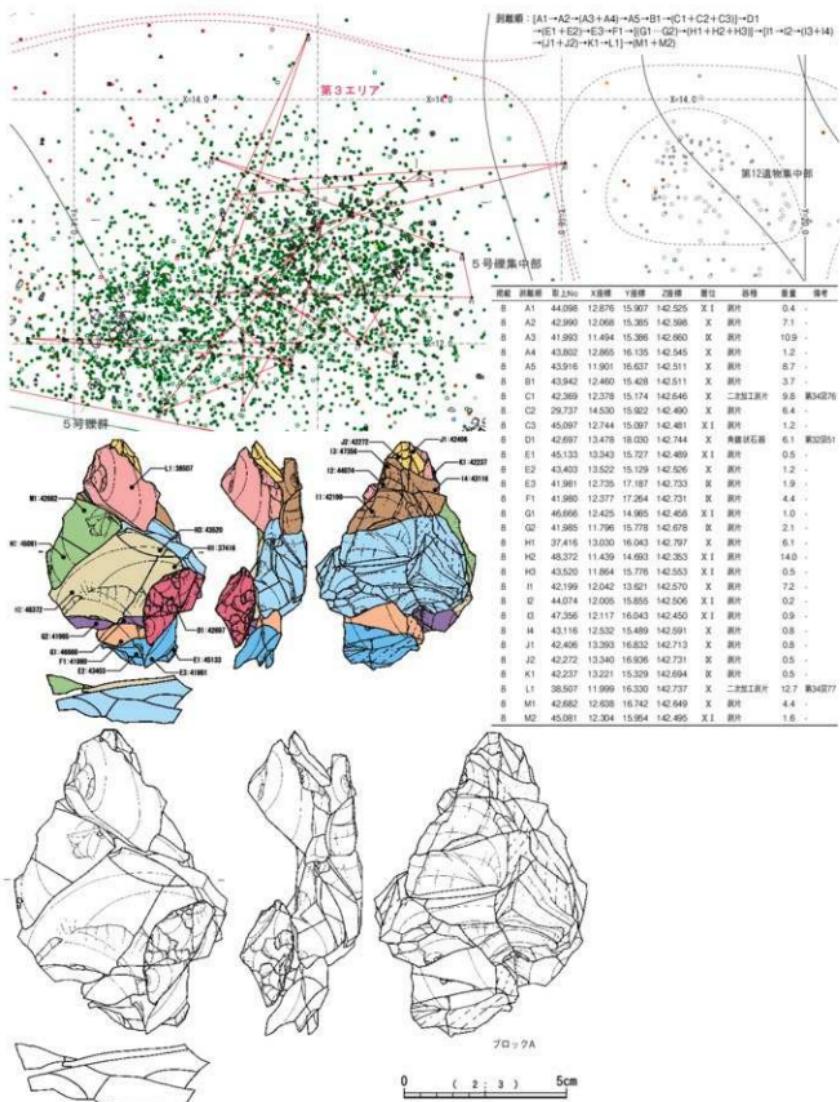


第52図 接合資料No7 (2)

接合資料No8 (第53図～第54図)

小型の角錐状石器と削器を含む接合資料である。石核は含まないものの、素材剥片剥離段階の剥片が多く接合している。素材剥片は幅4～7cm程度のものが多い。角錐状石器

は主軸長3cm前後の比較的小型の資料が接合している。この他、削器が接合している。削器は角錐状石器の未製品の可能性もある。



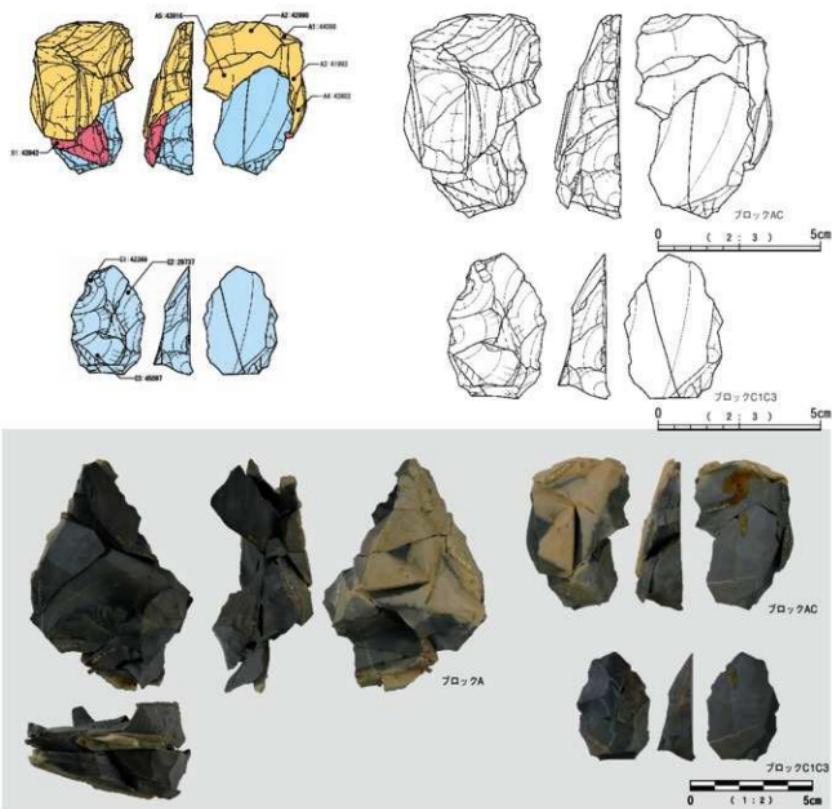
第53図 接合資料No 8 (1)

接合資料No 9 (第55図～第56図)

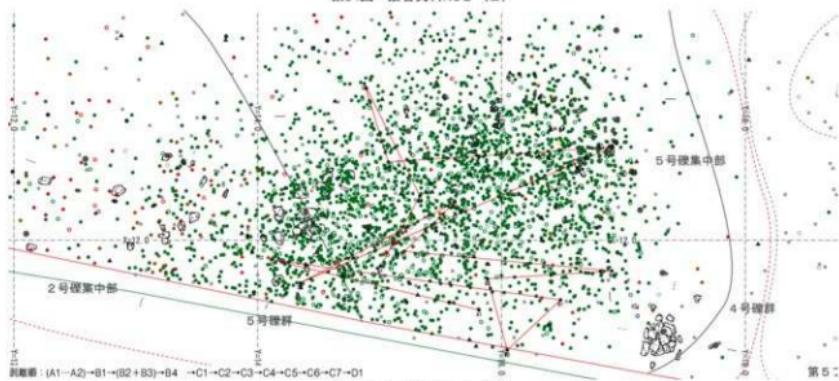
角錐状石器のリダクション資料と見られる資料である。幅8cm程度の厚手の横広削片を素材とし、素材剥片の頭部方向から比較的のやや大きめの剥離によって順次剥離を進めてい

る。途中で数回の打面転移を行なながらも、最終的には素材的主要剝離面側から剝離を進行させている。

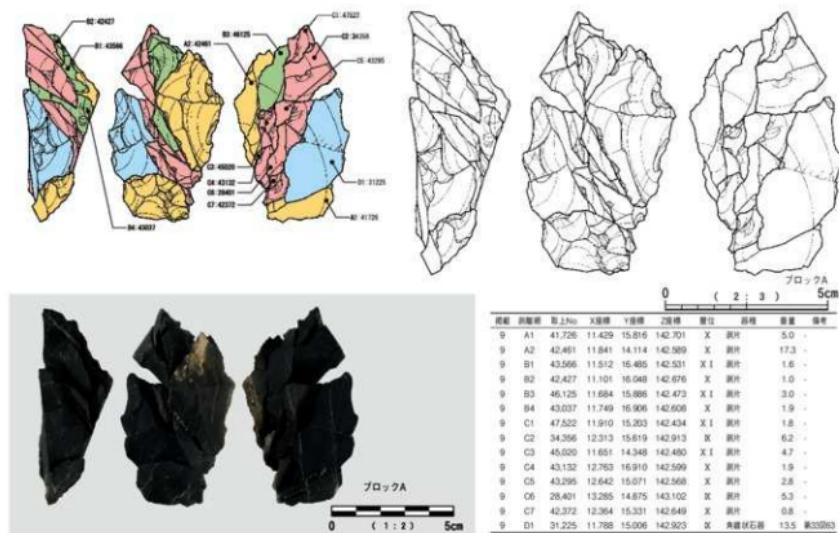
剥離のサイズが比較的大きく、最終製品にも細かい調整剥離があまり観察されないため、石核接合資料の可能性も考え



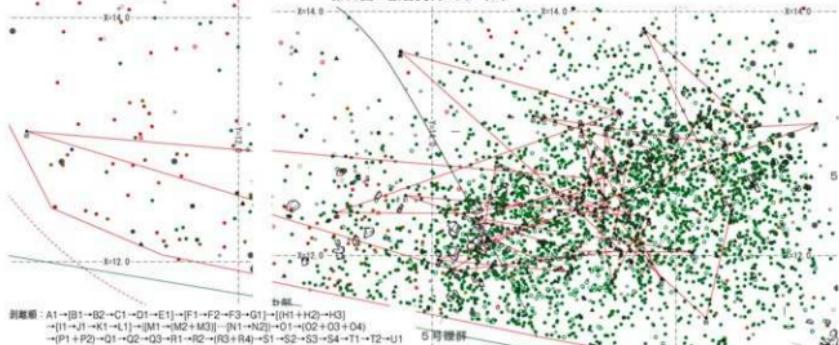
第54図 接合資料No8 (2)



第55図 接合資料No9 (1)



第56図 接合資料No9 (2)



第57図 接合資料No10 (1)

られるが、稜上に観察される稜上調整様の剥離から角錐状石器の関連資料と判断した。なお最終製品は主軸長5cm程度で放棄されているが、細かい調整剥離はあまり観察されない。

#### 接合資料No10 (第57図～第61図)

最大径20cm程度の扁平な角錐から横広の剥片を剥離し、これを素材として角錐状石器等を製作する資料である。

素材剥片の剥離は、当初は石核素材の形状を生かしながら交互剥離。もしくは適宜打点を移動させながら幅8cm程度の横広剥片を剥離し、適切な打面と作業面角度が確保された段階で打面をやや固定化して連続的な剥離を指向する。

製品は主軸長7cm程度の角錐状石器(ブロックFG)、二次加工

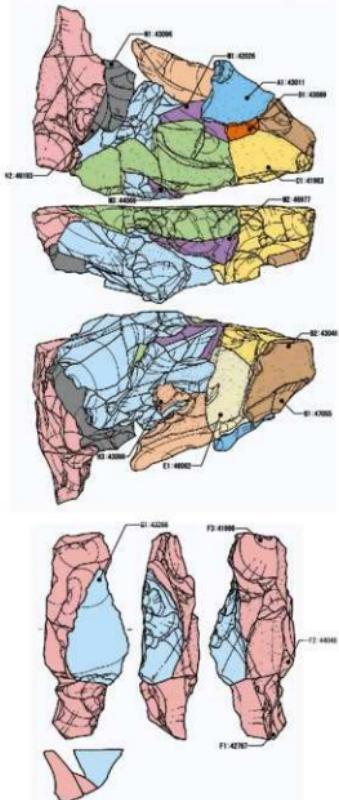
剥片(ブロックH1H2、ブロックIL)などがある。二次加工剥片を含むブロックILについては、二次加工の途中で欠損しているものの二次加工がかなり進行しており、角錐状石器製作を目的とする調整が行われた可能性がある。

最終段階のT以降のブロックについては、この剥離自体が素材剥片の生産を目的とするものか、角錐状石器の製作を意図したもののか容易に判断できない。しかし、Tブロック左側面を中心に細かな剥離が施される部分があるため、最終的には角錐状石器に転用された可能性がある。

#### 接合資料No11 (第62図～第64図)

最大径15cm程度の角錐を素材として、剥片剥離を行って

記番	剥離番	X座標	Y座標	Z座標	部位	削片	重量	密度
10	A1	43.011	12.942	15.632	142.606	X 剥片	11.1	-
10	B1	47.055	12.182	15.494	142.498	X1 剥片	1.6	-
10	B2	43.048	11.488	16.248	142.576	X 削片	29.4	-
10	C1	41.983	12.360	16.458	142.719	X 剥片	47.0	-
10	D1	43.089	13.859	15.730	142.624	X 削片	2.9	-
10	E1	46.062	13.953	16.611	142.514	X 削片	27.1	-
10	F1	42.787	13.079	17.150	142.644	X 削片	11.1	-
10	F2	44.048	11.964	14.090	142.505	X1 削片	12.7	-
10	F3	41.988	11.867	15.114	142.659	X 削片	17.6	-
10	G1	43.266	12.141	14.456	142.561	X 角錐状石器	15.7	[303581]
10	H1	43.385	12.396	15.432	142.530	X 削器	21.3	-
10	H2	45.957	13.015	15.225	142.481	X1 削器	1.5	-
10	H3	43.099	12.731	15.531	142.591	X 削器	1.7	-
10	I1	46.750	11.871	14.140	142.422	X1 削片	2.6	-
10	J1	42.927	12.040	15.540	142.612	X 削片	7.5	-
10	K1	42.031	13.671	13.741	142.688	X 削整剥片	4.7	[3037100]
10	L1	43.939	13.173	15.533	142.499	X 角錐状石器	31.7	-

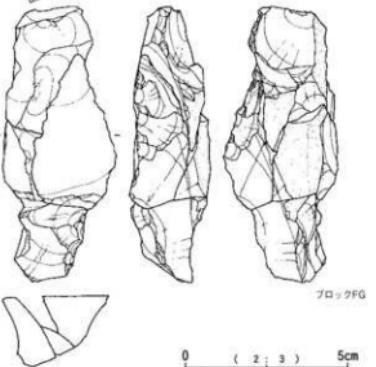
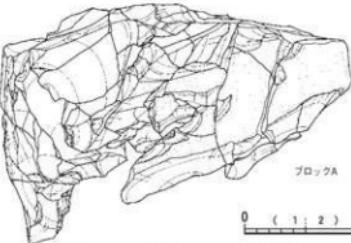
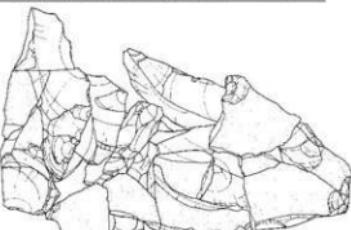


第58図 接合資料No10 (2)

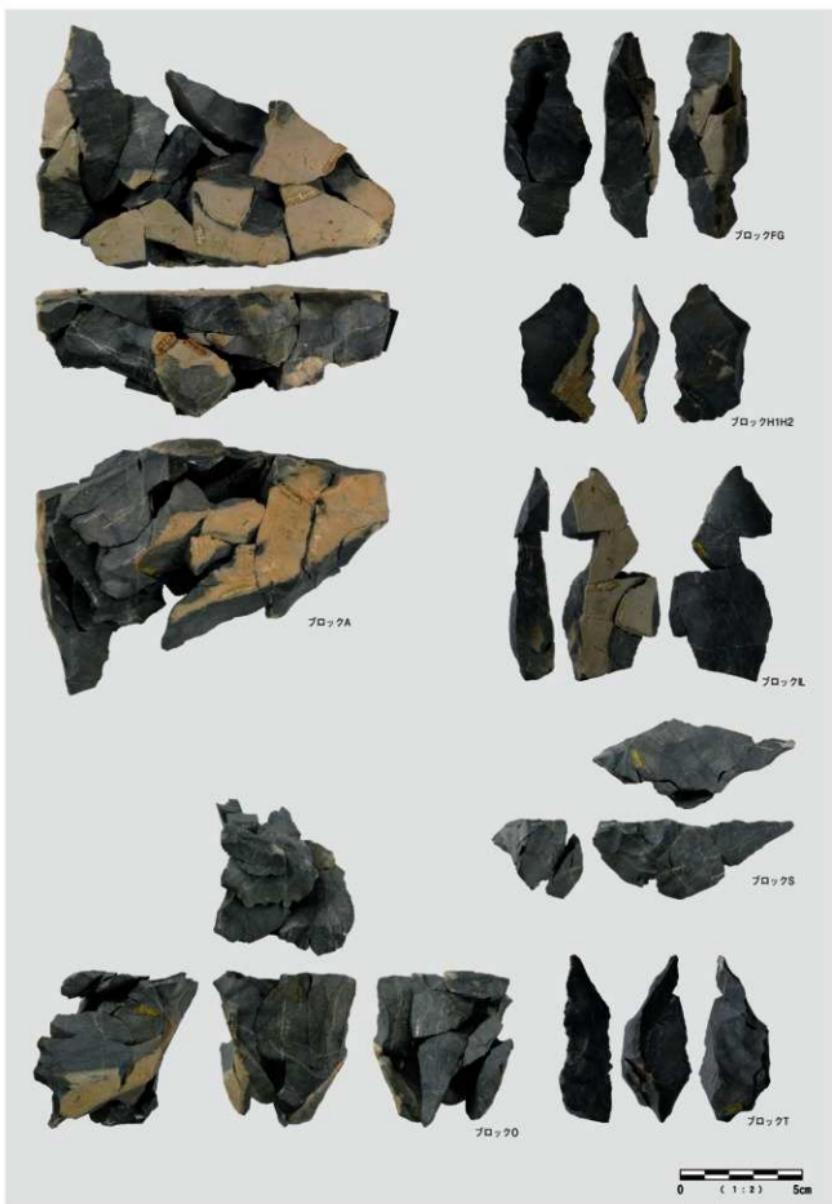
いる。周縁部をやや大きめの剥離によって整形した後、打面展開を繰り返しながら幅4cm程度の剥片を剥離している。

剥片の一部には二次加工が加えられ、削器等が製作されている。計画的に横長の剥片を生産しようとした痕跡は見受け

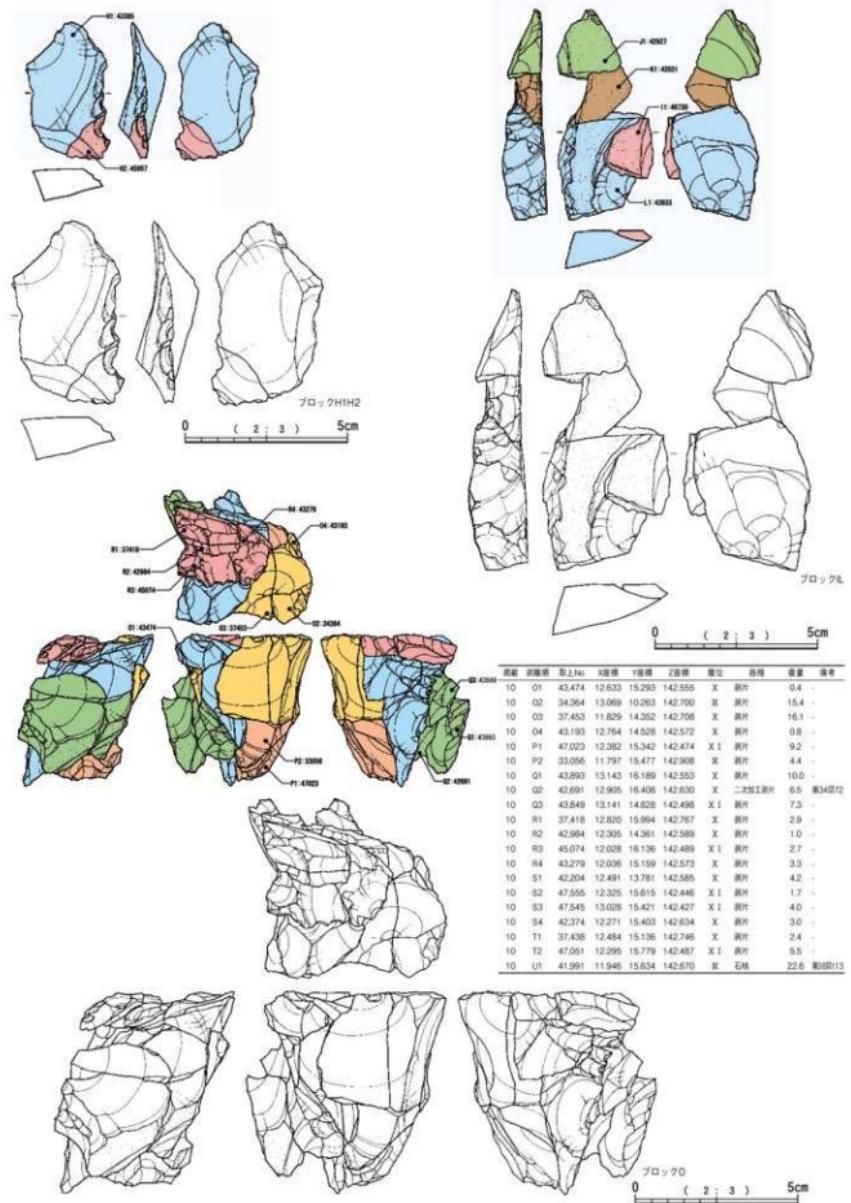
記番	剥離番	X座標	Y座標	Z座標	部位	削片	重量	密度
10	M1	42.026	12.262	13.214	142.590	X 削片	5.0	-
10	M2	46.977	12.344	14.263	142.413	X1 削片	14.3	-
10	M3	44.069	12.513	15.234	142.491	X1 削片	6.4	-
10	N1	43.096	12.948	15.321	142.588	X 削片	13.9	-
10	N2	48.193	11.806	15.880	142.416	X1 削片	11.2	-



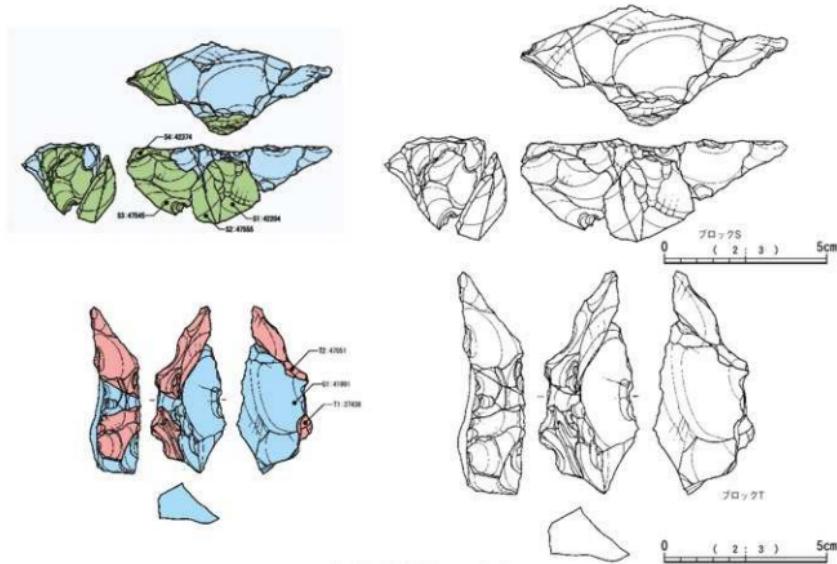
られないものの、剥離がある程度進行すると石核は尖頭器状を呈する。その先端部付近に細かい調整剥離が観察されるため、最終的には角錐状石器に転用されている可能性が高い。



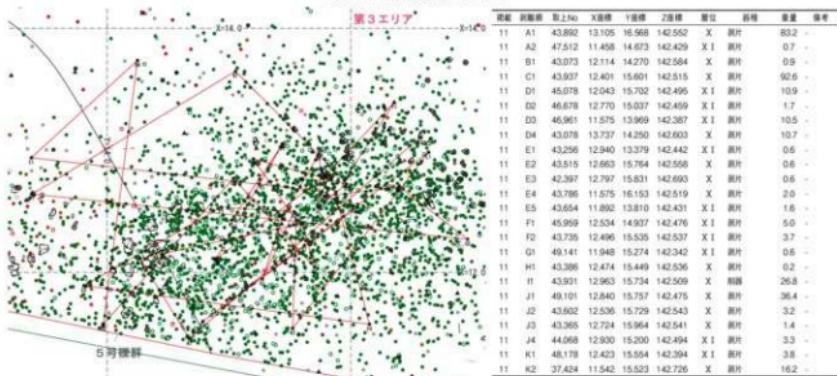
第59図 接合資料No10 (3)



第60回 接合資料No10 (4)



第61図 接合資料No10 (5)



第62図 接合資料No11 (1)

接合資料No12 (第65図～第66図)

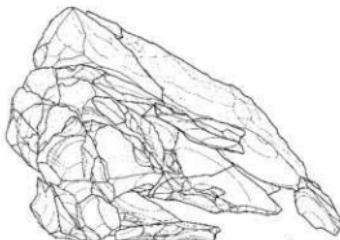
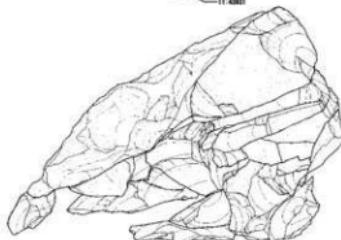
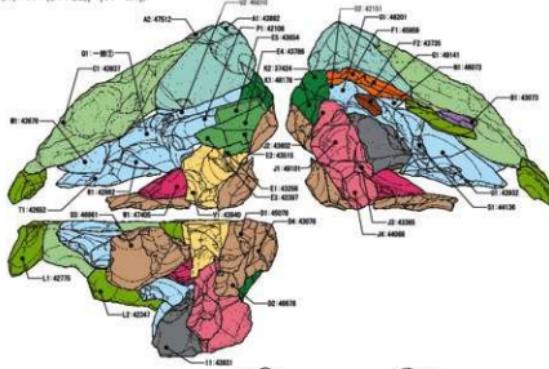
挙大の分割種から剥離された剥片を主とする接合資料である。剥離の初期段階では比較的やや大きめの剥離によって石核形状を整え、その後は主軸長3～5cm程度の剥片を多く剥離している。空隙部分も残されており、剥離の全体像を十分に判断できる状態ではないが、接合資料には削器や微細剥離痕剥片などが含まれる。

接合資料No13 (第67図～第69図)

緑色の頁岩を素材とする接合資料である。本遺跡の使用石材ではやや異質な個体であり、注意を要する。

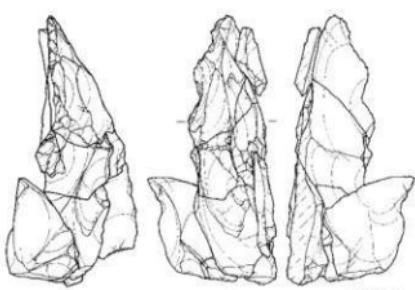
基本的には石核接合資料であり、扁平な角錐を素材として、自然面を打面として剥離を行っている。比較的やや大きめの剥離も目立つが、剥離されている剥片の主軸長は4cm前後のものが多い。接合資料には二次加工剥片が含まれる。調整剥離が正面左側縁に偏り、角錐状石器との関連を想起させるものである。

剥離層: <[A1+A2]...[B1]]>→C1→+<[D1+D2]→D3→D4→[E1+E2+E3+E4+E5]...[F1+F2]>→G1→[[H1→I1]+(J1+J2+J3+J4)]→K1→K2→[L1→L2]→[[M1→N1]→[O1+O2]→P1→Q1  
→[R1→S1]→T1→[U1+U2]]→[V1→W1]]>

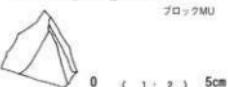


プロックA

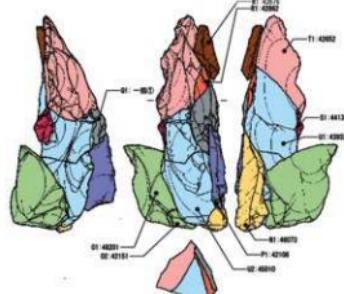
規格	商標	上工數	Y面積	Z面積	單位	路徑	重量	備註
11. L1	LT	47.27	12.985	16.638	142.835	X	黃片	6.2
12. L2	34.37	15.69	14.796	17.796	142.835	X	黃片	6.1
11. M1	M1	43.676	12.522	16.052	142.567	X	黃片	2.6
11. M1	M1	46.073	12.522	17.597	142.508	X	黃片	6.0
11. O1	O1	48.201	12.762	16.297	142.427	XI	黃片	28.4
12. O2	O2	45.151	13.272	16.969	142.427	XI	黃片	1.0
11. P1	P1	42.108	12.642	13.384	142.598	X	銀點圓孔	6.8
Q1	-Q1	0.000	0.000	0.000	0.000	X	黃片	7.0
11. R1	R1	36.232	13.648	15.064	142.625	X	黃片	2.5
11. S1	S1	44.136	12.762	15.948	142.506	XI	黃片	0.5
11. T1	T1	45.622	13.39	16.356	142.502	X	二加三黑膠	1.92
11. U1	U1	43.932	12.762	17.591	142.530	X	樹脂	38.1
12. U2	U2	45.010	12.189	14.893	142.513	XI	樹脂	20.9
11. V1	V1	43.940	13.50	15.040	142.515	X	樹脂	53.6
11. W1	W1	47.405	12.428	15.002	142.423	XI	黃片	9.5



20-2MU



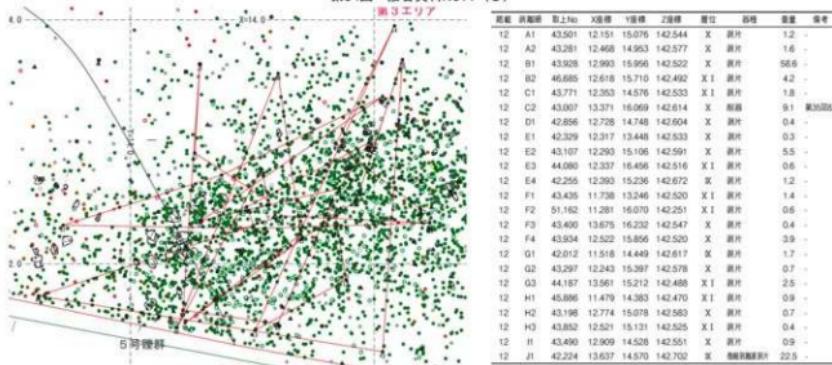
0 ( - 1 ± 2 ) 5cm



第63回 接合資料No11(2)



第64図 接合資料No11 (3)



第65図 接合資料No12 (1)

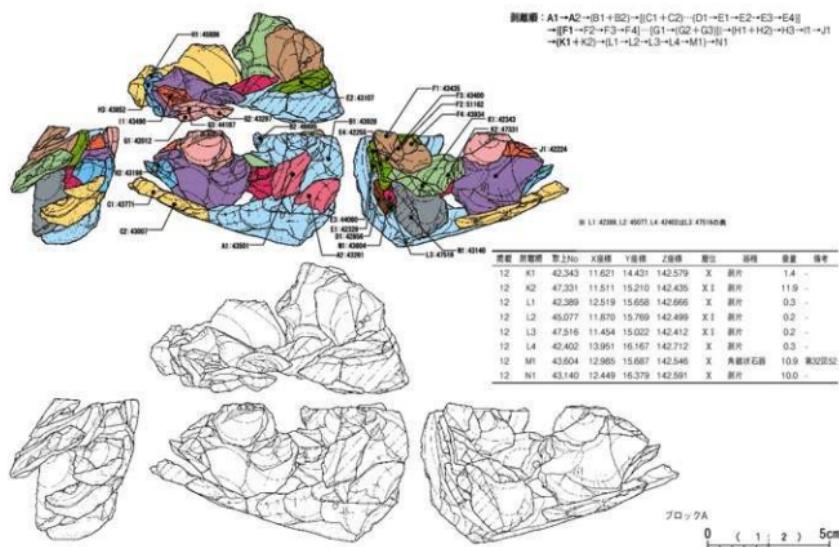
接合資料No14 (第70図～第71図)

最大径13cm程度の扁平な角礫から剥離された。幅5~6cm程度の剥片を主とする接合資料である。剥片の一部には石核素材として利用され、さらに剥離が進行するものがある。また、一部には二次加工に類する細かい剥離も看取られ、角錐状石器関連の資料が含まれる可能性もある。

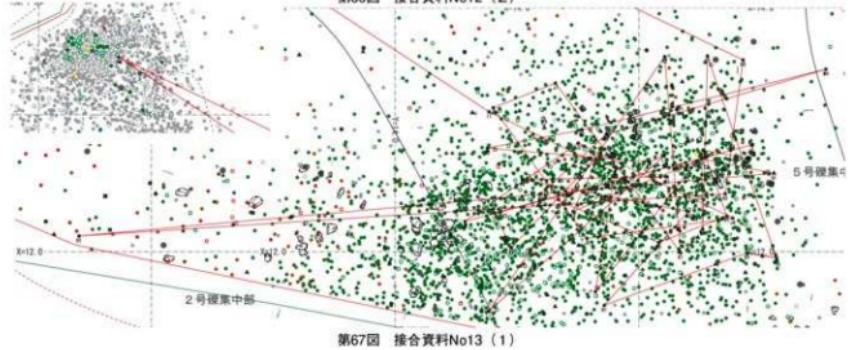
固化後、角錐状石器を含む接合資料No24が接合した。

接合資料No15 (第72図～第73図)

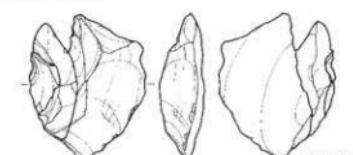
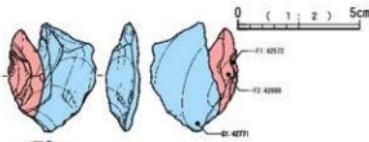
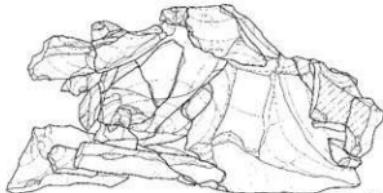
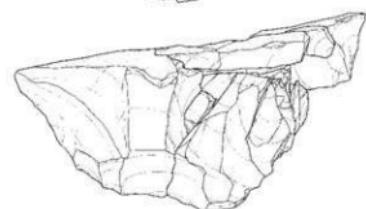
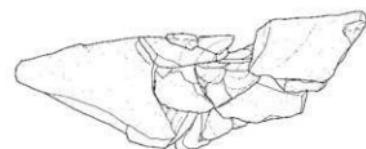
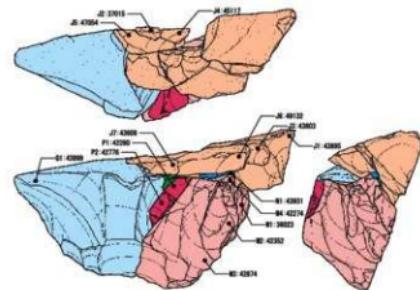
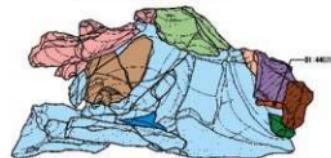
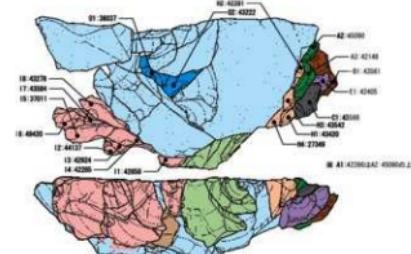
最大径15cm程度の亜円礫を素材とする接合資料である。原礫のサイズがほぼ復元可能な状態まで接合しているが、中央部には空隙が残されており、剥離目的は十分に判断できない。剥離の初期段階では、幅5cm~7cm程度の大型の剥片を剥離しており、これを石核としてさらに数枚の剥離が行われている。また、石核が拳大となった段階では、簡理によっ



第66圖 接合資料No12 (2)

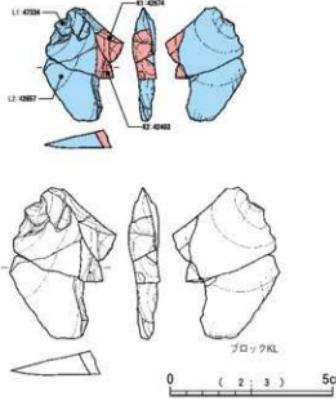


測量順 : [A1 → A2 + A3] → B1 → C1 + D1 → E1] → [F1 → F2 → G1] → H1 → H2 + H3 → H4  
 → [I1 → I2 + I3 → I4 + I5] → [G5 + I7] → [E6] → [J1 + J2] → J3 → J4 → J5 → [J6 + J7]  
 → [K1 → K2 → (L1 + L2)] → M1 → M2 → [M3 + M4] → N1 → O1 → O2 → [P1 + P2] → Q1



第68図 接合資料No13 (2)

記号	高さ	幅	X座標	Y座標	Z座標	部位	基準	重量	密度
13	A1	42.286	12.614	16.232	142.696	X 裂片	片付	9.6	-
13	A2	45.090	12.592	15.043	142.489	X 裂片	片付	1.5	-
13	A3	42.148	12.329	16.407	142.694	X 裂片	片付	1.3	-
13	B1	43.961	11.981	15.361	142.534	X 裂片	片付	2.9	-
13	C1	43.568	11.990	16.889	142.525	X 裂片	片付	1.7	-
13	D1	44.020	11.949	17.129	142.502	X 裂片	片付	0.9	-
13	E1	42.405	13.604	16.563	142.731	X 裂片	片付	8.9	-
13	F1	42.572	12.986	16.524	142.630	X 裂片	片付	0.6	-
13	F2	42.689	12.286	16.513	142.636	X 裂片	片付	3.7	-
13	G1	42.771	12.643	17.109	142.618	X 二次加工裂片	片付	14.1	■34875
13	H1	42.299	12.129	11.406	142.432	X 裂片	片付	0.8	-
13	H2	42.281	12.475	16.708	142.681	X 裂片	片付	1.1	-
13	H3	43.542	13.572	16.858	142.577	X 裂片	片付	1.0	-
13	H4	27.349	18.470	6.659	142.859	X 裂片	片付	1.6	■34875
13	I1	42.858	13.147	14.771	142.692	X 裂片	片付	1.7	-
13	I2	44.137	12.653	15.803	142.506	X 裂片	片付	0.9	-
13	I3	42.824	11.673	15.844	142.552	X 裂片	片付	1.3	-
13	I4	42.265	12.740	16.473	142.666	X 裂片	片付	12.2	-
13	I5	37.011	12.331	15.459	142.801	X 裂片	片付	11.6	-
13	I6	49.420	12.809	15.696	142.360	X 裂片	片付	1.3	-
13	I7	43.584	12.033	14.953	142.548	X 裂片	片付	0.8	-
13	I8	43.278	12.219	14.816	142.595	X 裂片	片付	5.4	-

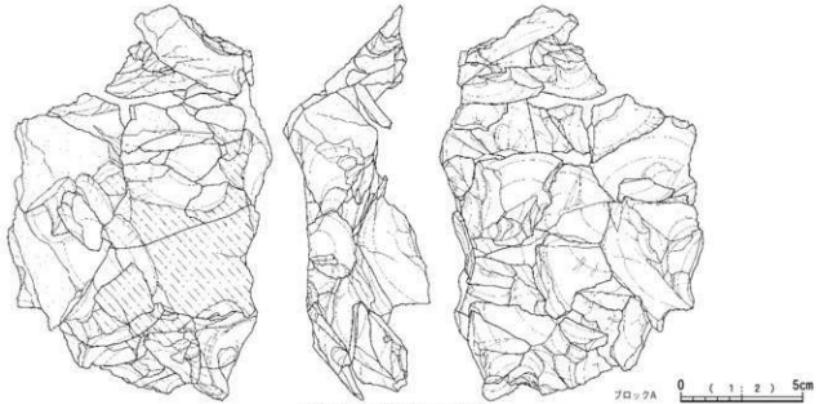
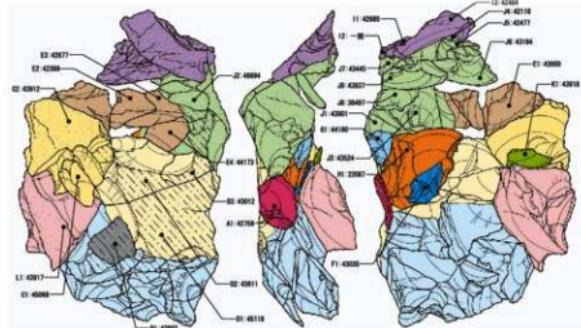
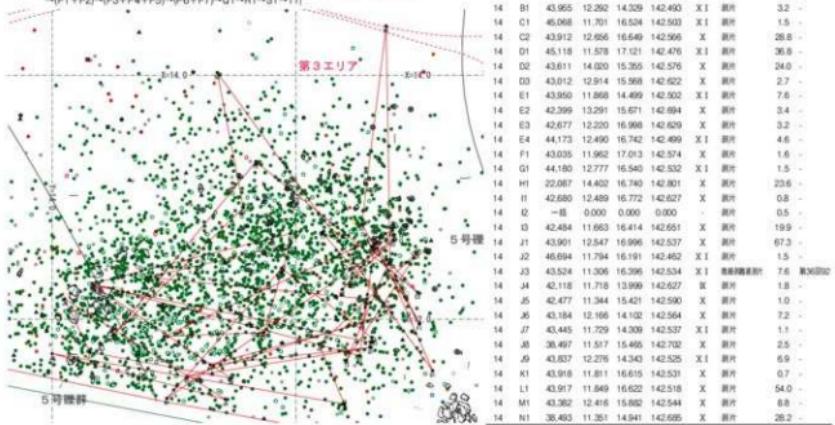


記号	高さ	幅	X座標	Y座標	Z座標	部位	基準	重量	密度
13	J1	43.895	12.876	16.926	142.574	X 裂片	片付	33.4	-
13	J2	37.015	12.349	14.572	142.784	X 裂片	片付	0.7	-
13	J3	43.603	12.880	15.930	142.542	X 裂片	片付	1.6	-
13	J4	45.117	12.276	16.771	142.500	X I 裂片	片付	0.9	-
13	J5	47.054	12.110	15.571	142.482	X I 裂片	片付	9.5	-
13	J6	49.132	13.180	14.808	142.361	X I 裂片	片付	15.6	-
13	J7	43.609	13.382	15.319	142.567	X 裂片	片付	6.4	-
13	K1	42.674	11.962	16.341	142.622	X 裂片	片付	0.8	-
13	K2	42.403	13.999	16.212	142.704	X 裂片	片付	0.5	-
13	L1	47.334	11.512	14.767	142.448	X I 裂片	片付	5.5	-
13	L2	42.657	12.786	16.209	142.641	X 裂片	片付	2.9	-
13	M1	36.020	12.735	16.082	142.831	X 裂片	片付	1.5	-
13	M2	42.352	12.850	14.759	142.640	X 裂片	片付	9.3	-
13	M3	42.874	12.999	15.532	142.620	X 裂片	片付	52.5	-
13	M4	42.274	13.496	17.533	142.708	X 裂片	片付	12.5	-
13	N1	43.931	12.963	15.734	142.509	X 裂片	片付	2.0	-
13	O1	36.037	12.477	15.197	142.875	X 裂片	片付	0.3	-
13	O2	43.222	12.076	16.163	142.560	X 裂片	片付	8.5	-
13	P1	42.260	12.291	16.723	142.666	X 裂片	片付	4.1	-
13	P2	42.776	12.833	16.530	142.622	X 裂片	片付	4.9	-
13	Q1	43.899	12.784	16.882	142.344	X 破片	片付	183.9	-

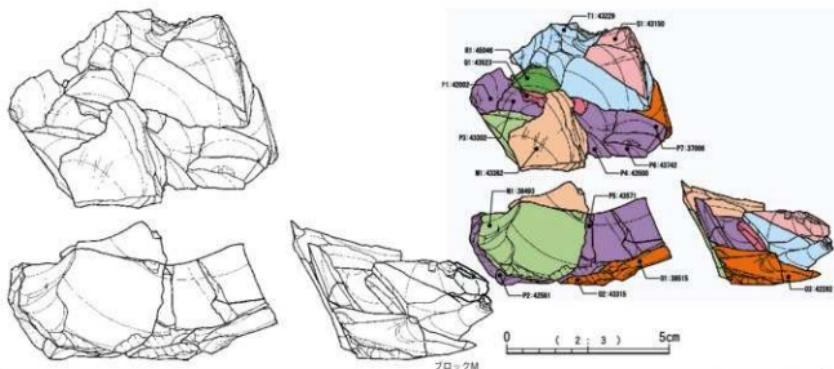


第69図 接合資料No13 (3)

劉謙順 :  $(A1 \rightarrow B1) \rightarrow C1 \rightarrow C2 \rightarrow (D1 + D2 + D3) \rightarrow (E1 \rightarrow E2 \rightarrow E3 \rightarrow E4) \rightarrow [F1 \rightarrow (G1 \rightarrow H1)] \rightarrow i1 \rightarrow i2 \rightarrow i3$   
 $\rightarrow (j1 + j2) \rightarrow ([j3 \rightarrow j4 \rightarrow j5 \rightarrow j6] \rightarrow [j7]) \rightarrow j8 \rightarrow j9 \rightarrow [K1 \rightarrow L1 \rightarrow M1 \rightarrow N1 \rightarrow (O1 + O2 + O3)]$   
 $\rightarrow (P1 + P2) \rightarrow (P3 + P4 + P5) \rightarrow (P6 + P7) \rightarrow Q1 \rightarrow R1 \rightarrow S1 \rightarrow T1$



第70図 接合資料No14 (1)



規格	規格名	尺寸(No.)	長さ	幅	厚さ	重量	単位	備考
14	O1	38.515	12.648	16.798	142.769	X	脚部	6.5
14	O2	43.135	22.144	16.380	142.518	X	脚部	2.4
14	O3	42.282	17.728	16.792	142.697	X	脚部	0.9
P1	P1	42.002	11.899	14.918	142.646	X	脚部	5.2
P2	P2	42.561	11.899	17.576	142.573	X	脚部	2.3
P3	P3	43.302	12.615	15.952	142.588	X	脚部	13.6
P4	P4	43.500	13.434	14.780	142.546	X	脚部	7.0
P5	P5	43.571	12.166	16.582	142.550	X	脚部	1.2
P6	P6	43.742	11.961	16.543	142.559	X	脚部	2.6
P7	P7	37.006	11.624	15.296	142.811	X	脚部	2.2
Q1	Q1	43.523	11.761	16.913	142.584	X	脚部	6.4
R1	R1	45.048	11.761	15.108	142.509	X	脚部	1.1
S1	S1	43.150	12.005	16.778	142.583	X	脚部	5.3
T1	T1	32.229	12.706	16.219	142.590	X	脚部	35.9

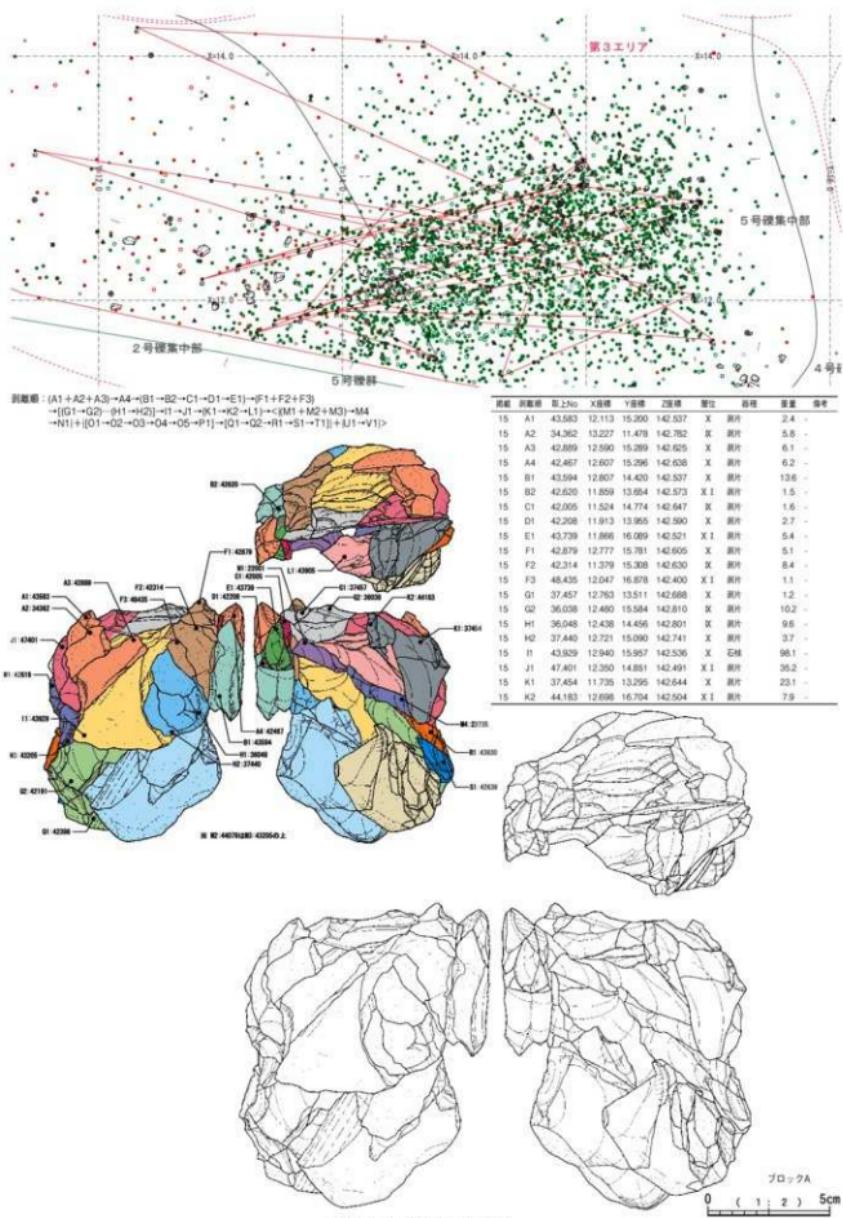


### 第71回 接合資料No14 (2)

て石核が分割され、分割片それぞれで剥片剥離が進行している。接合資料No16(第74図)

20

石核接合資料である。剥離の最終段階に近く、表裏を頻繁に反転させながら横広の剥片剥離を行っている。



第72図 接合資料No15 (1)